

大臣官房

大臣官房ハ左ニ掲クル事務ヲ掌理ス

- 一 機密文書ニ關スル事
- 二 機密事務ニ關スル事
- 三 大臣ノ官印及省印ヲ管守スル事
- 四 雇外國人身分ニ關スル事

總務局

總務局ニ於テハ參事官書記官ヲシテ民事刑事職員會計記錄往復等ノ事務ヲ分掌セシム

參事官

參事官ハ左ニ掲クル事務ヲ掌理ス但事務ノ必要ニ依リ課長ヲ兼務シ又臨時命ヲ受ケ其事ヲ助クルコトアルヘシ

- 一 民事刑事其他ノ法律命令ニ關スル事項
- 二 民事刑事ノ裁判執行監視ニ關スル事項
- 三 死刑執行再審ノ訴非常上告特赦減刑復權假出獄免幽閉監視假免ニ關スル事項
- 四 外國文書翻譯ニ關スル事項

書記官

書記官ハ左ニ掲クル事務ヲ掌理シ且各課ノ長ヲ兼務ス

- 一 總務局長ノ官印ヲ管守スル事
- 二 裁判所ノ設立廢止及ヒ管轄區域立ニ其變更ニ關スル事項
- 三 各課ノ主管ニ屬セサル事項若クハ各課ニ關係シテ其主查ヲ定メ難キ事項
- 四 判事檢事ヨリ進達スル報告ノ調査ニ關スル事項

職員課

職員課ハ左ニ掲クル事務ヲ掌理ス

- 一 所部官吏ノ進退身分ニ關スル事項
- 二 裁判所附屬吏員及ヒ代言人ノ身分ニ關スル事項
- 三 判事檢事出張ニ關スル事項
- 四 判事檢事登用試験文官普通試験及ヒ公證人代言人ノ試験ニ關スル事項

會計課

會計課ハ左ニ掲クル事務ヲ掌理ス

- 一 本省所管ノ經費及ヒ諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
- 二 本省所管ノ官有財産及ヒ物品ニ關スル事項
- 三 保管金雜部金ノ收支及ヒ領置物品ノ出納ニ關スル事項
- 四 廳内取締ニ關スル事項
- 五 雇人使役監督ニ關スル事項

第一類 第四章 司法省 事務分掌規定

記録課

記録課ハ左ニ掲クル事務ヲ掌理ス

- 一 統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ノ調整ニ關スル事項
 - 二 翻譯書又ハ草案類ノ印刷ニ關スル事項
 - 三 省中一切公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
- 往復課

往復課ハ左ニ掲クル事務ヲ掌理ス

- 一 公文書類及ヒ成案文書ノ接受發送ニ關スル事項
- 二 文書ノ淨寫ニ關スル事項
- 三 官報局ニ報告スヘキ官報掲載ニ關スル事項

沿革要領

明治元年二月五日刑法事務局ヲ置キ職制ヲ定メ督、正權輔、正權判事等ヲ置ク○同年閏四月二十一日刑法事務局ヲ廢シ更ニ刑法官ヲ建テ監察拘捕亡ノ三司ヲ管ス本官ニ正副知官事、正權判官事等ヲ置キ三司ニ知司事、正權判司事等ヲ置キ其職制ヲ定ム○同年十月十八日刑法官支衙ヲ東京ニ置ク是日會計局所管ノ舊評定所ヲ本官ニ屬ス○同年同月某日小監察ヲ監察司ニ置ク○二年五月二十二日監察司ヲ廢ス京都監察司舊ノ如シ是日彈正臺ヲ置キ尹弼、大少忠、大少疏、史生、巡察彈正ノ職員ヲ設ケ等級ヲ定ム○同年七月八日刑法官ヲ廢シ更ニ刑部省ヲ置キ卿、大少輔、正權大少丞、正權大少録、大中少判事、大中少解部、速部長、同助長、速部等ノ職員ヲ設ケ職制ヲ定ム是日彈正臺職制ヲ定メ尹、弼、正權

大少忠、大少疏、大少巡察、巡察廳等ヲ置キ京都ニ出張所ヲ設ケ尋テ八月二十日官位相當ヲ更定シ彈正臺ニ大少弼ヲ置ク○同年同月二十七日京都留守刑部省ヲ廢ス○同年同月某日彈正臺職務條則ヲ定ム○同年八月十七日刑部省所管ノ京都監察司ヲ廢ス○同年九月八日彈正臺彈例ヲ定ム○同年十一月五日刑部省中ニ速部司ヲ置キ省員ヲ正、大少佐、伍長、速部トス○同年十二月二日刑部省中ニ囚獄司ヲ置ク○同年同月八日東京府所屬ノ囚獄ヲ刑部省ニ屬ス○三年二月二十八日彈正臺彈例ヲ停止ス○同年四月二十九日彈正臺大少巡察ニ權官ヲ設ケ定員ヲ定ム○同年五月十日彈正臺彈例ヲ改正ス○同年七月十三日神主等ノ訴訟事務ヲ刑部省ノ管理トス○同年同月二十五日京都出張彈正臺ヲ廢ス○四年正月二十三日彈正臺中權大疏、權少疏ヲ置ク○同年二月九日彈正臺京攝巡察出張所ヲ大坂ニ移シ彈正臺出張所ト改稱ス○同年七月九日刑部省並彈正臺ヲ廢シ更ニ司法省ヲ置キ舊刑部省ノ囚獄司ヲ假ニ本省ニ屬ス尋テ七月十日職制ヲ定ム○同年八月十日官制ヲ改定シ本省ニ囚獄司ヲ置キ卿、大少輔、大中少判事、正權管事、大中少解部、正權大中少録ヲ本省ニ正權正、正權大中少令史ヲ司ニ置ク○同年同月十八日囚獄司ヲ廢シ東京府所屬ノ聽斷獄事務ヲ本省ノ管理トス是日捕亡囚獄ノ事務ヲ地方官ニ屬ス○同年九月十四日大藏省ノ聽訟事務ヲ本省ノ管理トス○同年同月二十七日明法寮ヲ置ク○同年十月二十四日判事解部ノ等級ヲ改メ管事ヲ廢ス○五年五月百六十五號ヲ以テ大少丞ヲ置キ等級ヲ定ム○同年八月三日假ニ職制並事務章程ヲ定ム是日第二百十八號ヲ以テ官等ヲ改メ正權大中少檢事、檢部ヲ置キ明法寮ニ正權頭、正權助、正權大中少法官、正權大中少屬ヲ置ク○同年同月二十日東京府所屬ノ選卒ヲ本省ノ管理トス○同年同月第二百四十三號ヲ以テ警報寮ヲ置キ職員ヲ正權頭、正權助、正權大中少屬、正權大少警視、警部ト爲ス○同年十月第三十四號ヲ以テ警保寮中ニ巡查ヲ置キ等級ヲ定ム○同年十一月二十四日職務定例第六十七條中ヲ改正ス○同年十二月十日職制第四十六條ヲ取消ス○六年一月三十一日事務章程中ニ司法官吏犯罪處分ノ條ヲ追加ス○同年十二月十四日職務定例第四十四條ヲ改正ス○七年一月九日警保寮ヲ內務省ニ屬ス○同年同月十日職制中新設內務省職制章程ニ抵觸スル條件ヲ取消ス○同年同月第十四號達ヲ以テ檢事職制章程ヲ定メ正權大中少檢事ノ職員ト爲ス○八年五月第七十一號布告ヲ以テ明法寮ヲ廢ス○同年同月四日司法省並檢事職制章程ヲ更定ス○同年同月第七

十二號布告ヲ以テ司法省檢事官等ヲ改ム○同年同月第七十三號布告ヲ以テ正權大少判事及解部ヲ廢シ更ニ判事七等判事補四級ヲ置キ官等ヲ定ム●十年一月第四號達ヲ以テ正權大少丞以下ヲ廢シ更ニ書記官屬官ヲ置ク○同年同月第四號達ヲ以テ四等官以下等級ヲ改メ官等ヲ十七等ニ分ツ○同年三月第三十二號達ヲ以テ本省職制章程ヲ改定シ卿輔書記官屬ト爲シ又檢事職制章程ヲ定メ檢事長檢事檢事補ノ職員ト爲ス○同年六月第四十六號達ヲ以テ一等判事以下四級判事補迄并大檢事以下四級檢事補迄ヲ廢シ更ニ判事判事補檢事長檢事檢事補ヲ置ク●十二年十二月第五十六號達ヲ以テ檢事長ヲ廢シ更ニ勅任檢事ヲ置ク●十三年十二月第六十號達ヲ以テ職制並事務章程ヲ改定ス●十四年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程通則ヲ定ム●十六年十二月第六十五號達ヲ以テ判事檢事判事補檢事補相當官ヲ定ム●十七年一月第十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正ス●十八年十二月第六十九號達ヲ以テ各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ司法大臣ヲ置ク●十九年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム●廿年十月二月勅令第六十一號ヲ以テ司法省官制中ヲ改正ス●二十三年六月勅令第百號ヲ以テ司法省官制ヲ改正ス○同年十月勅令第二百二十二號ヲ以テ司法省官制第五條中ニ追加ス●二十四年七月勅令第九十二號ヲ以テ司法省官制ヲ改正ス

○文部省官制

二十四年七月二十四日
勅令第九十三號

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十三號

文部省官制

- 第一條 文部大臣ハ教育學問ニ關スル事務ヲ管理ス
- 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲グルモノ、外左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 公立學校職員ノ進退身分ニ關スル事項

- 二 教員檢定ニ關スル事項
- 三 教科用圖書檢定ニ關スル事項
- 四 教育上必要ナル圖書ノ編纂ニ關スル事項
- 五 教員退隱料及遺族扶助料ニ關スル事項
- 六 雇外國人ニ關スル事項
- 七 海外留學生ニ關スル事項
- 八 訴願ニ關スル事項
- 第三條 文部省專任參事官ハ二人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス
- 第四條 文部省ニ左ノ二局ヲ置ク
 - 專門學務局
 - 普通學務局
- 第五條 專門學務局長、普通學務局長ハ勅任トス
- 第六條 專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 大學校及高等專門學校ニ關スル事項
 - 二 中學校ニ關スル事項
 - 三 專門學校及技藝學校ニ關スル事項
 - 四 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

第一類 第四章 文部省

- 五 高等圖書館天文臺等ニ關スル事項
 - 六 學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項
 - 七 學術技藝ノ保護獎勵ニ關スル事項
 - 八 學士會院及學術會ニ關スル事項
 - 九 本局ノ主管ニ屬スル事項ニ付テ府縣郡市町村ノ行政ニ關スル事項
- 第七條 普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 師範學校ニ關スル事項
 - 二 小學校ニ關スル事項
 - 三 高等女學校ニ關スル事項
 - 四 幼稚園普通圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校ニ關スル事項
 - 五 教育博物館及教育會ニ關スル事項
 - 六 通俗教育ニ關スル事項
 - 七 學齡兒童ノ就學ニ關スル事項
 - 八 郡視學及市町村學務委員ニ關スル事項
 - 九 本局ノ主管ニ屬スル事項ニ付テ府縣郡市町村ノ行政ニ關スル事項
- 第八條 文部省ニ視學官五人ヲ置ク奏任トス學事ノ視察及學校檢閱ノ事ヲ掌ル
視學官ハ特ニ命ヲ承ケ他ノ事務ヲ兼掌ス

- 第九條 文部省ニ技師一人ヲ置ク奏任トス學校建築ニ關スル事ヲ掌ル
 - 第十條 文部省試補ハ三人ヲ以テ定員トス
 - 第十一條 文部省ニ技師試補一人ヲ置ク
 - 第十二條 文部省屬ハ百人ヲ以テ定員トス
- 附則

第十三條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

●參照舊令

○文部省官制 二十三年六月二十日 勅令第百一號

- 第一條 文部大臣ハ教育學問ニ關スル事務ヲ管理ス
- 第二條 文部省ニ總務局ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外教科用圖書ノ檢定教育上必要ナル圖書ノ編纂及外國圖書ノ翻譯
其他各局ノ所掌ニ屬セサル事務ヲ掌ラシム
- 第三條 文部省專任參事官專任書記官ハ各四人ヲ以テ定員トス
- 第四條 文部省ニ左ノ諸局ヲ置ク

- 專門學務局
 - 普通學務局
 - 會計局
 - 第五條 專門學務局長及普通學務局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ會計局長ハ奏任一等以下三等以上トス
 - 第六條 專門學務局ニ於テハ大學校中學校專門學校技藝學校高等圖書館學士會院學術會及學位ニ關スル事務ヲ掌ル
 - 第七條 普通學務局ニ於テハ師範學校小學校幼稚園女學校普通圖書館教育會及通俗教育ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第一類 第四章 文部省

第八條 會計局ニ於テハ本省及所轄學校ノ豫算決算及省中ノ會計事務並所轄ノ地所建物ニ關スル事項ヲ掌ル
第九條 文部省ニ視學官五人ヲ置キ委任トシ專門學務局及普通學務局ニ屬シテ學事ノ視察及學校檢閱ノ事ヲ掌ラシム
又課長ヲ兼テシムルコトヲ得

第十條 文部省ニ技師二人ヲ置キ會計局ニ屬シテ學校建築ニ關スル事ヲ掌ラシム

第十一條 文部省ニ試補四人及技師試補一人ヲ置ク

第十二條 文部省ニ屬百三十人及技手四人ヲ置ク

○分課規程 官報 二十四年八月十七日

文部省分課規程

第一條 文部大臣官房ノ事務ハ祕書官ノ主掌ニ屬スルモノ、外左ノ七課ヲ置キ之ヲ分掌

セシム

會計課

文書課

圖書課

教員檢定課

教員恩給課

報告課

記錄課

祕書官ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 機密ノ文書ニ關スルコト

二 機密ノ事務ニ關スルコト

三 大臣次官ノ官印及省印ノ管守

四 職員ノ進退身分並服務ニ關スルコト

五 雇外國人ニ關スルコト

六 祝日祭日等ノ儀式ニ關スルコト

會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スルコト

二 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スルコト

三 學校建築ニ關スルコト

文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 成按ノ審査及公文ノ起草ニ關スルコト

二 公文書類及成按文書ノ接受發送ニ關スルコト

三 文書ノ翻譯ニ關スルコト

四 海外留學生ニ關スルコト

五 訴願ニ關スルコト

六 本省及所轄各部ノ處務規程等ニ關スルコト

第一類 第四章 文部省 分課規程

七 他局課ニ屬セサル事務

圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 教科用圖書檢定ニ關スルコト
- 二 教育上必要ナル圖書ノ編纂ニ關スルコト
- 三 教員檢定課ニ於テハ教員檢定ニ關スルコトヲ掌ル
- 四 教員恩給課ニ於テハ教員退隱料遺族扶助料ニ關スルコトヲ掌ル
- 五 報告課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 統計報告ノ調製ニ關スルコト
 - 二 統計局ヘ送致スヘキ統計材料ニ關スルコト
 - 三 官報材料ニ關スルコト
 - 四 教育博覽會ニ關スルコト

記録課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 公文書類ノ編纂保存ニ關スルコト
- 二 報告書年報等ノ蒐集配付ニ關スルコト
- 三 參考圖書ノ管理ニ關スルコト

第二條 專門學務局ニ第一課第二課第三課第四課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第一課ニ於テハ大學校專門學校高等各種學校學士會院學術會天文臺學位稱號及學術技

藝ノ保護獎勵等ニ關スルコトヲ掌ル

- 第二課ニ於テハ中學校及之ニ準スヘキ各種學校並高等圖書館等ニ關スルコトヲ掌ル
- 第三課ニ於テハ農學校商業學校工業學校美術學校音樂學校及之ニ類スル各種學校等ニ關スルコトヲ掌ル
- 第四課ニ於テハ本局ノ主管ニ屬スル事項ニ付テ府縣郡市町村ノ行政ニ關スルコト及他課ニ屬セサル事務ヲ掌ル

第三條 普通學務局ニ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 師範學校小學校高等女學校盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校ノ教科目修業年限教則校則教科用圖書器具等ニ關スルコト
- 二 幼稚園ニ關スルコト
- 三 通俗教育ニ關スルコト
- 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 師範學校小學校高等女學校盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校ノ設置廢止經濟及設備等ニ關スルコト
 - 二 郡視學及市町村學務委員ニ關スルコト
 - 三 本局ノ主管ニ屬スル事項ニ付テ府縣郡市町村ノ行政ニ關スルコト

第一類 第四章 文部省 分課規程

第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 師範學校小學校高等女學校盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校長教員及生徒等ニ關スルコト
- 二 學齡兒童ノ就學及家庭教育等ニ關スルコト
- 三 普通圖書館教育博物館及教育會等ニ關スルコト
- 四 他課ニ屬セサル事務

第四條 以上各課ノ外別ニ文部省ニ視學部ヲ置ク

視學部ハ視學官及視學委員ヲ以テ組織シ學事ノ視察及學校檢閲ニ關スルコトヲ掌ル

○帝國大學職員定員 勅令第二十七號
朕茲ニ帝國大學職員定員ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第三百三十六號

第一條 帝國大學職員定員左ノ如シ

- 總長 一人
- 分科大學長 六人
- 教頭 六人
- 書記官 專任二人

舍監

專任二人

書記

七十二人

技手

百十八人

第二條 教授助教ノ人員ハ學科ノ種類其受持ノ都合ニ依リ隨時別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

教授ノ中特ニ勅任トナスモノハ十二人以内トス

第三條 總長ハ須要ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ教授助教ノ外外國教師ヲ雇入レ又ハ俸給豫算定額内ニ於テ講師ヲ囑託シ及雇員ヲ使用スルコトヲ得

附則

第四條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第二百七十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●參照舊令

帝國大學職員官等及定員 二十三年十一月六日 勅令第二百七十號

總長 一人 勅任

分科大學長 六人

教頭 六人

分科大學長及教頭ハ奏任ニ等以上ノ教授ヨリ兼任ス其官等ハ本官ニ同シ

第一類 第四章 文部省 帝國大學職員定員

教授 百十八人 奏任四等以上
 特ニ勅任トナスモノハ勅任二等トス但人員十二人以内トス
 書記官 三人 奏任
 助教授 六十七人 奏任四等以下
 舍監 六人 奏任四等以下
 書記 七十六人 判任
 技手 百十二人 判任

○帝國大學教授助教定員 二十四年七月二十四日 勅令第四百四十號

朕茲ニ帝國大學教授助教ノ人員ニ關スル件ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第四百四十號

明治二十四年勅令第二百二十六號第二條ニ依リ教授助教ノ人員ヲ定ムルコト左ノ如シ但兼任ハ此限ニアラス

教授 七十五人
 助教授 五十人

○文部省直轄諸學校官制 二十四年七月二十四日 勅令第四百三十七號

朕文部省直轄諸學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四百三十七號

文部省直轄諸學校官制

通則

第一條 文部省直轄高等師範學校女子高等師範學校高等商業學校高等中學校東京工業學校東京美術學校東京音樂學校東京盲啞學校ニ各左ノ職員ヲ置ク但教官ノ定員ハ學科ノ種類其受持ノ都合及生徒ノ員數ニ應シ隨時別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム又書記ノ定員並特ニ各學校ニ就キ規定スルモノハ各學校ノ部ニ之ヲ掲ク

學校長 一人 奏任
 但高等師範學校長及女子高等師範學校長ハ特ニ勅任トナスコトアルヘシ

教授 奏任
 助教授 判任
 舍監 奏任
 書記 判任
 專任二人

第二條 學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第三條 教授ハ生徒ノ教授ヲ掌ル
 助教授ハ教授ノ職掌ヲ助ク

第一類 第四章 文部省 帝國大學教授助教定員 文部省直轄諸學校

第四條 舍監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第五條 書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第六條 學校長ハ校務上ノ須要ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ教官ノ外外國教師ヲ雇入レ又ハ俸給豫算定額内ニ於テ講師ヲ囑託シ及雇員ヲ使用スルコトヲ得

第七條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ文部大臣之ヲ命ス

高等師範學校

第八條 高等師範學校ハ師範學校中學校及小學校ノ教員ヲ養成スル所トス

第九條 高等師範學校ニ附屬中學校及附屬小學校ヲ置ク

第十條 高等師範學校ニ東京教育博物館ヲ附設ス

東京教育博物館ハ普通教育ニ關スル諸般ノ物品ヲ陳列シ參考ニ便スル所トス

第十一條 高等師範學校ニ特ニ左ノ職員ヲ置ク

教諭 奏任

附屬中學校生徒ノ授業ヲ掌ル

助教諭 判任

教諭ノ職掌ヲ助ク

訓導 判任

附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌ル

技手 判任

上官ノ命ヲ承ケ學科ニ關スル技術ニ從事ス又特ニ授業ヲ助ケシムルコトアルヘシ
第十二條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ附屬學校主事及東京教育博物館主事ヲ命シ其事務ヲ掌ラシム

第十三條 書記ハ九人技手ハ五人ヲ以テ定員トス

女子高等師範學校

第十四條 女子高等師範學校ハ女子師範學校高等女學校及小學校ノ女教員並幼稚園ノ保姆ヲ養成スル所トス

第十五條 女子高等師範學校ニ附屬高等女學校附屬小學校及附屬幼稚園ヲ置ク

第十六條 女子高等師範學校ニ特ニ左ノ職員ヲ置ク

教諭 奏任

附屬高等女學校生徒ノ授業ヲ掌ル

助教諭 判任

教諭ノ職掌ヲ助ク

訓導 判任

附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌ル

第一類 第四章 文部省 文部省直轄諸學校

保姆 判任

附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十七條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ附屬學校主事及附屬幼稚園主事ヲ命シ其事務ヲ掌ラシム

第十八條 書記ハ六人ヲ以テ定員トス

高等商業學校

第十九條 高等商業學校ハ商務ヲ處理經營スヘキ者又ハ商業科ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二十條 高等商業學校ニ附屬主計學校ヲ置ク

附屬主計學校ハ官廳及銀行會社等ノ會計事務ニ關スル必須ノ學科及實務ヲ教授スル所トス

第二十一條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ附屬主計學校主事ヲ命シ其事務ヲ掌ラシム

第二十二條 書記ハ十人ヲ以テ定員トス

高等中學校

第二十三條 高等中學校ハ高等ノ普通教育ヲ授ケ及大學並高等專門學科ノ學習ニ須要ナル豫備ヲ爲サシムル所トス

高等中學校ハ全國ヲ五區ニ分畫シ每區ニ一校ヲ置キ第一高等中學校第二高等中學校第

二高等中學校第四高等中學校第五高等中學校トス其區域ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル
第二十四條 高等中學校ハ法科文科理科醫科工科農科商科等ノ專門學部ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ專門學部主事ヲ命シ部務ヲ掌ラシム

第二十六條 諸學校通則第一條ニ依リ文部大臣ノ管理ニ屬スル高等中學校ハ山口高等中學校及鹿兒島高等中學校トス

第二十七條 山口高等中學校及鹿兒島高等中學校トス
第二十八條 各高等中學校書記ノ定員左ノ如シ

第一高等中學校 十四人

第二高等中學校 六人

第三高等中學校 十三人

第四高等中學校 六人

第五高等中學校 十人

山口高等中學校 五人

鹿兒島高等中學校 五人

東京工業學校

第二十九條 東京工業學校ハ職工長又ハ工業科ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
第一類 第四章 文部省 文部省直轄諸學校

第三十條 東京工業學校ニ附屬職工徒弟學校ヲ置ク
附屬職工徒弟學校ハ主トシテ木工若クハ金工ヲ業トスル者ノ子弟ニ實業ヲ授ケ適良ノ

職工ヲ養成スル所トス
第三十一條 東京工業學校ニ舍監ヲ置カス

第三十二條 東京工業學校ニ特ニ技手ヲ置ク判任トス
技手ハ上官ノ命ヲ承ケ學科ニ關スル技術ニ従事ス又特ニ授業ヲ助ケシムルコトアルハ

第三十三條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ附屬職工徒弟學校主事ヲ命シ其事務ヲ掌ラシム

第三十四條 書記ハ六人技手ハ十八人ヲ以テ定員トス

東京美術學校

第二十五條 東京美術學校ハ繪畫彫刻建築及美術工藝ノ技術者又ハ普通ノ圖畫教員タル
ヘキ者ヲ養成スル所トス

第二十六條 東京美術學校ニ舍監ヲ置カス
第二十七條 東京美術學校ニ特ニ技手ヲ置ク判任トス

技手ハ上官ノ命ヲ承ケ學科ニ關スル技術ニ従事ス又特ニ授業ヲ助ケシムルコトアルハ
第三十八條 書記ハ五人技手ハ二人ヲ以テ定員トス

東京音樂學校

第二十九條 東京音樂學校ハ音樂師又ハ音樂教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

第四十條 東京音樂學校ニ舍監ヲ置カス
第四十一條 書記ハ四人ヲ以テ定員トス

東京盲啞學校

第四十二條 東京盲啞學校ハ盲啞教育法ノ模範ヲ示シ兼テ盲啞ヲ教育スル所トス
第四十三條 東京盲啞學校ニ第一條ニ定ムル所ノ教授助教授及舍監ヲ置カス左ノ職員ヲ
置ク

教諭 奏任
助教諭 判任

第四十四條 教諭ハ生徒ノ授業ヲ掌リ助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ク
第四十五條 書記ハ二人ヲ以テ定員トス

附則

第四十六條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○文部省直轄諸學校教官人員 勅令第四百一十一號
朕茲ニ文部省直轄諸學校教官ノ人員ニ關スル件ヲ裁可ス

御名 御璽
第一類 第四章 文部省 文部省直轄諸學校教官人員

勅令第四百一十一號
明治二十四年勅令第三百二十七號文部省直轄諸學校官制第一條ニ依リ文部省直轄諸學校教
官ノ人員ヲ定ムルコト左ノ如シ但兼任ハ此限ニアラス

- 高等師範學校
 - 教授 十五人
 - 助教授 四人
 - 教諭 五人
 - 助教諭 五人
 - 訓導 十人
- 女子高等師範學校
 - 教授 十二人
 - 助教授 四人
 - 教諭 五人
 - 助教諭 十人
 - 訓導 十二人
 - 保母 五人
- 高等商業學校

- 教授 十五人
- 助教授 二十二人
- 高等中學校

- 第一高等中學校 教授 四十五人 助教授 十五人
- 第二高等中學校 教授 二十三人 助教授 十三人
- 第三高等中學校 教授 三十五人 助教授 二十人
- 第四高等中學校 教授 二十人 助教授 十五人
- 第五高等中學校 教授 二十五人 助教授 十五人
- 山口高等中學校 教授 十人 助教授 六人
- 鹿兒島高等中學校 教授 十人 助教授 六人
- 東京工業學校 教授 十八人 助教授 六人

- 東京美術學校
 - 教授 十八人
 - 助教授 十三人
- 第一類 第四章 文部省 文部省直轄諸學校教官人員
 - 教授 十一人
 - 助教授 十八人

東京音樂學校

教授 五人

助教授 五人

東京盲啞學校

教諭 三人

助教諭 三人

○尋常師範學校官制 十九年十月六日 勅令第六十五號

朕尋常師範學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十五號

尋常師範學校官制

第一條 尋常師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

教頭

教諭

助教諭

幹事

舍監

訓導

書記

第二條 學校長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ整理シ教頭以下ノ職員ヲ統督ス但學校長ヲ

置カサルトキハ學校長補ヲ置キ學校長ノ職務ヲ掌ラシム

第三條 教頭ハ教諭中ヨリ之ニ兼任シ學校長ノ監督ニ屬シ教務ヲ整理シ教室ノ秩序ヲ保

持スルコトヲ掌ル

第四條 教諭ハ學校長及教頭ノ監督ニ屬シ教授ノ事ヲ掌ル

第五條 助教諭ハ學校長及教頭ノ監督ニ屬シ教諭ノ職掌ヲ助ク

第六條 幹事ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ幹理ス

第七條 舍監ハ學校長及幹事ノ指揮ヲ承ケ寄宿舎ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 訓導ハ學校長及教頭ノ監督ニ屬シ附屬小學校生徒教授ノ事ヲ掌リ兼テ師範生徒

實地練習ノ事ヲ助ク

第九條 書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十條 教諭助教諭訓導ノ員數ハ學科ノ輕重及生徒ノ員數ニ應シテ之ヲ定ム

第十一條 學校長及教頭ハ奏任ノ待遇ヲ受ケ學校長補以下ハ判任ノ待遇ヲ受ク但尋常師

範學校職員ハ勅令第六號高等官官等俸給令勅令第三十六號判任官官等俸給令及「明治

第一類 第四章 文部省 尋常師範學校

十七年太政官達恩給令ノ限ニアラス

○東京圖書館官制二十四年七月二十四日勅令第三百三十八號

朕東京圖書館官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三百三十八號

東京圖書館官制

第一條 東京圖書館ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ内外古今ノ圖書記録ヲ蒐集保存シ及衆庶ノ

第二條 東京圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長 一人 奏任

司書 六人 判任

書記 三人 判任

第三條 館長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 司書ハ館長ノ命ヲ承ケ圖書ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 書記ハ館長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第六條 館長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第七條 文部大臣ハ館務上ノ須要ニ依リ東京圖書館ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ

其委員ハ文部大臣之ヲ命ス

附則

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○市町村立小學校長及教員名稱及待遇(日本規則全書)

●沿革要領

明治元年三月十九日學習院ヲ開ク○同年六月二十六日醫學所ヲ江戸ニ置ク○同年同月二十九日昌平校ヲ復興ス○同年八月二日昌平校並醫學所ヲ東京府ニ屬ス○同年同月十七日大學寮代ヲ開設ス○同年九月十二日開成所ヲ復興ス○同年同月十六日皇學所漢學所ヲ京都ニ置ク○同年十月十九日昌平校ヲ行政官ニ屬ス○同年十二月十日昌平開成二校並醫學校ニ教授ヲ置キ又皇學所ノ規則ヲ定ム○同年同月二十五日醫學所ヲ昌平校ノ所轄トス○二年二月某日醫學所ヲ改メテ醫學校兼病院ト稱ス○同年三月二十日府縣學校取調局ヲ昌平校ニ設ケ史料編輯國史校正局ヲ和學所ニ置ク○同年五月十日東京府所屬ノ病院ヲ昌平校ニ屬ス○同年六月十四日府縣學校取調局ヲ罷ム○同年同月十五日昌平校ヲ改メテ大學校ト稱シ開成醫學ノ二校ヲ屬ス○同年七月八日大學校官職ヲ大少監、大中少博士、大中少助教等ト定ム○同年八月二十日官位相當ヲ更定シ大學校ニ別當及正權大少丞ヲ置ク○同年九月二日京都皇學所漢學所ヲ廢ス○同年十月二十九日國史編輯局ヲ大學校ニ置ク○同年十一月五日大學校中大少主簿官位相當ヲ改メ權大少主簿ヲ置ク○同年同月十二日大學校ノ職員ヲ別當大少監、正權大少丞、正權大少主簿ト定ム○同年十二月十七日大學校ヲ大學ト改メ開成所ヲ大學南校醫學校ヲ大學東校ト稱ス○同年同月二十二日國史編輯局ヲ廢ス○三年二月十日天文曆道ヲ大學ニ管セシム○同年同月二十八日大坂醫學校病院並長崎病院ヲ大學東校ニ管セシム○同年三月十二日大學寮長ヲ改メテ倉長ト稱ス○同年四月三日大坂洋學所並化學所ヲ大學南校ニ屬ス○同年七月十二日學制ヲ改正シ假リニ大學本校ヲ開ツ○同年八月十四日天文曆道局ヲ星學局ト改稱ス○同年十月十八日造幣局所轄ノ大坂醫學所ヲ管ス○同年同月

第一類 第四章 文部省 東京圖書館 沿革要領

二十四日大坂洋學所ヲ改メテ開成所ト稱シ理學所ヲ開成所ノ分局ト爲ス○同年閏十月九日箱館病院ヲ大學東校ニ屬ス○同年同月二十七日京都星學局ノ支局ヲ廢ス○四年六月三日高知藩ノ病院ヲ大學東校ニ屬ス○同年七月十八日大學ヲ廢シテ文部省ヲ置キ東南二校ヲ管ス○同年同月二十一日東南兩校ノ大學ノ二字ヲ省キ單ニ東校南校ト稱セシム○同年同月二十四日大中小博士、大中小教授、正權大中小助教ノ職員ヲ置キ官位相當ヲ定ム○同年八月四日大史局所管書籍新刻事務ヲ管ス○同年同月七日文部卿職制ヲ定ム○同年同月十日文部省官制ヲ定メ卿、大少輔、大少丞、正權大中小錄及大中小博士、大中小教授、大中小助教ノ職員ト爲ス○同年同月十九日東京府中小學並洋學所ヲ管ス○同年九月十八日大少監ヲ置キ官等ヲ定メ又編輯寮ヲ置キ二等寮ト爲ス○同年十一月十四日長崎縣所屬ノ病院ヲ管ス○同年同月二十三日長崎廣運館ヲ管ス○同年同月二十五日各府縣ノ學校ヲ直轄ス○五年正月第十六號ヲ以テ文部省官等ヲ改正シ編輯寮ニ正權頭、正權助、正權大中小屬ト爲ス○同年同月二十八日博物館ヲ設ク○同年六月文部省號外達ヲ以テ博物館中書籍館ヲ置ク○同年八月文部省第十六號ヲ以テ東校ヲ改メテ醫學校第一大ト稱シ南校第一大及大坂開成所第四大長崎廣運館第六大ヲ以テ並ニ第一中學ト爲ス○同年九月第二十四號ヲ以テ文部省中大中小博士以下ノ教官ヲ廢シ更ニ大中小學ニ大中小教授、大中小助教ノ教官ヲ置キ一等ヨリ五等ニ至ル學士ノ稱號ヲ定ム○同年九月第二十六號ヲ以テ編輯寮ヲ廢シ大中小督學ヲ置ク○同年十月文部省第三十三號ヲ以テ第一大學區督學局本部ヲ置ク○同年同月第三十二號ヲ以テ文部省附屬ノ外國語學所ヲ管セシム○同年七月文部省第九十五號ヲ以テ督學ヲ博覽會事務局ニ合ス○同年五月五日外務省附屬ノ外國語學所ヲ管セシム○同年七月文部省第九十五號ヲ以テ督學局ヲ本省ニ置ク○同年八月第二十九號ヲ以テ大少監ヲ廢シ更ニ大中小視學書記ヲ置キ又教員ノ等次學位ノ稱號ヲ改テ博士、學士、得業生ノ三級ト爲ス○七年六月十三日海外留學生監督吏員ヲ置ク○八年二月九日復々博物館並立學校教員ノ等次ヲ定ム○同年六月第一號布告ヲ以テ督學局官等ヲ改メ大中小督學、大中小視學、大中小書記ト爲ス○同年二月二十八日衛生准列ノ事務ヲ內務省ニ屬ス○同年十二月第二號布告ヲ以テ督學局ノ官等ヲ改定シ更ニ

權大中小書記ヲ置ク○同年同月第二十七號達ヲ以テ職制章程ヲ定メ職員ヲ卿、大少輔、正權大少丞、正權大中小錄等及大中小督學視學書記ト爲ス○十年一月第三號達ヲ以テ各省中諸寮並大少丞以下ヲ廢シ更ニ書記官屬官ヲ置キ等級ヲ定ム○同年同月第四號達ヲ以テ四等官以下ノ等級ヲ改メ官等ヲ十七等二分ツ○同年同月第十五號達ヲ以テ督學局ヲ廢ス○同年二月二日文部省ヨリ東京博物館ヲ教育博物館ト改稱セシ旨ヲ報告ス○同年四月文部省第二號布達ヲ以テ東京開成學校東京醫學校ヲ合併シテ東京大學ト改稱シ同省第三號布達ヲ以テ東京英語學校ヲ東京大學豫備門ト改稱シテ大學ニ附屬ス○同年四月十八日小石川植物園ヲ東京大學ニ屬ス○同年八月第五十八號達ヲ以テ官立學校教員等次ヲ廢シ更ニ東京大學ニ教授、助教並員外教授ヲ置キ、東京豫備門其他各學校ニ訓導助訓ヲ置ク○十三年一月第七號達ヲ以テ職制章程ヲ改正シ職員ヲ卿、大少輔、正權大少書記官屬十等ト爲ス○同年七月文部省第一號布達ヲ以テ東京府書籍館ヲ管シ東京圖書館ト改稱ス○同年十二月第六十號達ヲ以テ職制並事務章程ヲ改正シ官立學務、地方學務、編輯、報告、會計ノ五局ヲ管ス○十四年三月第二十四號達ヲ以テ內記局ヲ置ク○同年六月第五十一號達ヲ以テ十年第五十一號達ヲ廢シ更ニ官立學校圖書館教育博物館職制及職員名稱等級ヲ定メ職員ヲ總理、長教授、助教、助教、助教諭、訓導、書記ト爲ス又第五十二號達ヲ以テ府縣立町村立學校職員名稱並准官等ヲ定ム○同年八月六日教育博物館ヲ東京教育博物館ト改稱ス○同年十一月十五日文部省ニ於テ官立學務地方學務內記ノ三局ヲ廢シ更ニ專門學務、普通學務、庶務ノ三局及內記課ヲ置キ事務掌理ヲ定ム○同年同月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ更ニ諸省事務章程通則ヲ定ム○十五年一月第八號達ヲ以テ府縣立學校書記ノ准官等ヲ定ム○同年同月第九號達ヲ以テ東京大學ニ幹事ヲ置キ職制俸給ヲ定ム○十七年一月第十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正ス○同年十月第九十二號達ヲ以テ東京大學ニ副總理ヲ置キ職制俸給ヲ定ム○十八年五月文部省第一號告示ヲ以テ農商務省所轄東京商業學校ヲ管ス○同年十二月第六十九號達ヲ以テ各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ文部大臣ヲ置ク○同年同月第七十號達ヲ以テ工部大學校ヲ管セシム○十九年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム○同年三月勅令第九號ヲ以テ帝國大學ノ職員官等ヲ定ム○同年四月勅令第三十五號ヲ以テ高等師範學校高等中學校東京商業學校ノ官制ヲ定ム○同年十月勅令第六十五

號ヲ以テ尋常師範學校官制ヲ定ム●二十年十月勅令第五十號ヲ以テ文部省官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第五十一號ヲ以テ高等師範學校高等中學校東京商業學校官制中東京商業學校トアルヲ高等商業學校ニ改メ其下ニ東京職工學校東京高等女學校東京美術學校東京音樂學校東京盲啞學校ノ三十一字ヲ加フ●二十一年十二月勅令第八十一號ヲ以テ天象觀測及曆書調製ノ事業ヲ文部省ノ管理トス●二十二年三月勅令第二十一號ヲ以テ東京圖書館官制ヲ定ム●二十三年三月勅令第四十二號ヲ以テ女子高等師範學校ヲ置ク○同年同月勅令第四十三號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制中ヲ改正加除ス○同年六月勅令第九十二號ヲ以テ東京農林學校ヲ帝國大學ノ分科大學トス○同年同月勅令第一百號ヲ以テ文部省官制ヲ改正ス○同年十月勅令第二百三十三號ヲ以テ文部省直轄學校官制ヲ改正ス○同第二百三十四號ヲ以テ東京圖書館官制中ヲ改正ス○同第二百六十四號ヲ以テ學士會院規程ヲ定ム○同年十一月勅令第二百六十九號ヲ以テ帝國大學令中ヲ改正ス○同第二百七十號ヲ以テ帝國大學職員官等定員ヲ定ム●二十四年六月勅令第七十三號ヲ以テ市町村立小學校長及教員名稱及待遇方ヲ定ム○同年七月勅令第九十三號ヲ以テ文部省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第三百三十六號ヲ以テ帝國大學職員定員制定帝國大學職員官等定員ヲ廢止ス○同年同月勅令第三百三十七號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制ヲ改正ス○同年同月勅令第三百三十八號東京圖書館官制ヲ改正ス○同年同月勅令第四百號ヲ以テ帝國大學教授助教ノ人員ヲ定ム○同年同月勅令第四百一號ヲ以テ文部省直轄諸學校教官ノ人員ヲ定ム

○農商務省官制

二十四年七月二十四日
勅令第九十四號

朕農商務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十四號

農商務省官制

第一條 農商務大臣ハ農、商、工、水產、林野、鑛山、發明、意匠、商標及地質ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外内外博覽會及共進會、農商工諮詢會、圖書並報告書類ノ刊行管理及褒賞其他各局ノ主掌ニ屬セサル事務ヲ掌ル

第三條 農商務省專任參事官ハ三人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第四條 參事官ハ通則ニ掲クルモノ、外臨時命ヲ承ケ鑛山山林其他農商工ノ事ヲ巡視ス

第五條 農商務省ニ左ノ五局一所ヲ置ク

農務局

商工局

山林局

鑛山局

特許局

地質調査所

第六條 農務局長、商工局長、山林局長ハ勅任トシ鑛山局長、特許局長ハ奏任トス

地質調査所長ハ局長又ハ技師ヲ以テ之ヲ兼ネシム

第七條 農務局ニ於テハ農業、農會、農業組合、農業土木、農產物蟲害豫防及驅除、蠶業、茶業、獸醫、蹄鐵工、家畜、家禽、牛馬籍、狩獵、有益蟲類、漁業、漁業組合、漁場、漁船、漁具、水產物製造及鹽田ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 商工局ニ於テハ商業、商業會議所、商工同業組合、度量衡、商事會社、商業仲立人及仲

第一類 第四章 農商務省

立人組合、内外通商、相場所、工場及保險營業ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 山林局ニ於テハ森林ノ施業、林野ノ區域及境界ノ調査、林野ノ利用及保護、蕃殖、民有林、保存林及林野ノ臺帳ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 鑛山局ニ於テハ鑛業ノ許否、鑛區ノ境界及位置訂正、鑛區ノ合併分割、鑛業ノ保護及鑛業ノ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條 特許局ニ於テハ發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル
特許局ニ圖書館ヲ置キ審判及審査ニ關スル圖書見本及雛形ヲ保管セシム

第十二條 地質調査所ニ於テハ土性調査、主産植物及土性ノ關係試験、地質ノ關係、地層ノ構造、鑛床ノ驗定、有用鑛物ノ驗定、有用物料ノ分析試験、地形測量、土性圖、地質圖及其説明書編纂及實測地形圖編製ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條 特許局ニ專任審判官一人專任審査官五人ヲ置ク

審判官ハ奏任トス審判ノ事ヲ掌ル

審査官ハ奏任トス審査ノ事ヲ掌ル

第十四條 農商務省試補ハ三人ヲ以テ定員トス

第十五條 農商務省ニ技師三十人審査官補十二人及技手六十人ヲ置ク

審査官補ハ判任トス特許局ニ屬シ審査ノ事務ヲ佐ク

第十六條 農商務省ニ技師試補十二人ヲ置ク

第十七條 農商務省屬ハ百八十八人ヲ以テ定員トス

附則

第十八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第三百三號地質調査所官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●參照舊令

○農商務省官制 二十三年六月二十日勅令第三百二號

第一條 農商務大臣ハ農、商、工及水産、林野、鑛山、地質、發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外發賞ニ關スル事項ヲ掌ル

第三條 農商務省ニ總務局ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ラシム

一 農商工諮詢會ニ關スル事項

二 圖書並報告書類ノ刊行及管理ニ關スル事項

三 内外博覽會及共進會ニ關スル事項

四 其他各局ノ主掌ニ屬セサル事項

第四條 農商務省專任參事官ハ五人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第五條 參事官ハ通則ニ掲クル事項ノ外臨時命ヲ承テ鑛山、山林其他農商工ノ事ヲ巡視ス

第六條 農商務省ニ左ノ諸局ヲ置ク

農務局

商工局

山林局

第一類 第四章 農商務省

鑛山局

特許局

會計局

第七條 農務局長商工局長及山林局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ鑛山局長特許局長及會計局長ハ奏任一等以下三等以上トス

第八條 農務局商工局及山林局ニ局次長ヲ置ク

第九條 農務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 農會及農業組合ニ關スル事項
- 二 農業及園藝ノ改良保護ニ關スル事項
- 三 農業土木及土地生産力ノ改良ニ關スル事項
- 四 農産物蟲害豫防及驅除ニ關スル事項
- 五 蠶茶業ノ改良及組合ニ關スル事項
- 六 獸醫開業免許及試験ニ關スル事項
- 七 蹄鐵工開業免許及試験ニ關スル事項
- 八 免許獸醫及蹄鐵工ノ犯則處分ニ關スル事項
- 九 家畜家禽ノ衛生ニ關スル事項
- 十 牛馬籍ニ關スル事項
- 十一 狩獵免許ニ關スル事項
- 十二 家畜家禽及有益蟲類ノ蕃殖改良ニ關スル事項
- 十三 漁業組合ニ關スル事項

- 十四 漁業漁場ノ區域及監督ニ關スル事項
- 十五 漁具漁船漁法ノ改良及取締ニ關スル事項
- 十六 水産ノ蕃殖改良及水産物製造ノ改良ニ關スル事項
- 十七 鹽田ノ改良及保護ニ關スル事項
- 十八 農事及家畜家禽水産ニ係ル報告並統計ノ材料蒐集ニ關スル事項
- 第十條 商工局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 商業會議所及商工同業組合ニ關スル事項
 - 二 度量衡ニ關スル事項
 - 三 商會社ニ關スル事項
 - 四 商業仲立人及仲立人組合ニ關スル事項
 - 五 内外通商ニ關スル事項
 - 六 相場所ノ營業ニ關スル事項
 - 七 工場製造所ニ關スル事項
 - 八 保險營業ニ關スル事項
 - 九 商工業ニ係ル報告及統計ノ材料蒐集ニ關スル事項
- 第十一條 山林局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 森林施業方按ニ關スル事項
 - 二 林野ノ區域及境界ノ調査ニ關スル事項
 - 三 官有林野ノ土地及物産ノ利用ニ關スル事項
 - 四 官有林野ノ保護蕃殖ニ關スル事項

第一類 第四章 農商務省

- 五 官有林野ノ土木ニ關スル事項
- 六 民有林ノ保護ニ關スル事項
- 七 保存林ニ關スル事項
- 八 林野臺帳調整ニ關スル事項
- 九 林野ニ係ル報告及統計ノ材料蒐集ニ關スル事項
- 第十二條 鑛山局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 鑛業ノ許否ニ關スル事項
 - 二 鑛區ノ境界及位置訂正ニ關スル事項
 - 三 鑛區ノ合併分割ニ關スル事項
 - 四 鑛業ノ保護ニ關スル事項
 - 五 鑛業ノ技術ニ關スル事項
- 第十三條 特許局ニ於テハ發明意匠及商標ニ關スル事項ヲ掌ル
- 特許局ニ圖書館ヲ置キ審判及審査ニ關スル圖書見本及雛形ヲ保管セシム
- 第十四條 會計局ニ於テハ本省及各大林区署ノ豫算決算及省中ノ會計事務並所轄ノ地所建物ニ關スル事項ヲ掌ル
- 第十五條 農商務省特許局ニ專任審判官二人專任審査官七人ヲ置ク
 - 審判官ハ委任トス審判ノ事ヲ掌ル
 - 審査官ハ委任トス審査ノ事ヲ分掌ス
- 第十六條 農商務省試補ハ五人ヲ以テ定員トス
- 第十七條 農商務省ニ技師十七人審査官補十二人及技手五十六人ヲ置ク
 - 審査官補ハ判任トス特許局ニ屬シ審査官ノ事務ヲ佐ク

第十八條 農商務省ニ技師試補十二人ヲ置ク

第十九條 農商務省屬ハ二百人ヲ以テ定員トス

●參照舊令

○地質調査所官制 二十三年六月二十日
勅令第三百三號

第一條 地質調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 土性調査ニ關スル事項
 - 二 主産植物及土性ノ關係試驗ニ關スル事項
 - 三 地質ノ關係地層ノ構造及鑛床ノ鑑定ニ關スル事項
 - 四 有用鑛物ノ鑑定ニ關スル事項
 - 五 有用物料ノ分析試驗ニ關スル事項
 - 六 地形測量ニ關スル事項
 - 七 土性圖及其説明書編纂ニ關スル事項
 - 八 地質圖及其説明書編纂ニ關スル事項
 - 九 實測地形圖編製ニ關スル事項
- 第二條 地質調査所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 一人 奏任
 - 技師 十八人
 - 技師試補 六人
 - 技手 二十五人
 - 書記 五人 判任
- 第一類 第四章 農商務省

第三條 所長ハ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ地質調査所全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 技師及技師候補ハ所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○分課規程官報

二十四年八月十八日

農商務省分課規程

第一條 大臣官房ニ祕書課庶務課會計課博覽會課及記錄課ヲ置ク

第二條 祕書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 機密文書ニ關スルコト

二 機密事務ニ關スルコト

三 官吏ノ進退身分ニ關スルコト

四 大臣ノ官印及省印ヲ管守スルコト

五 褒賞ニ關スルコト

第三條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 各局ノ成案ヲ審査シ及公文ヲ起草スルコト

二 公文書類及成案文書ヲ接受發送スルコト

三 參事官會議ニ關スル事項

四 各局課ノ主掌ニ屬セサル事項

第四條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スルコト

第五條 博覽會課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 内外博覽會及共進會ニ關スルコト

二 農商工諮詢會ニ關スルコト

第六條 記錄課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ヲ調製シテ大臣ノ査閱ニ供シ統計ノ材料ヲ統計局ニ官報掲載ノ事項ヲ官報局ニ送致スルコト

二 本省及省中各局課一切ノ公文書類ヲ編纂保存スルコト

三 圖書並報告書類ノ刊行及管理ニ關スルコト

第七條 農務局ニ第一課第二課第三課及第四課ヲ置ク

第八條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 農業、農會及農業組合ニ關スル事項

二 農業土木、農産物蟲害豫防及驅除ニ關スル事項

三 他課ノ主掌ニ屬セサル事項

第一類 第四章 農商務省ノ分課規程

- 第九條 第二課ニ於テハ蠶業及茶業ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十條 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 獸醫蹄鐵工ニ關スル事項
 - 二 家畜家禽及有益蟲類ニ關スル事項
 - 三 牛馬籍ニ關スル事項
 - 四 狩獵ニ關スル事項
- 第十一條 第四課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 漁業漁業組合ニ關スル事項
 - 二 漁場漁船漁具ニ關スル事項
 - 三 水産物製造及鹽田ニ關スル事項
- 第十二條 商工局ニ第一課第二課及第三課ヲ置ク
- 第十三條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 商事會社ニ關スル事項
 - 二 商業仲立人及仲立人組合ニ關スル事項
 - 三 相場所及保險營業ニ關スル事項
- 第十四條 第二課ニ於テハ度量衡ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十五條 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 商業、商業會議所及商工同業組合ニ關スル事項
- 二 内外通商ニ關スル事項
- 三 工場ニ關スル事項
- 第十六條 山林局ニ第一課第二課及第三課ヲ置ク
- 第十七條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 森林施業ニ關スル事項
 - 二 森林收入豫算ノ編成ニ關スル事項
 - 三 林野ノ區域及境界ノ調査ニ關スル事項
 - 四 林野ノ利用處分及官民林保護蕃殖ニ關スル事項
 - 五 大小林區及貯木場ノ設置變更ニ關スル事項
 - 六 林野編入及除却ニ關スル事項
 - 七 官林委託及保存林ニ關スル事項
 - 八 林野ノ統計及臺帳ニ關スル事項
- 第十八條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 森林山野及立竹木官民有區分ニ關スル事項
 - 二 他課ノ主掌ニ屬セサル事項
- 第十九條 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 第一類 第四章 農商務省 分課規程

- 一 森林經費豫算編成ニ關スル事項
- 二 森林收入及經費ノ取扱ニ關スル事項
- 三 林區署物品及林產物品會計ニ關スル事項
- 四 林區所用ノ地所建物ニ關スル事項
- 第二十條 鑛山局ニ第一課及第二課ヲ置ク
- 第二十一條 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 鑛業ノ許否ニ關スル事項
 - 二 鑛區ノ境界及位置訂正ニ關スル事項
 - 三 鑛區ノ合併分割ニ關スル事項
- 第二十二條 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 鑛業ノ保護ニ關スル事項
 - 二 鑛業ノ技術ニ關スル事項
- 第二十三條 特許局ニ審判課審查第一課審查第二課審查第三課審查第四課審查第五課庶務課及圖書館ヲ置ク
- 第二十四條 審判課ニ於テハ審判ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二十五條 審查第一課ニ於テハ意匠及商標ノ審查ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二十六條 審查第二課ニ於テハ發明牴觸ノ審查ニ關スル事務ヲ掌ル

- 第二十七條 審查第三課ニ於テハ左ノ各類ニ屬スル發明ノ審查ニ關スル事務ヲ掌ル
 - 第一類 蒸氣電氣水力等ニ關スル諸器械
 - 第二類 農具器械
 - 第三類 車類
 - 第四類 船舶類
 - 第五類 製造用諸器械
 - 第六類 土木ニ關スル建築構造及諸器械
- 第二十八條 審查第四課ニ於テハ左ノ各類ニ屬スル發明ノ審查ニ關スル事務ヲ掌ル
 - 第一類 化學製造品並合成劑ノ類
 - 第二類 化學工業用並化學ニ關スル器具裝置ニ係ルモノ
 - 第三類 化學上ノ製造方法
 - 第四類 冶金及鑛山等ニ關スルモノ
- 第二十九條 審查第五課ニ於テハ他課ニ屬セサル發明ノ審查ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第三十條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 公文往復ニ關スル事項
 - 二 會計ニ關スル事項
 - 三 特許願書檢閱ニ關スル事項

- 四 原簿登錄ニ關スル事項
- 五 賣買讓與共有及書入ノ登錄ニ關スル事項
- 六 登錄通知ニ關スル事項
- 七 特許證及登錄證ノ發行ニ關スル事項
- 八 明細書及公報ノ編纂配付ニ關スル事項
- 九 圖面調製及書類謄本ニ關スル事項
- 十 他課ノ主掌ニ屬セサル事項
- 第三十一條 圖書館ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 圖書標本ノ出納保管及觀覽ニ關スル事項
 - 二 刊行物及其出納保管ニ關スル事項
 - 三 出願中ニ係ル雛形見本ノ出納及管理ニ關スル事項
 - 四 特許發明及登錄意匠ノ陳列所ニ關スル事項
 - 五 内外國文書ノ翻譯ニ關スル事項
- 第三十二條 地質調査所ニ地質課土性課分析課及地形課ヲ置ク
- 第三十三條 地質課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 地質ノ關係地層ノ構造及鑛床ノ驗定ニ關スル事項
 - 二 有用鑛物ノ驗定ニ關スル事項

- 第三十四條 土性課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 土性調査ニ關スル事項
 - 二 主産植物及土性ノ關係試驗ニ關スル事項
 - 三 土性圖及其説明書編纂ニ關スル事項
 - 第三十五條 分析課ニ於テハ有用物料ノ分析試驗ニ關スル事務ヲ掌ル
 - 第三十六條 地形課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 地形測量ニ關スル事項
 - 二 實測地形圖編製ニ關スル事項
- 臨時博覽會事務局官制 二十四年六月五日 勅令第五十二號
 朕臨時博覽會事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 御名 御璽
- 勅令第五十二號

臨時博覽會事務局官制

第一條 臨時博覽會事務局ハ明治二十六年北亞米利加合衆國イリノイ州シカゴ府ニ於テ開設スルコロロンブス世界博覽會ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル
 本局ハ農商務省中ニ之ヲ置ク

第一類 第四章 農商務省 臨時博覽會事務局

第二條 臨時博覽會事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 一人

副總裁 二人

評議員 若干人

事務官 五人

書記 若干人

第三條 總裁ハ農商務大臣副總裁ハ勅任官事務官ハ奏任官書記ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 評議員ハ官吏其他ニ就キ學識又ハ經驗アル者ノ中ヨリ選定シ總裁ノ奏請ニ依リ裁可ヲ經テ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條 總裁ハ諸部ノ職員ヲ統督シ局務ヲ總判ス

副總裁ハ總裁ヲ輔ケ總裁事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

評議員ハ總裁ノ諮詢ニ應シ局務ニ關スル重要ノ事項ヲ審議調査ス

事務官ハ總裁ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 總裁ハ局務ニ關シ諸規則ヲ定メ及警視總監北海道廳長官府縣知事ニ訓令又ハ指

第七條 總裁ハ局務ニ關シ實業者ヲ招集シテ諮詢スルコトヲ得

令スルコトヲ得

第九條 總裁ハ經費豫算定額内ニ於テ外國人ヲ雇入レ又ハ本局ノ事務ヲ外國人ニ囑託スルコトヲ得

第十條 本局職員ハ無給トス但事務ノ繁閑ニ依リ經費豫算定額内ニ於テ高等官及評議員

第十一條 總裁ハ經費豫算定額内ニ於テ職員ノ特別勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得

○富岡製絲所官制 二十三年七月三日 勅令第百十六號

朕富岡製絲所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第百十六號

富岡製絲所官制

第一條 富岡製絲所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ製絲ノ事業ヲ經營シ其ノ改良ヲ圖リ及之

ニ關スル必要ノ事務ヲ處理スルコトヲ掌ル

第二條 富岡製絲所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

屬 六人

技手 五人

第一類 第四章 農商務省 富岡製絲所

第三條 所長ハ奏任二等以下トス農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全部ノ事ヲ掌理ス
 第四條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算ノ事ニ從事ス
 第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製絲ニ關スル技術ニ從事ス

○大小林區署官制 二十四年七月二十四日 勅令第四百四十四號

朕大小林區署官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四百四十四號

大小林區署官制

- 第一條 大林區署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 官林ノ施業ニ關スル事項
 - 二 官林ノ產物賣拂ニ關スル事項
 - 三 官林ノ境界調査分合ニ關スル事項
 - 四 官林ノ賣拂及貸渡ニ關スル事項
 - 五 小林區署業務監督ニ關スル事項
- 第二條 大林區署ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

林務官

技師

林務官補

書記

- 第三條 林務官ハ奏任トシ十六人ヲ以テ定員トス大林區署長トナリ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス
- 第四條 技師ハ十六人ヲ以テ定員トス各大林區署ニ分屬シ署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌ル
- 第五條 林務官補ハ判任トシ八十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ分掌ス
- 第六條 書記ハ判任トシ百二十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第七條 小林區署ハ大林區署ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 官林ノ保護ニ關スル事項
 - 二 官林ノ栽培及土功ニ關スル事項
 - 三 官林ノ產物採取及賣拂ニ關スル事項
 - 四 官林ノ測量製圖ニ關スル事項
- 第八條 小林區署ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

營林主事

營林主事補

森林監守

第九條 營林主事ハ判任トシ三百八十七人ヲ以テ定員トス小林區署長トナリ上官ノ指揮

第一類 第四章 農商務省 大小林區署

ヲ承ケ署務ヲ掌理ス

第十條 營林主事補ハ判任トシ六百八十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ分掌ス

第十一條 森林監守ハ判任トシ七百二十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ官林ノ保護ニ從事ス

第十二條 農商務大臣ハ事務ノ必要ニ依リ營林主事又ハ營林主事補ヲ大林區署ニ臨時勤務セシムルコトヲ得

第十三條 大小林區署ノ名稱位置並管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル
附則

第十四條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○大林區署長處務規程

二十四年九月五日 農商務省訓令第三十七號 大林區署

本年三月當省戊第一三一號ノ一並ニ五月戊第二八六號大林區署長委任條件ヲ廢シ更ニ左記ノ通り大林區署長處務規程相定候條自今右ニ據リ取扱フヘシ

大林區署長處務規程

第一條 大林區署長ハ官制ノ定ムル處ニ從ヒ所轄官林ノ總務ヲ處理シ主管事務ノ整理及法律命令ノ執行ニ付凡テ其責ニ任ス

第二條 大林區署長ハ主管ノ事務ヲ執行スルタメ必要アルトキハ其實施ノ順序ヲ設ケテ

之ヲ公告シ又ハ府縣ノ令達告示ヲ要スル場合ニ於テハ其旨ヲ地方廳ニ照會スルコトヲ得

第三條 大林區署長ハ主管ノ事務ニ付各官廳ニ對シ照會往復スルコトヲ得

第四條 大林區署長ハ事務整理ノタメ經伺ノ上處務細則ヲ設ケ署中處務ノ分掌ヲ命スヘシ

第五條 大林區署長ハ管内ヲ巡視シ及部下ノ職員ニ管内巡回ヲ命シ又ハ臨時緊急ノ場合ニ於テ管外出張ヲ爲シ及之ヲ命スルコトヲ得

第六條 大林區署長ハ判任官以下ノ歸省看護、臺參、轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第七條 大林區署長ハ判任官及月俸拾圓又ハ日給五拾錢以上ノ僱員ノ進退ニ關シテハ山林局長ヲ經由シテ農商務大臣ニ具狀スヘシ

第八條 大林區署長ハ月俸拾圓又ハ日給五拾錢以下ノ僱員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第九條 大林區署長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

第十條 大林區署長ハ小林區署員ノ在勤ヲ命免シ及必要アル場合ニハ營林主事營林主事補ヲ大林區署ニ臨時勤務セシムルコトヲ得

第一類 第四章 農商務省 大林區署長處務規程

但小林區署長ハ此限ニアラス

- 第十一條 大林區署長ハ本條各項ヲ除ノ外主管事務ニ付經伺ヲ要セス處分スルコトヲ得
 - 一 施業案確定ノコト
 - 二 毎年度事業案確定ノコト
 - 三 既定事業案増減變更ノコト
 - 四 官林地賣拂及讓與ノコト
 - 五 民有地購買ノコト
 - 六 上地官林委託許否及解除ノコト
 - 七 官林地ト民有地ト交換ノコト
 - 八 林位變更ノコト
 - 九 官林地年期貸渡ノコト
 - 但段別五町步以下ニシテ五箇年以内ノ年期貸渡及之カ繼年期ハ此限ニアラス
 - 十 官林主產物年期賣拂ノコト
 - 十一 官林雜種物五箇年以上年期賣拂ノコト
 - 十二 金額五拾圓以上主產物及雜種物特賣ノコト
 - 十三 豫算計劃外ノ主產物處分ノコト
 - 十四 小林區及保護區廢置變更ノコト

- 十五 小林區署及保護區官舎位置變更ノコト
- 十六 詞訟提起ノコト

但公訴附帶ノ私訴又ハ緊急ノ場合ニ於ケル詞訟ハ此限ニアラス
 經伺ノ上締結シタル契約ノ變更及解除ノコト

- 十七 但契約ノ目的及金額ニ異動ナキ變更ハ此限ニアラス
 - 十八 一箇所金額貳百圓以上ノ造林其他ノ事業隨意契約ノコト
 - 十九 一箇所金額三拾圓以上ヲ要スル土木營繕及修繕ノコト
 - 二十 一箇代金三拾圓以上ノ諸物品購買ノコト
 - 二十一 一箇概算金三拾圓以上ノ不用物品賣拂ノコト
 - 二十二 前各項ノ外例規ナキ重大ノ事件
- 第十二條 左ニ記載スル木竹根株及枝條ハ前條第十三項ノ例ニ依ラス
- 一 燒枯損木竹、轉倒危險木竹、障得木竹、盜誤伐木竹、根株枝條及拂受人ノ棄損シタル木竹

- 二 學術研究ノ爲メ又ハ官民有區分ニ關シ徵證ノ爲メ處分ヲ要スル木竹
- 三 官林測量ノ爲メ支障ノ木竹
- 四 地種目組替ニ付其地上ニ存在スル木竹
- 五 林業付帶ノ爲メ必要ナル木竹

六 部分木

七 水災火災防禦又ハ軍隊徵發ニ應スル爲メ處分ヲ要スル木竹

第十三條 大林區署長ハ既定ノ事業案ニヨリ諸產物ノ賣拂ヲナスヘシ其公賣ニ係ルモノハ委員ヲ命シテ之ヲ執行セシム可シ

第十四條 大林區署長ハ官林ニ被害アリタルトキ及執行セシ事務ハ別ニ定ムル處ノ報告例ニ依リ報告ス可シ

○鑛山監督署官制 二十四年七月二十四日 勅令第四百四十五號

朕鑛山監督署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四百四十五號

鑛山監督署官制

第一條 鑛山監督署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鑛業條例ノ定ムル所ニ依リ鑛山監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 鑛山監督署ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

鑛山監督官

技師

書記

技手

第三條 鑛山監督官ハ奏任トシ六人ヲ以テ定員トス鑛山監督署長トナリ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師八十人ヲ以テ定員トス各監督署ニ分屬シ署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌ル

第五條 書記ハ判任トシ四十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 技手ハ五十八人ヲ以テ定員トス

第七條 農商務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ鑛山監督支署ヲ置キ鑛山監督署員ヲ分派スルコトヲ得

第八條 鑛山監督署及鑛山監督支署ノ名稱位置並管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル附則

第九條 本令ハ鑛業條例實施ノ日ヨリ施行ス

○貯木所官制 十九年四月十六日 閣令第七號

貯木所ノ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ (本項中三田農具製作所、錦織網場、富岡製絲所、千住製絨所、新町紡績所官制ハ廢止或ハ改正等ニ付除ク)

貯木所官制
第一條 貯木所ハ農商務省山林局ノ管理ニ屬シ須要ノ地方ニ之ヲ設ケ官材ノ貯蓄販賣ノ事ヲ掌ラシム

第二條 貯木所ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

第一類 第四章 農商務省 鑛山監督署 貯木所

所長

屬

第三條 所長ハ判任トス山林局長ノ指揮監督ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 屬ハ判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○下總牧場官制 十九年四月二十九日 閣令第九號

下總牧場ノ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

下總牧場官制

第一條 下總牧場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ兼テ嶺岡支牧場ヲ管轄シ牛馬羊ノ改良蕃息

ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 下總牧場ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

場長

屬

第三條 場長ハ判任トス農務局長ノ指揮監督ヲ承ケ場中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 屬ハ判任トス場長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

●沿革要領

明治十四年四月第二十五號達ヲ以テ農商務省ヲ置キ職制並事務章程ヲ定メ書記農務、商務、工務、山林、騾、馬、博物、會計

ノ諸局及農商工上等會議ノ九ニ分ツ○同年同月第二十六號達ヲ以テ內務省所屬ノ騾、馬、山林、博物、勸農ノ四局並大藏省ノ商務局ヲ管ス○同年八月第七十八號達ヲ以テ職制第一項増補ス○同年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程通則ヲ定ム●十五年四月第二十號達ヲ以テ職制第二項ヲ改正ス○同年五月第二十六號達ヲ以テ駒場農學校職制ヲ定メ職員ヲ校長、教授、助教ト爲ス○同年八月第四十七號達ヲ以テ五等六等ノ騾、馬、官ヲ置キ奏任トス一等屬ノ上等給ヲ廢ス○同年九月第五十六號達ヲ以テ駒場農學校職制ヲ廢シ更ニ本省所轄學校職制ヲ定メ職員ヲ校長、幹事、教授、助教ト爲ス●十六年三月第十三號達ヲ以テ技術等級ヲ定メ職員ヲ正權大少技長、技手一等ヨリ十等ニ至ルヲ置ク●十七年一月第十四號達ヲ以テ諸省事務章程通則第十條ヲ改正ス●十八年一月第三號達ヲ以テ農商務省職制及騾、馬、官職制中ヲ改正ス○同年六月第二十六號達ヲ以テ技術等級表中ヲ改正ス○同年五月文部省告示第一號ヲ以テ東京商業學校ヲ文部省ノ管轄トス○同年十二月第六十九號達ヲ以テ各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ農商務大臣ヲ置ク○同年同月第七十號達ヲ以テ逓信省ヲ置キ騾、馬、官職制中ヲ改正ス●二十一年七月勅令第五十二號ヲ以テ千住月第一號達ヲ以テ三池佐渡生野、鑛山ノ事務ヲ大藏省ノ管理ニ屬ス○同年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム○同年四月勅令第十八號ヲ以テ駒場農學校、東京山林學校、大小林區署官制ヲ定ム○同年同月閣令第七號ヲ以テ三田農具製作所貯木所、錦織綱富、富岡製絲所、千住製絲所、新町紡績所官制ヲ定ム○同年同月閣令第九號ヲ以テ下總牧場ノ官制ヲ定ム○同年七月勅令第五十六號ヲ以テ駒場農學校及東京山林學校ヲ廢シ更ニ東京農林學校ヲ置キ官制ヲ定ム●二十年十二月勅令第七十三號ヲ以テ專賣特許局ヲ廢シ更ニ特許局ヲ置キ官制ヲ定ム●二十一年七月勅令第五十二號ヲ以テ千住製絲所ヲ陸軍省ニ屬ス○同年十二月勅令第八十七號ヲ以テ特許局官制中ヲ改正ス●二十二年三月閣令第七號ヲ以テ錦織綱富官制ヲ廢ス●二十三年六月勅令第九十二號ヲ以テ東京農林學校ヲ帝國大學ノ分科大學トシ十九年勅令第五十六號東京農林學校官制ヲ廢ス○同年同月勅令第九十二號ヲ以テ農商務省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第三百三號ヲ以テ地質調査所官制ヲ定ム○同年七月勅令第十六號ヲ以テ富岡製絲所官制ヲ改正ス○同年同月勅令第二百二十七號ヲ以テ大小林區署官制ヲ改正ス●二十四年七月勅令第九十四號ヲ以テ農商務省官制ヲ改正シ地質調査所官制ヲ廢止

第一類 第四章 農商務省 下總牧場 沿革要領

ス○同年同月勅令第百四十四號ヲ以テ大小林區署官制ヲ改正ス○同年同月勅令第百四十五號ヲ以テ鑛山監督署官制ヲ定ム

○遞信省官制 勅令第九十五號

朕遞信省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十五號

遞信省官制 第一條 遞信大臣ハ郵便、電信、船舶、海員、航路標識及郵便爲替、郵便貯金ニ關スル事務ヲ管理シ電氣事業ヲ監督ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲グルモノ、外遞信監察ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 遞信省ニ左ノ三局ヲ置ク

郵務局

管船局

電務局

第四條 郵務局長、管船局長ハ勅任トシ電務局長ハ奏任トス

第五條 郵務局ハ郵便及郵便爲替、郵便貯金ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 管船局ハ船舶、海員、航路標識ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 電務局ハ電信電話ニ關スル事務及電氣事業監督ノ事ヲ掌ル

第八條 遞信省專任參事官ハ二人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第九條 遞信省ニ遞信監察官二人遞信監察官補十人ヲ置ク遞信監察官ハ大臣官房ニ屬シテ遞信監察ノ事務ヲ掌理シ遞信監察官補ハ監察ノ事務ニ從事ス

第十條 遞信省ニ遞信事務官五人ヲ置ク奏任トス大臣官房郵務局及電務局ニ屬シテ各其事務ヲ分掌ス

第十一條 遞信省ニ技師四人技手二十九人ヲ置ク技師及技手ハ大臣官房及各局ニ屬シテ其事務ニ從事ス

第十二條 遞信省試補ハ三人ヲ以テ定員トス

第十三條 遞信省ニ技師試補二人ヲ置ク

第十四條 遞信省屬ハ二百八十八人ヲ以テ定員トス

附則

第十五條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

●參照舊令

○遞信省官制 二十三年六月三十日 勅令第百十二號

第一條 遞信大臣ハ郵便、電信、航路標識及船舶海員ニ關スル事務ヲ管理ス

第一類 第四章 遞信省

四百二十一

第二條 遞信省ニ總務局ヲ置カス
第三條 遞信大臣官房ハ通則ニ掲クル官房及總務局掌理事務ノ外左ノ事務ヲ掌ル

一 理財ニ關スル事項

二 會計ノ下検査ニ關スル事項

三 廳舎建築ニ關スル事項

四 物品ノ購買賣却ニ關スル事項

五 電信及航路標識用品製作ノ管理ニ關スル事項

第四條 遞信省ニ左ノ諸局ヲ置ク

郵務局

電務局

管船局

燈臺局

會計局

第五條 郵務局ハ郵便ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 電務局ハ電信ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 管船局ハ船舶海員ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 燈臺局ハ航路標識ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 會計局ハ金錢物品ノ出納管守ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 郵務局長及電務局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ管船局長燈臺局長及會計局長ハ奏任一等以下三等以上トス

第十一條 遞信省專任參事官ハ二人專任書記官ハ六人ヲ以テ定員トス

第十二條 郵務局及電務局ニ局次長ヲ置ク

第十三條 遞信省ニ通信事務官八人ヲ置ク通信事務官ハ郵便、電信又ハ計算ノ事務ヲ分掌シ若クハ郵務局及電務局ノ課長ヲ兼テ課務ヲ掌理ス

通信事務官ハ奏任四等以下トス

第十四條 遞信省ニ司檢官十人及司檢官補十一人ヲ置ク司檢官ハ管船局ニ屬シ海員水先人ノ試験、審問、船舶ノ検査測

量及新造船ノ工事監督ヲ掌リ司檢官補ハ管船局ニ屬シ司檢官ノ事務ヲ佐ク

司檢官ハ奏任トシ司檢官補ハ判任トス

第十五條 遞信省ニ技師十二人技手二百五十六人ヲ置ク

第十六條 遞信省ニ試補三人ヲ置ク

第十七條 遞信省ニ屬三百九十八人ヲ置ク

○分課規程官報二十四年八月十四日

遞信省官房各局分課章程

第一條 遞信大臣官房ニ左ノ四課ヲ置ク

職員課 文書課

報告課 財務課

第二條 職員課ハ官吏ノ進退身分ニ關スル事項ヲ掌理ス

第三條 文書課ハ左ノ事項ヲ掌理ス

一 各局課ノ成案ヲ審査シ及公文ヲ起草スル事

第一類 第四章 遞信省 分課規程

- 二 公文書類及成案文書ヲ接受發送スル事
 - 三 本省及省中各局課一切ノ公文書類ヲ編纂保存スル事
 - 四 各局課ニ屬セサル事務ニ關スル事
- 第四條 報告課ハ左ノ事項ヲ掌理ス
- 一 統計報告編成ニ關スル事
 - 二 官報掲載ノ事項ニ關スル事
 - 三 外國文書反譯ニ關スル事
 - 四 圖書ノ調査購求保管及出納ニ關スル事
- 第五條 財務課ハ左ノ事項ヲ掌理ス
- 一 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事
 - 二 本省所有ノ官有財産及物品ニ關スル事
 - 三 會計ノ下検査ニ關スル事
 - 四 廳舎ノ建築及修繕ニ關スル事
 - 五 省中ノ取締ニ關スル事
 - 六 電信燈臺用品製造所ニ關スル事
- 第六條 郵務局ニ左ノ三課ヲ置ク
- 計理課 內信課

外信課

- 第七條 郵務局計理課ハ郵便及郵便爲替郵便貯金事業ノ經理ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 第八條 郵務局內信課ハ郵便遞送集配運輸方法ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 第九條 郵務局外信課ハ萬國郵便聯合並ニ外國郵便及郵便爲替條約ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十條 管船局ニ左ノ三課ヲ置ク

- 船舶課 標識課

監查課

第十一條 管船局船舶課ハ船舶、海員、漂流物、難破船、浦役場、造船所、船用製鐵所及港則ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十二條 管船局標識課ハ航路標識ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十三條 管船局監查課ハ海運會社、海上保險會社ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十四條 電務局ニ左ノ二課ヲ置ク

- 通信課 工務課

第十五條 電務局通信課ハ電信電話事業ノ經理及萬國電信聯合並ニ外國電信條約ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十六條 電務局工務課ハ電信建築保存工事ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十七條 電氣試験所電報調査所ヲ置キ電務局ニ屬セシム電氣試験所ハ電氣試験ニ關スル事ヲ掌理シ兼テ電氣事業監督ノ事ヲ掌リ電報調査所ハ電報送受ノ正否及電報料收納ノ當否調査ニ關スル事ヲ掌理ス

○郵便及電信局官制

二十四年七月二十四日
勅令第四百四十七號

朕郵便及電信局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽
勅令第四百四十七號

郵便及電信局官制

第一條 郵便電信ノ業務ヲ執行スル爲地方ニ郵便電信局郵便局及電信局ヲ置キ遞信大臣ノ管轄ニ屬セシム

第二條 郵便電信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

書記

技手

書記補

東京及大阪一等郵便電信局ニ限リ各事務官一人技師一人ヲ置ク

第三條 郵便局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

書記

書記補

第四條 電信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

書記

技手

書記補

第五條 郵便電信局郵便局及電信局ノ等級ヲ分テ各一等二等三等トス

第六條 一等郵便電信局ノ局長ハ奏任又ハ判任トス其奏任ヲ以テ局長ニ任スル局ノ位置左ノ如シ

- 東京 大阪 横濱 神戸
- 長崎 京都 函館 新潟
- 名古屋 熊本 仙臺 廣島

一等郵便局電信局二等三等郵便電信局郵便局電信局ノ局長ハ判任トス

郵便電信局長郵便局長電信局長ハ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理ス

第七條 事務官ハ奏任トス局長ノ指揮ヲ承ケ郵便ノ業務ヲ掌理シ局長事故アルトキ之ヲ

第一類 第四章 逓信省 郵便及電信局

代理ス

第八條 技師ハ局長ノ指揮ヲ承ケ電信ノ業務ヲ掌理ス

第九條 書記ハ判任トス局長ノ指揮ヲ承ケ郵便又ハ電信ノ業務ニ從事シ事務官ヲ置カサル局ニ於テハ局長事故アルトキ之ヲ代理ス

第十條 技手ハ局長ノ指揮ヲ承ケ電信ノ業務ニ従事ス

第十一條 書記補ハ判任トス書記ノ事務ヲ助ク

第十二條 書記書記補ハ二千八百七十六人ヲ以テ定員トス

第十三條 技手ハ九百四十七人ヲ以テ定員トス

第十四條 一等郵便電信局ニ等郵便局ハ遞信大臣ノ指定スル区域内ノ郵便電信局郵便局及電信局ノ業務ヲ監督ス

附則

第十五條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○郵便爲替貯金管理所官制二十四年七月二十四日 勅令第四百四十八號

朕郵便爲替貯金管理所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四百四十八號

郵便爲替貯金管理所官制

第一條 郵便爲替貯金管理所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便爲替及郵便貯金ニ關スル事務ヲ掌理スル所トス

第二條 郵便爲替貯金管理所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

事務官

書記

書記補

第三條 郵便爲替貯金管理所長ハ奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 事務官ハ奏任トシ二人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第五條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記計算ノ事務ニ従事ス

第六條 書記補ハ判任トス書記ノ事務ヲ助ク

第七條 書記書記補ハ五百八十七人ヲ以テ定員トス

第八條 遞信大臣ハ必要ト認ムル地ニ郵便爲替貯金管理支所ヲ置キ其事務ヲ分掌セシメ事務官ヲ以テ所長ニ充ルコトヲ得

附則

第九條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第四百十二號郵便爲替貯金局官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第一類 第四章 遞信省 郵便爲替貯金管理所

○航路標識管理所官制 二十四年七月二十四日 勅令第四百四十九號

朕航路標識管理所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四百四十九號

航路標識管理所官制

第一條 航路標識管理所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ航路標識ノ工事及其保守ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 航路標識管理所ニ左ノ職員ヲ置ク

技師

書記

技手

看守

第三條 技師ハ一人ヲ以テ定員トス航路標識管理所長ト爲リ遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中全部ノ事務ヲ掌理ス

第四條 書記ハ判任トシ二十三人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第五條 技手ハ十六人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ工事ニ従事ス

第六條 看守ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ看守ニ従事ス其定員ヲ定ムルコト

左ノ如シ

一等燈臺

二等燈臺

三等燈臺

四等燈臺

五等燈臺

六等燈臺

等外燈臺

燈船

霧警號

各三人

各二人

二人

二人

遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ航路標識看守豫備員十五人マテヲ置クコトヲ得

附則

第七條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○船舶司檢所官制 二十四年七月二十四日 勅令第四百五十號

朕船舶司檢所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四百五十號

第一類 第四章 遞信省 航路標識管理所 船舶司檢所

船舶司檢所官制

- 第一條 船舶司檢所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ海員水先人ノ試験、審問、船舶ノ検査、測度、新造船ノ工事監督ヲ掌ル所トス
- 第二條 船舶司檢所ハ東京大阪長崎函館其他遞信大臣必要ト認ムル地ニ之ヲ置ク
- 第三條 船舶司檢所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
司檢官
司檢官補
書記

- 第四條 所長ハ司檢官ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中全部ノ事務ヲ掌理ス
- 第五條 司檢官ハ奏任トシ十人ヲ以テ定員トス各船舶司檢所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌シ若クハ管船局ノ課長ヲ兼テ課務ヲ掌理ス
- 第六條 司檢官補ハ判任トシ十二人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス
- 第七條 書記ハ判任トシ十二人ヲ以テ定員トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

附則
第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス
○船舶司檢所名稱位置及開始
遞信省令第十一號

船舶司檢所ノ名稱位置左ノ通相定メ本月十六日ヨリ開始ス

- 東京船舶司檢所 武藏國東京市 大阪船舶司檢所 攝津國大阪市
 - 長崎船舶司檢所 肥前國長崎市 函館船舶司檢所 渡島國函館市
- 電信建築署官制 勅令第百五十一號
朕電信建築署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽
勅令第百五十一號

第一條 電信建築署ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ電線建設電機裝置及其保存ニ關スル事務ヲ掌ル所トス其名稱位置及所轄區域ヲ定ムル左ノ如シ

名	稱	位	置	管轄	區域
東京電信建築署	武藏國	東京	長野縣 靜岡縣 橋本縣 新瀉縣 東京府	神奈川縣 千葉縣 群馬縣 茨城縣 山梨縣	
大阪電信建築署	攝津國	大阪	京都府 兵衛縣 奈波縣 和歌山縣 德島縣	大阪府 滋賀縣 大津縣 三島縣 鳥取縣	

第一類 第四章 遞信省 船舶司檢所名稱位置及開始 電信建築署 四百三十三

札幌電信建築署	石狩國札幌	北海道
仙臺電信建築署	陸前國仙臺	宮城縣
名古屋電信建築署	尾張國名古屋	愛知縣
廣島電信建築署	安藝國廣島	廣島縣
熊本電信建築署	肥後國熊本	熊本縣

第二條 電信建築署ニ左ノ職員ヲ置ク

技師
書記

第三條 技師ハ七人ヲ以テ定員トス電信建築署長ト爲リ遞信大臣ノ命ヲ承ケ署中全部ノ事務ヲ掌理ス

技師
書記

第四條 書記ハ判任トス署長ノ指揮ヲ承ケ書記簿記計算ノ事務ニ從事ス

第五條 技手ハ署長ノ指揮ヲ承ケ工事ヲ分掌ス

第六條 書記技手ハ七十六人ヲ以テ定員トス

附則

第七條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○電話交換局官制 勅令第四百五十二號

朕電話交換局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四百五十二號

電話交換局官制

第一條 電話交換局ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ電話交換ノ業務ヲ執行スル所トス

第二條 電話交換局ニ左ノ職員ヲ置ク

技師

書記

技手

第三條 技師ハ二人ヲ以テ定員トス電話交換局長トナリ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中全部ノ事務ヲ掌理ス

第四條 書記ハ判任トス局長ノ指揮ヲ承ケ書記簿記計算ノ事務ニ從事ス

第五條 技手ハ局長ノ指揮ヲ承ケ電話線ノ建設電話機ノ裝置及其保存ニ關スル工事ヲ分掌ス

第一類 第四章 遞信省 電話交換局

第六條 書記技手八十人ヲ以テ定員トス

第七條 電話交換局ノ名稱及位置ハ遞信大臣之ヲ定ム

附則

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○商船學校官制勅令第四十五號

勅令第四十五號

朕商船學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十五號

商船學校官制

第一條 商船學校ハ東京ニ置キ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航海、運用、機關ノ學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條 大阪函館ニ商船學校分校ヲ置キ簡易ノ學術及技藝ヲ教授ス

第三條 商船學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

幹事

教授

分校長

助教

書記

第四條 校長ハ一人奏任トス遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理ス(二十四年七月二十四日勅令第四百五十三號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

●參照舊令

●參照舊令

第四條 校長ハ一人選信省高等官之ヲ兼任ス遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理ス

第五條 幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第六條 教授ハ五人奏任現任校長ノ次等以下トス校長ノ監督ヲ承ケ生徒ノ教授ヲ掌ル

第七條 分校長ハ各一人助教之ヲ兼任ス校長ノ指揮ヲ承ケ分校ノ事務ヲ掌理ス

第八條 助教ハ十四人(十八人ヲ以テ十八人ニ改ム)判任トス校長又ハ分校長ノ監督ヲ承ケ教授ノ職掌ヲ佐ク(同上)

第九條 書記ハ六人(四人判任トス)上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス(同上ヲ以テ四人ヲ六人ニ改ム)

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス(同上ヲ以テ追加ス)

○東京郵便電信學校官制勅令第四百五十四號

朕東京郵便電信學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一類 第四章 遞信省 商船學校 東京郵便電信學校

第四百三十七

御名 御璽

勅令第百五十四號

東京郵便電信學校官制

第一條 東京郵便電信學校ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便電信事業上須要ノ學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條 東京郵便電信學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

幹事

教授

助教

書記

第三條 校長ハ一人遞信省高等官之ヲ兼任ス遞信大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理ス

第四條 幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス校長ノ監督ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理シ校長事故アルト

キ其職務ヲ代理ス

第五條 教授ハ奏任トシ五人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 助教ハ判任トシ八人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ教授ノ職掌ヲ助ク

第七條 書記ハ判任トシ六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

附則

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

沿革要領

明治十八年十二月第七十號達ヲ以テ遞信省ヲ置キ驛遞電信燈臺管船ノ事務ヲ管セシム●十九年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定メ省中ニ驛遞電信燈臺管船會計ノ五局ヲ置ク○同年三月勅令第八號ヲ以テ地方遞信官官制ヲ定ム○同年四月勅令第十九號ヲ以テ商船學校電信修技學校ノ官制ヲ定ム○同年同月勅令第二十三號ヲ以テ遞信管理局名稱位之ヲ廢ス○同年同月勅令第四號ヲ以テ遞信省官制ヲ改定ス○同年五月勅令第十四號ヲ以テ電信修技學校ヲ廢シ更ニ東京電信學校ヲ置キ官制ヲ定ム●二十二年七月勅令第九十六號ヲ以テ地方遞信官官制ヲ廢シ更ニ郵便及電信局官制ヲ定ム●二十三年三月勅令第二十三號ヲ以テ東京電信學校官制ヲ廢止シ東京郵便電信學校官制ヲ定ム○同年六月勅令第一百十二號ヲ以テ遞信省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第一百三號ヲ以テ郵便爲替貯金局官制ヲ定ム○同年七月勅令第二百二十九號ヲ以テ郵便及電信局官制中ヲ改正追加ス○同年八月勅令第九十一號ヲ以テ東京郵便電信學校官制中ヲ改正ス○同年九月勅令第九十七號ヲ以テ商船學校官制ヲ改正ス●二十四年五月勅令第四十五號ヲ以テ商船學校官制ヲ改正ス○同年七月勅令第九十五號ヲ以テ遞信省官制ヲ改正ス○同年同月勅令第四百四十七號ヲ以テ郵便及電信局官制ヲ改正ス○同年同月勅令第四百四十八號ヲ以テ郵便爲替貯金管理所官制ヲ定ム●郵便爲替貯金局官制ヲ廢止ス○同年同月勅令第四百四十九號ヲ以テ航路標識管理所官制ヲ定ム○同年同月勅令第五百一號ヲ以テ電話交換局官制ヲ定ム○同年同月勅令第五百十一號ヲ以テ電信建築署官制ヲ定ム○同年同月勅令第五百十二號ヲ以テ電話交換局官制ヲ定ム○同年同月勅令第五百十三號ヲ以テ商船學校官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第五百十四號ヲ以テ東京郵便電信學校官制中ヲ改正ス

第五章 會計検査院 裁判所 行政裁判所 貴族院 衆議院

○會計検査院法 二十二年五月九日 法律第十五號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計検査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第十五號

會計検査院法

第一章 組織

第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條 會計検査院ハ院長一員部長三員検査官十二員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官二員検査官補二十四員及屬若干員ヲ置ク

第三條 院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ検査官書記官及検査官補ハ奏任トシ屬ハ

判任トス

第四條 院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス

第五條 會計検査院ニ三部ヲ設ケ各部部长一員検査官四員ヲ以テ検査ノ事務ヲ分掌ス

第六條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

會計検査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非

職ヲ命セラレハコトナシ

會計検査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス

第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼テ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

第十條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

四 検査事務ノ規程計算證明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ

五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條 計算検査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 職權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第一類 第五章 會計検査院

四百四十一

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

- 一 總決算
 - 二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算
 - 三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算
 - 四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算
- 第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ
- 一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ
 - 二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ
 - 三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラス會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ

之カ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官

之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ附スルノ後ト雖其ノ附シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐偽ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 附則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○會計検査院事務章程二十二年九月二十四日勅令第百六號

朕會計検査院事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第百六號

會計検査院事務章程

第一章 部課

第一條 會計検査院ニ第一第二第三部ヲ設ケ各部ニ第一第二第三第四課ヲ設ケ各課ノ課長ハ検査官ヲ以テ之ニ充テ検査官補及屬若干員ヲ分屬セシム

第二條 會計検査院全般ニ關ル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理スル爲ニ特ニ委員若ハ分科ヲ設ケルコトヲ得

第二章 會議

第三條 會計検査院ノ會議ハ會計検査官ヲ以テ組織ス

第四條 總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク

第五條 總會議ハ現員會計検査官三分ノ二以上部會議ハ半數以上出席スルニアラサレハ議事ノ効力ヲ有セス

出席會計検査官前項ノ數ニ滿タサルトキハ検査官補ヲ以テ補充スルコトヲ得

第六條 總會議及部會議ハ課長ノ查閱ヲ經タル検査官補ノ報告書若ハ會計検査官ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第三章 職員及權限

第七條 院長ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 院長ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ叙位叙勳昇等及恩給ヲ上奏シ又ハ普通ノ第一類 第五章 會計検査院事務章程

成規ニ依リ増俸賞與ヲ行フ

第九條 検査官ハ奏任四等以上トシ検査官補ハ奏任四等以下トス

第十條 會計検査官ノ外各官吏ノ懲戒ハ普通ノ規定ニ依ル

第十一條 左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス

第一 各部及各課管理ノ事務ヲ定ム

第二 職員ノ配置事務ノ分配及共同擔任ノ事ヲ命ス

第三 検査官補ニ總會議出席ヲ命ス

第四 臨時屬官ニ任命シテ検査官補ノ事務ヲ行ハシム但議事ニ出席セシムルコトヲ得ス

第五 特ニ委員又ハ分科ヲ設ケ取調ヲ爲サシム

第六 奏任以下ノ官吏ニ派出検査ヲ命ス

第七 検査ノ執行認可狀ノ交付ニ關ル細則ヲ定ム

第八 議事ニ關ル細則ヲ定ム

第九 會議ニ付スルヲ要セサル事件ヲ處分ス

第十 庶務及會計ニ關ル規程ヲ定ム

第十二條 院長ハ部ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主管部長及課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ

第十三條 院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ十四日以内ニ之

ヲ再議ニ付スルコトヲ得

再議ノ議決ニ對シテハ復之ヲ停止スルコトヲ得ス

第十四條 總會議又ハ部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ院長專ラ之ヲ改ムルコトヲ得

第十五條 院長ハ部長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ總會議又ハ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 院長ハ其ノ職權ニ屬スル事務ニ付總會議ノ意見ヲ諮問スルコトヲ得

第十七條 院長ハ検査ノ精覈ヲ期スル爲ニ各部ヨリ提出スル計算書及證憑書ニ付其ノ一部ノ稽查ヲ行フヘシ

第十八條 左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス

第一 所管ノ課長ヨリ提出スル所ノ文書ヲ稽查シ又ハ之ヲ部會議ニ付シテ後院長ニ提出シ其ノ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ自ラ之ヲ處分ス

第二 検査官補ニ部會議出席ヲ命ス

第三 部中検査官以下主任ノ事務ヲ一時相互ニ幫助セシメ又ハ院長ノ認定ヲ經テ分擔

事務終結期限ノ猶豫ヲ認許ス

第四 部中職員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告ス

第十九條 部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主任課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若シ其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ院長ノ許可ヲ得テ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

第二十條 部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ院長ノ許可ヲ得テ十四日以内ニ總會議ニ提出スルコトヲ得

第二十一條 部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモハ部長專ラ之ヲ改ムルヲ得

第二十二條 部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十三條 部長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニ依リ他ノ部長之ヲ代理ス

第二十四條 課長ハ課務ヲ幹理ス

第二十五條 課長ハ課中検査官補ノ調製スル文書ヲ査閲シ其ノ適當ヲ證シ又ハ意見ヲ付シテ部長ニ提出シ又ハ再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

課長ハ課ヨリ提出スル文書ニ付其ノ本章程ニ於テ特ニ検査官補ノ責任ニ屬スルモノ、外ハ院長及部長ニ對シテ其責ニ任ス

第二十六條 課長疾病事故ニ由リ不在ナルキハ院長ノ命ニ依リ部中他ノ課長之ヲ代理ス

第二十七條 課長ハ其ノ擔當スル事務ノ範圍内ニ於テ會計検査院法第十四條及第十五條

ニ依リ同院ヨリ提出スヘキ検査報告書又ハ行務成績書ニ掲載スヘキ事項ト認ムルモノヲ摘記シ之ヲ部長ニ提出スヘシ

第二十八條 検査官補ハ計算書證憑書ノ検査報告ヲ爲シ審理書其ノ他文書ノ起草ヲ掌ル検査官補ハ各計算書ヲ對照シ及證憑書類ヲ検査シ其ノ不當ノ件ハ遺漏ナク之ヲ摘出シタルコトヲ證明スヘシ

第二十九條 検査官補ハ總會議又ハ部會議ニ於テ其ノ報告ノ事件ニ就キ辯明ヲ爲ス

第三十條 検査官補ハ院長若ハ部長ノ命ニ依リ検査官ノ闕席ヲ補充スル爲ニ總會議又ハ部會議ニ出席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第三十一條 書記官ハ院長官房ノ事務其ノ他院中ノ庶務會計ヲ幹理ス

第三十二條 屬ハ各部課ニ屬シ調査ニ從事シ又ハ書記官ニ屬シ庶務會計ニ從事ス

第四章 行務

第三十三條 會計検査院ハ行務年度ヲ定メ院長定ムル所ノ行務監督規程ニ據リ其ノ年度中ニ於テ執行スヘキ事務ノ程度及各員擔任ノ事項ヲ定ム

第三十四條 會計ノ検査ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ執行ス

第一 命令官決算ノ檢定

第二 出納官吏計算ノ検査判決

命令官決算ノ檢定ハ總決算各省決算報告書及其ノ證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

出納官吏計算ノ検査判決ハ各官吏ノ提出シタル計算書及證憑書ニ據リ之ヲ執行ス
右ノ外會計検査院法第十三條第三第四ニ關ル決算ノ検査判決ハ其ノ主管者ヨリ提出シ
タル計算書及證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

第三十五條 會計検査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ検査シ及其ノ判決ニ與ルコト
ヲ得ス

第三十六條 會計検査院ハ検査ノ成績ニ依リ摘發シタル事項ニ付當該官吏ニ審理書ヲ發
付シ答辯又ハ正誤セシム

第三十七條 會計検査院ハ國務大臣ニ對シ文書ヲ以テ質問ヲ爲シ又ハ注意ヲ要求スルコ
トヲ得ルモ審理書ヲ發スルコトヲ得ス

第三十八條 審理書ニハ左ノ事項ヲ掲ク

第一 不規ノ件ニ對スル批難

第二 將來ノ措置ニ對スル注意

第三 不明瞭ノ件ニ對スル推問

第三十九條 會計検査院ハ第一回ノ審理書ニ對スル答辯又ハ正誤ヲ以テ仍不充分ナリト
認定シタルトキハ再三審理書ヲ發ス

検査ノ後計算ヲ正當ナラスト認定シタルトキ命令官ニ對シテハ之ヲ本屬長官ニ通牒シ
出納官吏ニ對シテハ判決書ヲ發ス

第四十條 出納官吏ニ認可狀又ハ判決書ヲ交付シタルトキハ會計検査院ハ其ノ謄本ヲ以
テ大藏大臣ニ通知スヘシ

第四十一條 判決書ヲ發シタルトキハ會計検査院ハ速ニ本屬長官ニ移牒シテ其ノ處分ヲ
要求スヘシ

第四十二條 會計検査院前項ノ要求ニ對スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認ムル
トキハ其ノ由ヲ行務成績書ニ載セ上奏スヘシ

第四十三條 會計検査院法第二十四條ニ依リ再審ニ關ル出納官吏ノ請求ヲ受理スルハ左
ノ場合ニ限ル

第一 計算又ハ事實ニ錯誤アリトスルトキ

第二 脱漏又ハ二重記載アリトスルトキ

第三 新ニ證憑書ヲ發見シタルトキ

第四 正當ナラサル證憑書ニ據リ判決シタルトキ

第五 判決ヲ以テ法律命令ニ違反セリトスルトキ

第四十四條 再審ノ場合ニ於テハ前ニ該件ノ検査ヲ擔當セサリシ他ノ部ニ移シテ審査セ
シムヘシ

第四十五條 會計検査院ハ検査上參考ノ爲ニ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定期若ハ
臨時ニ報告セシムルコトヲ得

第一類 第五章 會計検査院 事務章程

○會計検査院ニ試補ヲ置二十三年十月十日勅令第二百二十四號
朕會計検査院ニ試補ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二百二十四號

會計検査院ニ試補六名ヲ置ク

但検査官補ニ缺員アルトキハ定員外試補ヲ置クコトヲ得其數ハ検査官補缺員ノ數ヲ超過スルコトヲ得ス

○裁判所構成法二十三年二月八日法律第六號

朕裁判所構成法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘ

キコトヲ命ス

御名 御璽

法律第六號

裁判所構成法目次

第一編 裁判所及検事局

第一章 總則

第二章 區裁判所

第三章 地方裁判所

第四章 控訴院

第五章 大審院

第二編 裁判所及検事局ノ官吏

第一章 判事又ハ検事ニ任セラル、ニ必要ナル準備及資格

第二章 判事

第三章 検事

第四章 裁判所書記

第五章 執達吏

第六章 廷丁

第三編 司法事務ノ取扱

第一章 開廷

第二章 裁判所ノ用語

第三章 裁判ノ評議及言渡

第四章 裁判所及検事局ノ事務章程

第五章 司法年度及休暇

第六章 法律上ノ共助

第四編 司法行政ノ職務及監督權

第一類 第五章 會計検査院 裁判所構成法

裁判所構成法

第一編 裁判所及検事局

第一章 總則

第一條 左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

第一 區裁判所

第二 地方裁判所

第三 控訴院

第四 大審院

第二條 通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 地方裁判所控訴院及大審院ヲ合議裁判所トシ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審問裁判ス但シ訴訟法又ハ特別法ニ別段規定シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 裁判所ノ設立廢止及管轄區域並ニ其ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 各裁判所ニ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク

第六條 各裁判所ニ検事局ヲ附置ス検事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其ノ取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラルルヤヲ監視シ又民事ニ於テ

モ必用ナリト認ムルトキハ通知ヲ求メ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得又裁判所ニ屬シ若ハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ

検事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其ノ事務ヲ行フ

検事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ

若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其ノ事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第七條 検事局ニ相應ナル員數ノ檢事ヲ置ク

第八條 各裁判所ニ書記課ヲ設ク書記課ハ往復會計記録其ノ他此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ

裁判所ニ附置セラレタル検事局ニ於テ前項ノ如キ事務ヲ取扱フ爲必要ナリト認メタルトキニ限り別ニ書記課ヲ設クルコトヲ得但シ合議裁判所ノ検事局ニ限ル

司法大臣ハ裁判所ノ會計事務ヲ專任スル爲特別官吏ヲ裁判所ニ置クコトヲ得

第九條 區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達シ及裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前項ノ外執達吏ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フ

第十條 法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係ア

第一類 第五章 裁判所構成法

ル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第一 權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且此ノ法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ

第二 裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付疑ヲ生シタルトキ

第三 法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

第四 二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

第二章 區裁判所

第十一條 區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ其ノ裁判事務ヲ各判事ニ分配ス

此ノ事務分配ハ毎年地方裁判所長前以テ之ヲ定ム

區裁判所判事ノ取扱ヒタル事ハ裁判事務分配上其ノ事他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其功カヲ失フコトナシ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トシ之ニ其ノ

行政事務ヲ委任ス

第十二條 事務分配一タヒ定マリタルトキハ司法年度中ニ變更セス但シ一人ノ判事ノ分擔多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此限ニ在ラス

第十三條 區裁判所ノ判事差支アルトキハ毎年地方裁判所長ノ前以テ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス但シ監督判事ノ職務ハ其ノ裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス

一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキ之ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ同シク毎年以前以テ之ヲ定ム

第十四條 區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ反訴ニ關リテハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ依ル

第一 百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過セサル物ニ關ル請求

第二 價額ニ拘ラス左ノ訴訟

(イ) 住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

(ロ) 不動産ノ經界ノミニ關ル訴訟

(ハ) 占有ノミニ關ル訴訟

第一類 第五章 裁判所構成法

(三) 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟
(ホ) 左ニ掲ケタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸

運送人トノ間ニ起リタル訴訟

(一) 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

(二) 旅店若ハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲預ケタル手荷物金

錢又ハ有價物

第十五條 區裁判所ハ非訟事件ニ付法律ニ定メタル範圍及方法ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フノ

權ヲ有ス

第一 未成年者瘋癲者白癡者失踪者其ノ他法律若ハ判決ニ因リ治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ後見人若ハ管財人ヲ監督スル事

第二 不動産及船舶ニ關ル權利關係ヲ登記スル事

第三 商業登記及特許局ニ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ヲ爲ス事

第十六條 區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 違警罪

第二 本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若ハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ二百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪

第三 刑法第二編第一章ヲ除キ其ノ他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若

ハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ二百圓以下ノ罰金ニ該リ其ノ情第二ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若ハ其ノ支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタルモノ

前項ノ手續ニ因リ訴追ヲ爲シ犯罪ノ證明アリタル場合ニ於テ判決ヲ爲ス前何時ニテモ其ノ情第二ニ掲ケタル刑ニテハ相當ニ罰スルコトヲ得スト認ムルトキハ區裁判所ハ之ヲ裁判スル權限ヲ有セストノ言渡ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ハ被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受シムル爲適當ノ手續ヲ爲ス

第十七條 前數條ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ權限ハ此ノ章ニ掲ケタル事件ニ關リ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク
區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ハ其ノ地ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官之ヲ取扱フコトヲ得

司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第三章 地方裁判所

第十九條 地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス

各地方裁判所ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第一類 第五章 裁判所構成法

第二十條 各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク

地方裁判所長ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第二十一條 司法大臣ハ毎年各地方裁判所ノ判事一人若ハ二人以上ニ其ノ裁判所ノ裁判權

ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第二十二條 各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及各豫審判事ニ之

ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員ノ配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦毎年以前以テ

之ヲ定ム

前二項ニ掲ケタル諸件ハ裁判所長部長及部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長會長ト

ナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スヘシ

第二十三條 或ル部ニ於テ著手シタル事務ニシテ司法年度ノ終若ハ休暇ノ始ニ臨ミ未タ終

結ニ至ラサルモノハ裁判所長便利ト認ムルトキ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結了セシムルコ

トヲ得

豫審判事ノ取扱フ事務ニシテ未タ終結ニ至ラサルモノモ亦前項ニ同シ

第二十四條 第二十二條ニ從ヒ事務ノ分配及判事ノ配置一タヒ定マリタルトキハ休暇中ヲ

除キ一部ノ事務多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者
アル等引續キ差支アルニ非サレハ司法年度中之ヲ變更セス

裁判所ノ事務其ノ現在ノ部ニ過多ナル場合ニ於テ司法大臣適宜ト認ムルトキハ新ニ一部
又ハ數部ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 地方裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中
其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所長ハ其

ノ管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限又ハ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他

ノ請求

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十七條 地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 第一審トシテ

區裁判所ノ權限並ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟

第一類 第五章 裁判所構成法

第二 第二審トシテ

(イ) 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ) 區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十八條 地方裁判所ハ破産事件ニ付一般ノ裁判權ヲ有ス

第二十九條 地方裁判所ハ非訟事件ニ關ル區裁判所ノ決定及命令ニ對シ法律ニ定メタル抗告ニ付裁判權ヲ有ス

第三十條 地方裁判所ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第三十一條 司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近隣ノ區裁判所ノ判事ヲ用井ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條 地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其ノ部ニ列席スルコトヲ得ス其ノ他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第三十三條 各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及監督ス但シ檢事局ノ其ノ他ノ檢事ハ事務取扱ニ付何等ノ事件ニ拘ラス特別ノ許可ヲ受ケスシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

第四章 控訴院

第三十四條 控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第三十五條 各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第三十六條 事務ノ分配及結了竝ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

第一 前項ニ掲ケタル各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス

第二 控訴院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其ノ控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其ノ裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得但シ豫備判事ヲ用井ルコトヲ得ス

第三十七條 控訴院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二 區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告

第三 地方裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第三十八條 皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但シ

第一審ノ訴訟手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス

第三十九條 控訴院ノ權限並ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサル

モノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第四十條 控訴院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ

組立タル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟

法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第四十一條 第三十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問

裁判シ第二審ハ特ニ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判ス其ノ五人又ハ七人

ノ判事中一人ヲ裁判長トス

第四十二條 各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク

檢事長並ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第五章 大審院

第四十三條 大審院ヲ最高裁判所トス

大審院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ置ク

第四十四條 大審院ニ大審院長ヲ置ク

大審院長ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第四十五條 大審院ノ事務ノ分配並ニ代理ノ順序ハ毎年部長ト協議シ大審院長前以テ之ヲ定ム

大審院長ハ次年自ラ上席セントスル部ヲ指定スヘシ

大審院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘ

キ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ

大審院長ヨリ其ノ所在地ノ控訴院長ニ通知シ其ノ控訴院ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムル

コトヲ得

第四十六條 大審院長ハ何時ニテモ部長若ハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルコ

第一類 第五章 裁判所構成法

トヲ得

第四十七條 大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルトキハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十二條ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十四條ヲ適用ス

第四十八條 大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其ノ訴訟一切ノ事ニ付下級裁判所ヲ羈束ス

第四十九條 大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付曾テ一若ハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其ノ部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其ノ報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

第五十條 大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 終審トシテ

(イ) 第三十七條第二ニ依リ爲シタル判決及第三十八條ノ第一審ノ判決ニ非サル控

訴院ノ判決ニ對スル上告

(ロ) 控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二 第一審ニシテ終審トシテ

刑法第二編第一章及第二章ニ掲ケタル重罪竝ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更

ニ重キ刑ニ處スヘキモノノ豫審及裁判

第五十一條 前條第二ニ掲ケタル事件ニ付大審院ハ必要ナリト認ムルトキハ事件ノ審問裁判ヲ爲ス爲控訴院若ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルコトヲ得但シ其ノ半數ニ滿ツルコトヲ得ス

第五十二條 大審院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條 大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ七人ノ判事申一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第五十四條 第四十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ三分ノ二列席スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部聯合スルトキ又ハ民事及刑事ノ總部聯合スルトキハ總部ノ判事申官等最モ高キ者ヲ部長ト爲ス大審院長ハ至當ナリト認ムルトキハ自ラ總部ニ長タルノ權ヲ有ス

第五十五條 大審院長ハ第五十條ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ爲スヘキ各別ノ場合ニ付大審院ノ判事ニ豫審ヲ命ス但シ便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫審ヲ爲サシム

第一類 第五章 裁判所構成法

ルコトヲ得

第五十六條 大審院ノ檢事局ニ檢事總長ヲ置ク

檢事總長並ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第二編 裁判所及檢事局ノ官吏

第一章 判事又檢事ニ任セラルルニ必要ナル準備及資格

第五十七條 判事又ハ檢事ニ任セラルルニハ第六十五條ニ掲ケタル場合ヲ除キ二回ノ競争試験ヲ經ルコトヲ要ス

第五十八條 志願者前條ノ競争試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試験ニ關ル細則ハ判事檢事登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第一回試験ニ及第シタル者ハ第二回試験ヲ受クルノ前試験トシテ裁判所及檢事局ニ於テ

三年間實地修習ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ修習ニ關ル細則モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

第五十九條 司法大臣ハ試験ノ行狀罷免スルニ足レリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ罷免スルコトヲ得此ノ罷免ニ關ル細則モ亦試験規則中ニ之ヲ定ム

第六十條 一年以上修習ヲ爲シタル試験ハ其ノ修習ヲ現ニ監督スル判事ノ命アルトキ區裁判所ニ於テ或ル司法事務ヲ取扱フコトヲ得

豫審判事及地方裁判所ノ受命判事モ亦其ノ附屬ノ試験ヲシテ自己ニ代リ或ル事務ヲ取扱

ハシムルコトヲ得

第六十一條 試験ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有セス

第一 訴訟事件ト非訟事件トニ拘ラス裁判ヲ爲ス事

第二 證據ヲ調フル事但シ前條第二項ノ場合ヲ除ク

第三 登記ヲ爲ス事

第六十二條 第二回ノ競争試験ニ及第シタル試験ハ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得

第六十三條 新任ノ判事又ハ檢事ハ關位アルトキ之ヲ區裁判所若ハ地方裁判所ノ判事又ハ

區裁判所若ハ地方裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ補ス

司法大臣ハ關位アルマテ新任ノ判事又ハ檢事ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ勤務スルコ

トヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ裁判所ノ檢事局ニ用ウ

第六十四條 區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ檢事局ニ用非ラレタル豫備判事又ハ豫備檢

事ハ判事又ハ檢事差支アリテ職務ニ從事スルコトヲ得ス且通常代理ノ規程ニ依リ難キコ

トアルトキハ第三十二條ノ制限ニ從ヒ司法大臣ハ之ニ其ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムル

コトヲ得

司法大臣ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ其ノ檢事局ノ檢事ニ一時關位アル間ハ此

ノ法律ノ範圍内ニ於テ豫備判事又ハ豫備檢事ヲ以テ之ヲ充タスコトヲ得

第六十五條 三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル試験ヲ經ス

第一類 第五章 裁判所構成法

シテ判事又ハ檢事ニ任セララルコトヲ得

帝國大學法科卒業生ハ第一回試験ヲ經スシテ試補ヲ命セララルコトヲ得

第六十六條 左ニ掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セララルコトヲ得ス

第一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第二章 判事

第六十七條 判事ハ勅任又ハ奏任トシ其ノ任官ヲ終身トス

第六十八條 大審院長ハ勅任判事ノ中ヨリ天皇之ヲ補シ各控訴院長及大審院ノ部長ハ司法

大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ判事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第六十九條 五年以上判事タル者又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判

事ニ任セラレシ者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セララルコトヲ得ス

第七十條 十年以上判事タル者又ハ十年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事

ニ任セラレシ者ニ非サレハ大審院判事ニ補セララルコトヲ得ス

第七十一條 第六十九條及第七十條ニ掲ケタル年限ヲ算フルニハ補職ノ時マテ各其ノ條

ニ列記シタル職務ノ一ノミニ引續キ從事シタルコトヲ必要トセス

第七十二條 判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

第一 公然政事ニ關係スル事

第二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ府縣郡市町村ノ議會ノ議員トナル事

第三 俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就ク事

第四 商業ヲ營ミ又ハ其ノ他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事

第七十三條 第七十四條及第七十五條ノ場合ヲ除ク外判事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ

由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セララルコトナシ但シ豫備判

事タルニ及補闕ノ必要ナル場合ニ於テ轉所ヲ命セララルハ此ノ限ニ在ラス

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴追ノ始若ハ其ノ間ニ於テ法律ノ許ス停職ニ關係アルコトナシ

第七十四條 判事身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ司

法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第七十五條 法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ判事ヲ補

スヘキ關位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ關位ヲ待タシムルノ權ヲ有ス

第七十六條 判事ノ官等俸給及進級ニ關ル規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第七十七條 判事ハ退職シタルトキハ恩給法ニ依リ恩給ヲ受ク

第七十八條 判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ刑事訴追ヲ始メタルカ故ニ停職シタル

第三章 檢事

第一類 第五章 裁判所構成法

第七十九條 檢事ハ勅任又ハ奏任トス

第七十六條及第七十七條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

檢事總長及檢事長ノ職ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ヲ補ス其ノ他ノ檢事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十條 檢事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ之ヲ免職スルコトナシ

第八十一條 檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干涉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ス

第八十二條 檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

第八十三條 檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ各管轄區域内ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍内ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フノ權ヲ有ス

檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ管轄區域内ニ於テ或ル檢事ノ取扱フヘキ事務ヲ他ノ檢事ニ移スノ權ヲ有ス

第八十四條 司法警察官ハ檢事ノ職務上其ノ檢事局管轄區域内ニ於テ發シタル命令及其ノ檢事ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ

司法省又ハ檢事局及内務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域内ニ於テ司法警察官トシテ勤務シ前項ノ命令ヲ受ケ及之ヲ執行スル者ヲ定ム

第四章 裁判所書記

第八十五條 裁判所ニ第八條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

區裁判所ノ各判事及合議裁判所ノ各部ノ爲少クトモ一人ノ書記ヲ置ク

第八十六條 地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク控訴院及大審院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク

區裁判所及檢事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ監督書記トシ監督書記及書記長ハ各其ノ上官ノ命令ニ服從シテ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス

第八十七條 書記其ノ職務ノ範圍内ニ於テ取扱ヒタル事ハ既ニ定マリタル事務分配上其ノ事他ノ書記ニ屬シタリトノ事實ノミニ依リ其ノ効力ヲ失フコトナシ

第八十八條 書記ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス
書記長ハ奏任トス

書記長ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十九條 書記ニ任セララルルニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ試験ヲ經ルコトヲ要ス

志願者前項ノ試験ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此ノ試験及試験ヲ經タル後爲スヘキ修習ニ關ル細則ハ裁判所書記登用試験規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十條 書記ニ任セラレタル者闕位ナキ間ハ豫備書記ニ補ス

豫備書記ハ書記トシテ臨時勤務ヲ命セララルルコトヲ得

第一類 第五章 裁判所構成法

第九十一條 書記ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ又判事一人ナルトキハ其ノ判事ノ命令ニ從フ
書記ハ檢事局ニ勤務スルトキ又ハ特別ノ事務ニ付判事若ハ檢事ニ附屬シタルトキモ亦其
ノ檢事局又ハ判事若ハ檢事ノ命令ニ從フ

前二項ノ命令ニシテ口述ノ書取ニ關ルカ又ハ書類記録ノ調製若ハ變更ニ關ル場合ニ於テ
其ノ調製若ハ變更ヲ正當ナラスト認ムルトキ書記ハ自己ノ意見ヲ記シテ之ニ添フルコト
ヲ得

前四項ニ掲ケタルモノヲ除ク外書記ノ職務及其ノ事務取扱方法ハ書記ニ關ル規則中ニ司
法大臣之ヲ定ム

第九十二條 合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所ニ於テ修習中ノ
試補ニ書記ノ事務ヲ臨時取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ職務上署名ヲ要スルトキハ特別ノ許可ヲ得テ署名スル旨ヲ記ス

第九十三條 豫備書記ハ事務ノ取扱ニ於テハ書記ニ同シ但シ書記規則中ニ制限ヲ設ケタル
モノハ此ノ限ニ在ラス

第五章 執達吏

第九十四條 各區裁判所ニ第九條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク

第九十五條 執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ控訴院長ニ其ノ管轄區域内

ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

執達吏ニ任セラルルニ必要ナル資格並ニ試験ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第九十六條 執達吏ハ手數料ヲ受ク其ノ手數料一定ノ額ニ達セサルトキ補助金ヲ受ク

第九十七條 執達吏ハ其ノ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域内ノ何レノ場所ニ
於テモ其ノ職務ヲ行フ

第九十八條 裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモノハ執達吏ヲ以テ之ヲ送達ス但
シ書記ヨリ直接ニ若ハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

執達吏ハ刑事ニ付警察官ヲ以テ執行ヲ爲ササル場合ニ限り裁判所ノ裁判ヲ執行ス
前二項ニ掲ケタルモノヲ除ク外執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第九十九條 執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保證金ヲ出スコトヲ要ス執達吏ノ職務細則
並ニ保證金ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第一百條 執達吏ハ其ノ所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ裁判所ヲ管轄スル地方
裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ書記ノ上官ノ命令ニ從フ

第六章 廷丁

第一百一條 廷丁ハ大審院控訴院及地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ地方裁判
所長之ヲ雇ヒ及其ノ雇ヲ解ク

第一百二條 廷丁ハ開廷ニ出頭ヒシメ及司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ

取扱ハシム

區裁判所ハ執達吏ヲ用井ルコト能ハサルトキハ其ノ裁判所所在地ニ於テ書類ヲ送達スル
爲廷丁ヲ用井ルコトヲ得

第三編 司法事務ノ取扱

第一章 開廷

第二百三條 開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其ノ管轄區域内ノ一
定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二百四條 訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁
判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニモ亦屬ス

第二百五條 裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由
ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ
公衆ヲ入廷セシムヘシ

第二百六條 裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入
廷セシムルノ權ヲ有ス

第二百七條 裁判長ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ著セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得

其理由ハ之ヲ訴訟ノ記録ニ記入ス

第二百八條 開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第二百九條 裁判長ハ審問ヲ妨グル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ
有ス

前項ニ掲ケタル違反者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾引シ閉廷ノトキマテ之ヲ勾留スルノ必要アリ
ト認ムルトキ裁判長ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ
命シ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以内ノ拘留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許サス且其ノ所爲ノ輕罪若ハ重罪ニ該ルヘキモノ
ナルトキハ之ニ對シテ刑事訴訟ヲ爲スコトヲ得

第一百十條 前條ノ規程ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一 裁判所ハ開廷ヲ待タズシテ本條ノ違反者ヲ速時ニ罰スルコトヲ得

第二 違反者原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ
不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

第一百一條 裁判長ハ不當ノ言語ヲ用井ル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陳述スルノ權ヲ
行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第一百十二條 裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲第百九條第百十條及第百十一條ヲ以テ與ヘ
タル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ

得

此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時以内ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得
豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬スル裁
判所ノ刑事部若ハ刑事支部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ス受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試
補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス
第百十三條 第百九條第百十條第百十一條及第百十二條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルトキ
ハ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモ
ノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ
爲ス

第百十四條 判事檢事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルコトヲ要ス

第二章 裁判所ノ用語

第百十五條 裁判所ニ於テハ日本語ヲ用フ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用
井ルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用フ

第百十六條 通事ノ任命及使用並ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之

ヲ定ム

第百十七條 通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其ノ言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通
事ニ用井ラルコトヲ得

第百十八條 外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏
ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問
ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記録ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章 裁判ノ評議及言渡

第百十九條 合議裁判所ノ裁判ハ此ノ法律ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

第百二十條 四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命
シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或ル判事ノ疾病其ノ他ノ事故ニ
因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第百二十一條 判事ノ評議ハ之ヲ公行セズ但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

判事ノ評議ハ其ノ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顛末並ニ各判事ノ意見及多少
ノ數ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス

第百二十二條 評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ
終トス官等同キトキハ年少ノ者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス

第百二十三條 裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

金額ニ付判事ノ意見ニ説以上ニ分レ其ノ説各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス

刑事ニ付其ノ意見ニ説以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第二百二十四條 判事ハ裁判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第四章 裁判所及検事局ノ事務章程

第二百二十五條 裁判所及検事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム

控訴院長及検事長ハ前項ノ規則ニ依リ各自管轄區域内ノ裁判所及検事局ニ對シテ事務ノ一般ノ取扱ニ關リ成ルヘク統一ヲ旨トシ殊ニ裁判所及検事局ノ開庭時間及開庭ノ時日ニ付訓令ヲ發ス

大審院ハ自ラ其ノ事務章程ヲ定ム但シ之ヲ實施スル前司法大臣ノ認可ヲ受ク

第五章 司法年度及休暇

第二百二十六條 司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ハル

第二百二十七條 裁判所ノ休暇ハ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ハル

第二百二十八條 休暇中ハ左ノ事件ノ外既ニ著手シタル民事訴訟ヲ中止ス且新ナル訴訟ニ著手セズ

第一 爲替手形若ハ約束手形其ノ他ノ流通證書ニ關ル請求

第二 船舶又ハ運送賃又ハ積荷ニ對スル請求

第三 財産差押事件

第四 住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第五 養料ノ請求

第六 保證ヲ出サシムルノ請求

第七 取掛リタル建築ノ繼續ニ關ル事件

第八 前數項ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ判事ニ於テ又ハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ休暇部若ハ休暇部長ニ於テ直ニ著手スヘキ緊急ノモノト認メタル請求若ハ事件

第二百二十九條 休暇中ニ拘ラス刑事訴訟非訟事件判決執行破産事件並ニ民事訴訟法ニ依リ略式ヲ以テ取扱フコトヲ得ヘキ訴訟ハ之ヲ停止スルコトナシ

第二百三十條 合議裁判所ニ於テハ休暇中事務取扱ノ爲休暇部ト稱スル一若ハ二以上ノ部ヲ設ク

休暇部ノ組立ハ休暇ノ始マル前裁判所長之ヲ定ム第二十二條ハ此ノ部ニモ亦之ヲ適用ス二人以上ノ判事ヲ置キタル區裁判所ノ休暇事務取扱方法ハ監督判事之ヲ定ム

第一類 第五章 裁判所構成法

第六章 法律上ノ共助

第三百一十一條 裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依リ互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス
法律上ノ補助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ
於テ之ヲ爲ス

第三百二十二條 檢事局モ亦各自ノ管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ補助
ヲ爲ス

第三百二十三條 裁判所書記課モ亦其ノ權内ノ事件又ハ其ノ配下ノ執達吏ノ權内ノ事件ニ付
互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第四編 司法行政ノ職務及監督權

第三百二十四條 合議裁判所長區裁判所ノ判事若ハ監督判事檢事總長檢事長檢事正ハ司法大
臣ノ由テ以テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス

第三百二十五條 司法行政監督權ノ施行ハ左ノ規程ニ依ル

第一 司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ監督ス

第二 大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三 控訴院長ハ其ノ控訴院及其ノ管轄區域内ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四 地方裁判所長ハ其ノ裁判所若ハ其ノ支部及其ノ管轄區域内ノ區裁判所ヲ監督ス

第五 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所所屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

第六 檢事總長ハ其ノ檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第七 檢事長ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域内ノ檢事局ヲ監
督ス

第八 檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域内ノ檢事局
ヲ監督ス

第三百二十六條 前條ニ掲ケタル監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

第一 官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其注意ヲ促シ並ニ適當ニ其ノ事務
ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スル事

第二 官吏ノ職務上ト否トニ拘ラス其ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付之ニ諭告スル事
但シ此ノ諭告ヲ爲ス前其ノ官吏ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシムヘシ

第三百二十七條 第十八條及第八十四條ニ掲ケタル官吏ハ第三百二十五條ニ依リ行フヘキ監督
ヲ受クルノ官吏中ニ之ヲ包含ス

第三百二十八條 裁判所若ハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其ノ行狀
其ノ地位ニ不相應ナル者ニ付第三百三十六條ヲ適用スルコト能ハサルトキハ懲戒法ニ從ヒ
之ヲ訴追ス

第三百二十九條 前數條ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ハ判事若ハ檢事其ノ官吏タルノ
資格又ハ其ノ他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付其ノ請求ヲ満足セシ

第一類 第五章 裁判所構成法

四百八十三

ムル爲之ヲ執行スルコトヲ得ス

第四百十條 司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告殊ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滞若ハ拒絕ニ對スル抗告ハ此ノ編ニ掲ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處分ス

第四百十一條 裁判所及檢事局ハ司法大臣又ハ監督權アル判事若ハ檢事ノ要求アルトキハ法律上ノ事項又ハ司法行政ニ關ル事項ニ付意見ヲ述フ

第四百十二條 司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ其ノ訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局ハ司法官廳ヲ代表ス

第四百十三條 此ノ編ニ掲ケタル前各條ノ規程ハ裁判上執務タル判事ノ裁判權ニ影響ヲ及ホシ又ハ之ヲ制限スルコトナシ

附則

第四百十四條 此ノ法律ノ施行ニ關ル規程並ニ從來ノ法律ニシテ此ノ法律ニ抵觸スト雖モ當分ノ内仍ホ効力ヲ有セシムルモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

○裁判所構成法施行條例 二十三年三月十八日 法律第二十二號

朕裁判所構成法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第二十二號

裁判所構成法施行條例

第一條 從來ノ治安裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル區裁判所トシ從來ノ始審裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所トシ又從來ノ控訴院大審院ハ裁判所構成法ニ定メタル控訴院大審院トス

第二條 始審裁判所從來ノ檢事局ハ裁判所構成法ニ定メタル地方裁判所ノ檢事局トス控訴院大審院ノ檢事局モ亦同シ

第三條 區裁判所ノ管轄區域ヲ爲ス町村ノ變更ハ之ヲ區裁判所管轄區域ニ及ホスモノトス
第四條 裁判所構成法實施前他ノ裁判所第一審トシテ受理シタル民事訴訟及刑事訴訟ニシテ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬シタルモノハ現在ノ儘相當ノ區裁判所ニ移ルモノトス
既ニ爲シタル裁判ハ區裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五條 裁判所構成法ニ依リ地方裁判所ノ第二審ニ屬スヘキモ既ニ控訴院ニ於テ受理シタル事件ハ控訴院之ヲ裁判スヘシ又控訴院ノ管轄ニ屬スヘキモ既ニ大審院ニ於テ受理シタル民事刑事ノ上告ハ大審院之ヲ裁判スヘシ

第六條 裁判所構成法實施前重罪裁判所ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ地方裁判所ニ移ルモノトス既ニ爲シタル裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條 裁判所構成法實施前始審裁判所ニ於テ受理シタル郡長區長戸長又ハ市長町長村長

第一編 第五章 裁判所構成法施行條例

ニ對スル民事訴訟ハ同法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノト雖其ノ地方裁判所之ヲ
裁判シ控訴院ニ於テ受理シタル官廳ニ對スル民事訴訟ハ其ノ控訴院之ヲ裁判スヘシ

第八條 裁判所構成法實施前高等法院ニ於テ受理シタル刑事訴訟ハ現在ノ儘相當ノ裁判所
ニ移ルモノトス高等法院ニ於テ裁判スヘキ事件ヲ通常裁判所ニ於テ受理シタルモノモ亦
同シ

第九條 明治十八年第三十一號布告違警罪即決例ハ裁判所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコト
ナシ

第十條 明治十八年第十二號布告普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交渉ノ件處分法ハ裁判
所構成法ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十一條 明治二十一年勅令第六十四號ハ仍効力ヲ有ス
區裁判所出張所ニ於テ判事差支アルトキハ裁判所書記ヲシテ登記事務ヲ取扱ハシムルコ
トヲ得

北海道及島嶼ニシテ區裁判所遠隔ノ地方ニ於テ司法大臣ハ郡長町長又ハ村長ニ委任シテ
登記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十二條 東京地方裁判所管内小笠原島及伊豆七島ニ於テ民事刑事ノ訴訟ニシテ區裁判所
ノ裁判權ニ屬スルモノ及非訟事件ハ裁判所設置マテ島吏之ヲ取扱フ但シ刑事訴訟ノ手續
ハ便宜之ヲ取扱フコトヲ得

第十三條 沖繩縣ニ於テ民事刑事ノ訴訟及非訟事件ニシテ區裁判所及地方裁判所ノ裁判權
ニ屬スルモノハ裁判所設置マテ同縣官吏之ヲ取扱フ但シ控訴院ノ裁判權ニ屬スルモノハ
長崎控訴院ノ管轄トス

第十四條 樺戸空知釧路ノ集治監ノ囚人罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ノ裁判ニ關ル明治十五
年第十六號第四十一號及明治十八年第四十二號布告ハ仍効力ヲ有ス
前項ノ裁判ハ地方裁判所之ヲ爲シタルモノト看做ス

第十五條 明治二十一年勅令第七十一號清國並ニ朝鮮國駐在領事裁判規則ハ裁判所構成法
ノ爲ニ變更ヲ受クルコトナシ

第十六條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官ハ同法第二編第一章ノ要件ヲ必要ト
セス

第十七條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ書記ハ同法第二編第四章第八十九條ノ要件ヲ必要
トセス

第十八條 裁判所構成法實施後三年間ハ司法大臣ハ試補實地修習ノ時間ヲ一年六箇月マテ
ニ減縮スルコトヲ得

明治十七年太政官達第百二號判事登用規則及明治二十年勅令第三十七號文官試驗試補及
見習規則ニ依リ試補ト爲リタル者ハ第二回試驗ヲ要セスシテ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スル
コトヲ得

第十九條 裁判所構成法實施後一年間ハ司法大臣ハ同法第二編第二章第六十九條及第七十條ノ規程ニ拘ラス補職ヲ爲スコトヲ得

第二十條 三年以上裁判官又ハ檢察官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上舊參事院議官又ハ議官補ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上法制局參事官ノ職ヲ奉シタル者又ハ三年以上司法省高等官(會計局ノ高等官ヲ除ク)ノ職ヲ奉シタル者ハ裁判所構成法實施後一年間ハ之ヲ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得

第二十一條 裁判所構成法第二編第二章第七十四條及第七十五條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

○地方裁判所支部ノ事務ヲ取扱フヘキ判事檢事及區裁判所監督判事補

職ノ件 二十四年八月二十二日
司法省訓令第五號裁判所檢事局

地方裁判所支部ノ事務ヲ取扱フヘキ判事檢事及區裁判所監督判事補職等ノ件ニ付左ノ通り相定ム

一 地方裁判所ノ支部ヲ置ク區裁判所ノ判事又ハ檢事ヲ地方裁判所判事又ハ檢事ニ兼補シタル處自今地方裁判所判事又ハ檢事ニ兼補スルヲ止メ區裁判所ノ判事又ハ檢事ハ當然地方裁判所支部ノ事務ヲ取扱フヘキモノトス

二 區裁判所監督判事モ亦補職スルヲ止メ自今特ニ之ヲ命スルモノトス

但シ現在ノ監督判事ハ別ニ辭令書ヲ用ヒス其區裁判所判事ニ補シ其廳ノ監督ヲ命シタルモノトス

○裁判所位置及管轄區域(本編下卷第十
七類ニ掲ク)

○地方裁判所支部及管轄區域(上同)

○區裁判所出張所管轄區域(上同)

○執達吏規則二十三年七月二十四日
法律第五十一號

朕執達吏規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

法律第五十一號

● 執達吏規則

第一條 執達吏ハ區裁判所ニ屬シ法律ニ從ヒ訴訟ニ關スル書類ヲ送達シ及裁判ヲ執行スルモノトス

第二條 執達吏ハ當事者ノ委任ニ依リ左ノ事務ヲ取扱フコトヲ得

第一 告知及催告ヲ爲スコト

第二 動産不動産ノ任意競賣ヲ爲スコト

第三 拒證書ヲ作ルコト

第三條 執達吏ハ法律規則ニ定メタル職務ノ外裁判所及檢事局ノ命令ニ依リ其職務ニ應

スル事務殊ニ左ノ事務ヲ取扱フノ義務アリ

第一 書類物品ノ送付ヲ爲スコト

第二 罰金料料過料ヲ徴收シ及沒收物品ヲ取上ケ若クハ賣却スルコト

第三 令狀ノ執行ヲ爲スコト

第一類 第五章 裁判所

地方裁判所支部判事檢事及區裁判所監督判事
裁判所位置及管轄區域 地方裁判所支部及管轄區域
區裁判所出張所管轄區域 執達吏規則

第四條 執達吏ハ所屬區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ノ監督ヲ受ク
他ノ判事又ハ檢事ニシテ職務上事務ヲ命シタルトキハ其事務ニ限り執達吏ニ對シ監督權
ヲ有ス

第五條 執達吏ハ所屬區裁判所所在地ニ住居ヲ定ムヘシ但地方裁判所長ノ許可ヲ得タルト
キハ其區裁判所管轄内ニ限り他ノ地ニ住居ヲ定ムルコトヲ得

第六條 執達吏ハ所屬區裁判所所在地ニ役場ヲ設クヘシ

第七條 一區裁判所ニ數名ノ執達吏アルトキハ裁判所及檢事局ノ命令ニ依ル事務ト裁判所
書記ヲ經テ委任スヘキ事務トヲ各執達吏ニ分配スヘシ此分配ハ成ルヘク土地ノ區域ニ從
フヘシ

事務分配ハ毎司法年度ノ終ニ於テ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事前以テ之ヲ定ム
執達吏ノ爲シタル事務ハ事務分配上其事務他ノ執達吏ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其
効力ヲ失フコトナシ

第八條 執達吏ハ左ノ場合ニ於テハ其職務ノ施行ヨリ除斥セラルヘシ

- 第一 自己又ハ其婦カ當事者若クハ被害者タルトキ又ハ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被
害者ト共同權利者共同義務者若クハ償還義務者タルノ關係ヲ有スルトキ
- 第二 自己又ハ其婦カ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被害者又ハ其配偶者ト親族ナルトキ
但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖亦同シ

第三 自己カ同一ノ事件ニ付證人若クハ鑑定人ト爲リテ訊問ヲ受クルトキ又ハ法律上代
理人ト爲ルノ權利ヲ有スルトキ若クハ之ヲ有シタルトキ

第九條 執達吏ハ民事訴訟ニ付テ其婦又ハ自己若クハ其婦ノ親族ノ爲ニシテ訴訟代理人及
輔佐人トシテ法廷ニ出ルコトヲ得但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖亦同シ

第十條 執達吏ハ其職務ヲ行フヘキ命令若クハ委任ヲ受クルトキハ正當ノ理由ナクシテ之
ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 執達吏ハ特別ノ命令若クハ委任ヲ受ケタル場合ノ外自己ノ責任ヲ以テ左ニ掲ク
ル者ニ臨時其職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

- 第一 執達吏ノ登用試験ニ及第シタル者
- 第二 執達吏ノ職務修習者ニシテ三箇月以上其職務ヲ修習シタル者
- 第三 裁判所書記ノ登用試験ニ及第シタル者
- 第四 區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行フニ適當ト認
メタル者

第十二條 執達吏正當ノ理由アリテ其職務ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ之ヲ委任スルコト
ヲ得サルトキハ命令ヲ爲シタル裁判所及檢事局又ハ委任ヲ爲シタル本人ニ速ニ其旨ヲ通
知スヘシ

委任ヲ爲シタル本人ニ通知スルコト能ハサルトキ又ハ急速ノ處分ヲ要スルトキハ其旨ヲ
第一類 第五章 執達吏規則 四百九十一

區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ申立ツヘシ

第十三條 前條ノ場合其他執達吏差支アルトキハ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ第十一條ニ掲クル者ニ執達吏ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十四條 執達吏ハ一定ノ制服ヲ著スヘシ

臨時職務執行ノ委任ヲ受ケタル者ハ區裁判所ヨリ交付スヘキ鑑札ヲ携帯スヘシ

第十五條 執達吏ハ裁判所書記ヲ經タルト否トヲ問ハズ委任ヲ受ケ職務ヲ行フニ付テハ定規ノ手数料ヲ受ケ及立替金ノ辨濟ヲ受ク

執達吏ハ定規ノ手数料ヲ増減シ又ハ手数料及立替金ノ外報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 執達吏第三條ニ掲クル職務ヲ行フニ付テハ立替金ノ外手数料ヲ受クルコトヲ得ス

第十七條 執達吏第十一條ノ場合ニ於テ臨時職務執行ノ委任ヲ爲シタルトキハ其委任ヲ受ケタル者ニ報酬トシテ手数料十分ノ三以上ヲ支給スヘシ

第十八條 第十三條ノ場合ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行ヒタル者ハ其職務ニ付定メタル手数料ヲ受ケ及立替金ノ辨濟ヲ受ク

第十九條 執達吏一年間ニ收入セシ手数料百八拾圓ニ充タサルトキハ國庫ヨリ其不足額ヲ支給ス

第二十條 執達吏死亡シタルトキ又ハ停職免職若クハ勾留セラレタルトキハ區裁判所ノ一

人ノ判事若クハ監督判事ハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

第一 官印帳簿其他職務ニ關スル書類ヲ區裁判所ニ差出サシムルコト

第二 執達吏職務上保管シタル物品及ヒ書類ノ保全ニ必要ノ手續ヲ爲スコト

第二十一條 執達吏ハ官吏恩給法ニ照シ恩給ヲ受ク其恩給年額ハ第十九條ニ定メタル金額ヲ俸給額ト看做シテ算定ス

第二十二條 執達吏ハ此規則ニ依ルノ外總テ一般官吏ノ例ニ依ル

附則

第二十三條 執達吏ヲ置カサル間ハ區裁判所書記執達吏ノ職務ヲ行フ此場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ第十一條ニ掲クル者又ハ自己ノ適當ト思量スル者ニ臨時其職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

裁判所書記前項ノ委任ヲ爲シタルトキハ委任ヲ受ケタル者ニ執達吏ノ職務ニ付定メタル手数料十分ノ七以上ヲ支給スヘシ

○執達吏手数料二十三年七月二十四日法律第五十二號

朕執達吏手数料規則ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

第一類 第五章 裁判所 執達吏手数料

法律第五十二號

執達吏手数料規則

第一條 執達吏ハ此規則ニ從ヒ手数料ヲ受ク

第二條 書類送達ノ手数料ハ一通ニ付五錢トス

第三條 有體動産及未タ土地ヨリ離レサル果實竝爲替證券其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ノ差押、假差押ニ付テノ手数料ハ左ノ區別ニ從フ

執行スヘキ債權額 手数料

貳拾圓マテ 三拾錢

五拾圓マテ 五拾錢

百圓マテ 七拾五錢

貳百五拾圓マテ 壹圓

五百圓マテ 壹圓貳拾五錢

千圓マテ 壹圓五拾錢

千圓ヲ超ユルトキハ貳圓トス

若シ執務三時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ本條ニ定メタル手数料ノ十分ノ三ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

第四條 執達吏差押、假差押ヲ爲スヘキ場所ニ臨ムト雖差押フヘキ物ナキトキ又ハ差押フヘキ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ前條ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受ク

第五條 民事訴訟法第五百五十六條第二項、第五百八十六條第二項、第六百十五條ノ場合及

既ニ差押、假差押ニ著手シタル執達吏ノ死亡若クハ其他ノ理由ニ依リ委任ノ消滅シタルトキ物ヲ換價スル爲其委任ヲ引受ケタル場合ニ於テハ執達吏ハ第三條ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受ク

第六條 特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ債務者ヨリ取上ケ之ヲ債權者ニ引渡ス場合ニ於テハ其手数料ヲ五拾錢トス若シ執務二時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ拾五錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

前項ノ場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムト雖引渡スヘキ物ナキトキハ前項ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受ク

第七條 民事訴訟法第七百三十一條第一項ノ場合ニ於テハ執務三時間以内ハ手数料ヲ五拾錢トス若シ其執務三時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ拾五錢ヲ加フ但其執務一時間ニ滿タサルモ一時間ト看做シテ算定ス

前項ノ場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムト雖船舶アラサルトキハ前項ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受ク

第八條 民事訴訟法第六百四十三條第三項ニ依リ不動産ノ取調ヲ爲ス場合ニ於テハ第三條ニ定メタル區別ニ從ヒ其手数料ヲ受ク

第九條 動産、不動産及船舶ノ競賣ニ付テノ手数料ハ左ノ區別ニ從フ但競賣ニ依リ得タル金額執行スヘキ債權額ニ超過スルトキハ其債權額ヲ以テ競賣金額ト看做ス

競賣金額

手数料

貳拾圓マテ

六拾錢

五十圓マテ

壹圓

百圓マテ

壹圓五拾錢

貳百五十圓マテ

貳圓

五百圓マテ

貳圓五拾錢

千圓マテ

四圓

以上千圓毎ニ壹圓ヲ加フ

任意競賣ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十條 執達吏執行行爲ヲ爲スヘキ場所ニ臨マサル以前ニ民事訴訟法第五百五十條ニ依リ又ハ委任ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニ依リ強制執行ノ委任終了シタルトキハ各本條ニ定メタル手数料ノ十分ノ三ヲ受ク但第九條ノ場合ニ於テハ其手数料ヲ三拾錢トス

第十一條 執達吏執行行爲ヲ爲スヘキ場所ニ臨ミタル後民事訴訟法第五百五十條ニ依リ又ハ委任ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニ依リ強制執行ノ委任終了シタルトキハ各本條ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受ク但第九條ノ場合ニ於テハ其手数料ヲ五拾錢トス

第十二條 第三條乃至第十一條ノ手数料ヲ受クヘキ行爲ニハ強制執行ノ場合ニ於ケル左ノ行爲ヲ包含ス

第一 警察上ノ援助ヲ求メ又ハ證人鑑定人ノ立會ヲ爲サシムルコト

第二 執行行爲ニ屬スル催告其他ノ通知ヲ爲シ又ハ書類ノ送達ヲ爲スコト

第三 記名證券ヲ買主ノ氏名ニ書換ヘ及必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲スコト

第四 支拂其他ノ給付、差押金錢及賣却金ヲ受取り、交付シ若クハ供託シ又ハ受取證書ヲ交付シ又ハ差押物ヲ還付スルコト

第五 競賣ノ公告ヲ爲スコト

第十三條 執達吏ハ立替金トシテ左ノ費用ノ辨濟ヲ受ク

第一 書記料

第二 郵便料、電信料

第三 公告料

第四 證人、鑑定人ノ手當

第一類 第五章 執達吏手数料

- 第五 職工役夫ノ手當
- 第六 有價證券ノ記名書換及流通ヲ止メタル證券ノ流通ヲ回復スル爲ノ費用
- 第七 人及物ノ送致費用
- 第八 物ノ保存並監視ノ費用
- 第九 果實收穫ノ費用
- 第十 旅費

第十四條 前條ノ書記料ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ受ク

第一 法律ニ依リ又ハ利害關係人ノ求ニ依リ證書及記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ作リタルトキ

但法律ニ依リ交付スヘキ送達證書ノ謄本ハ此限ニ在ラス

第二 供託ヲ爲スニ際シ執行裁判所ニ差出スヘキ届書ヲ作リタルトキ

第三 差押命令ノ送達後第三債務者ノ爲ス陳述ヲ筆記シタルトキ

書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付貳錢五厘トス但十二行ニ滿タサルモ半枚ト看做シテ算定ス

第十五條 強制執行ニ關セサル告知及催告ヲ爲ストキハ其手数料拾錢ヲ受ク

第十六條 執達吏拒證書ヲ作リタルトキハ手数料拾錢ヲ受ク

拒者ノ營業場又ハ住居ノ問合ヲ爲シ拒證書ヲ作リタルトキハ手数料貳拾錢ヲ受ク

第十七條 證人ニ支給スヘキ日當ハ貳拾錢以下鑑定人ニ支給スヘキ日當ハ五拾錢以下トシ

執達吏土地ノ情況ニ從ヒ之ヲ支給ス若シ一里以上ノ地ヨリ呼出シタルトキハ第十八條ノ規定ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

第十八條 執達吏自己ノ役場ヨリ一里以上ノ地ニ至リ職務ヲ行フトキハ一里毎ニ拾錢以下ノ旅費ヲ受ク但一里ニ滿タサルモ一里ト看做シテ算定ス

右旅費ノ額ハ控訴院長ノ認可ヲ經テ地方裁判所長之ヲ定ム

第十九條 執達吏ハ總テノ事務ヲ擔任スルニ當リ手数料及立替金ノ概算額ヲ委任者ヨリ豫納セシム若シ豫納セサルトキハ委任ニ應セサルコトヲ得但裁判所及檢事局ノ命令ニ依ルトキ又ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ爲ニ事務ヲ擔任スルトキハ此限ニ在ラス

第二十條 執達吏ハ委任ノ終了シタル後手数料及立替金ノ辨濟ヲ受クヘキモノトス但民事訴訟法第五百五十四條ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラス

第二十一條 執達吏裁判所及檢事局ノ命令ニ依リ其職務ヲ行フ爲ニ要シタル立替金ハ三箇月毎ニ確定シテ之ヲ支給ス

右立替金ハ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第二十二條 訴訟上ノ救助ヲ付與シタル場合ニ於テハ執達吏ノ立替金ハ國庫ヨリ支辨ス但債務者ヨリ辨濟シ能ハサル場合ニ限ル

第二十三條 執達吏ハ其職務執行ニ付作リタル書類ノ正本又ハ謄本ニ手数料及立替金ノ額

第一類 第五章 執達吏手数料

四百九十九

ヲ附記スヘシ又執務時間ニ應シ其辨濟ヲ受クヘキトキハ調書ニ其執務時間ヲ附記スヘシ
若シ之ヲ附記セサルトキハ最短ノ時間ニ付テ定メタル金額ヲ以テ算定ス

○執達吏登用規則(明治二十三年八月一日)

明治二十三年法律第六號裁判所構成法第九十五條及九十九條ニ依リ執達吏登用規則左ノ
通相定ム

執達吏登用規則

- 第一條 執達吏ニ任セラル、ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
 - 第一 年齡滿二十五歲以上ナルコト
 - 第二 陸海軍ノ現役ヲ終ヘ又ハ之ヲ免セラレタルコト
 - 第三 身體健全ナルコト
 - 第四 家計ノ整理シタルコト
 - 第五 品行方正ナルコト
 - 第六 試験ニ及第シタルコト
- 第二條 左ニ掲クル者ハ執達吏ニ任セラル、コトヲ得ス
 - 第一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニ非ス
 - 第二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免カレサル者

第四 懲戒ノ處分ニ由リ免職セラレタル者

第三條 執達吏ノ試験ヲ受ケントスル者ハ少クトモ六箇月間區裁判所ニ於テ主トシテ執達
吏ノ職務ヲ修習シ傍ラ書記ノ職務ヲ修習スルコトヲ要ス

職務ノ修習ヲ爲ス者ハ職務上ノ祕密ヲ漏洩スヘカラス

第四條 職務修習ヲ願フニハ願書ニ兵役ニ關ル證書及履歷書ヲ添付シ之ヲ控訴院長ニ差出
シ其許可ヲ受クヘシ

第五條 職務修習ノ許可ヲ爲シタルトキハ控訴院長ハ修習者ノ屬スヘキ區裁判所ヲ指定ス
ヘシ

區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ授業ヲ擔當スヘキ執達吏及裁判所書記ヲ選定シ職
務ノ訓導ヲ爲サシムヘシ

第六條 控訴院長ハ修習者ノ行狀執達吏トナルニ不適當ナリト認ムルトキハ其修習ヲ止ム
ルコトヲ得

第七條 職務修習者試験ヲ受ケントスルニハ第一條第一乃至第五ノ諸件ヲ具備シタルコト
及第二條ノ諸件ニ觸レサルコトヲ證明シ並修習ノ日數ヲ記入シタル願書ヲ區裁判所ノ一
人ノ判事若ハ監督判事ヲ經由シテ控訴院長ニ差出スヘシ

區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ前項ノ願書ニ意見ヲ付スヘシ

第一類 第五章 執達吏登用規則

控訴院長ハ書類ヲ調査シ試験ノ許否ヲ定ムヘシ

第八條 試験ハ地方裁判所ニ於テ毎年一回之ヲ行フ

第九條 試験委員長及試験委員ハ地方裁判所及區裁判所ノ判事檢事ノ中ヨリ試験舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第十條 控訴院長ハ試験ヲ受クヘキ修習者ノ名簿ヲ試験委員長ニ送付スヘシ

前項ノ送付アリタルトキハ試験委員長ハ試験期日ヲ定メ之ヲ修習者ニ告知スヘシ

第十一條 試験ハ筆記口述ノ二様トス

口述試験ハ筆記試験ニ及第シタル者ニ之ヲ行フ

第十二條 試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

第一 民事訴訟法及治罪法ノ中書類送達及執行ニ關ル規程

第二 執達吏ニ關ル諸規則

第三 算術(加減乗除分數比例)

第四 讀書筆寫

第十三條 筆記試験問題ノ答案ハ裁判所ノ官吏監督シテ之ヲ作ラシム

試験委員長ハ受験者ノ申立アルトキハ區裁判所ニ於テ筆記試験問題ノ答案ヲ作ラシムルコトヲ得

第十四條 受験者ノ及第落第及及第者ノ優劣ハ筆記試験口述試験ノ成績ニ對スル委員過半

數ノ意見ニ從テ之ヲ決ス

及第落第ニ付テノ意見數相半スルトキハ落第ト看做スヘシ

第十五條 試験ニ及第シタル者ニハ試験委員長及試験委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス

第十六條 試験ニ落第シタル者ハ更ニ二箇月以上修習ヲ爲スニ非サレハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十七條 不正ノ方法ヲ以テ及第ヲ企テタル者ハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス其及第シタル者ハ及第ノ效ナキモノトス

第十八條 試験委員ハ試験ノ問題及成績ヲ記録ニ記載スヘシ

第十九條 試験委員長ハ及第者ノ氏名及其試験成績ヲ控訴院長ニ報告スヘシ

第二十條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セテ執達吏ニ任セラルコトヲ得

第一 官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校、司法省舊法學校又ハ帝國大學ノ監督ヲ受ケタル舊私立法學校及文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者

第二 裁判所書記ノ登用試験ニ及第シタル者

第三 判任官以上ノ職ヲ現ニ奉シ又ハ曾テ奉シタル者

第四 陸軍下士ニシテ文官奉職ヲ請願スルコトヲ得ル者

第一類 第五章 執達吏登用規則

第二十一條 第三條乃至第六條ノ規程ハ前條ニ掲ケタル者ニモ亦之ヲ適用ス

前條第四ニ該ル者ハ職務修習ノ願書ニ修習ヲ爲サントスル區裁判所ヲ記載シ陸軍大臣

ヲ經由シテ司法大臣ニ差出スヘシ司法大臣ハ願書ヲ管轄控訴院長ニ送付スヘシ

區裁判所書記ハ職務修習ヲ要セス執達吏ニ任セラレハコトヲ得(二十四年六月司法省令第六號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第二十二條 試験及第者及第二十條ニ掲ケタル者ニシテ職務修習ヲ終リタル者並ニ區裁判

所書記ヨリ轉任スル者ノ任補ハ執達吏ノ缺員アルヲ待テ控訴院長之ヲ攝行ス(同上ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第二十三條 執達吏ニ任セラレタル者ハ任補ノ日ヨリ三十日內ニ保證金ヲ管轄地方裁判

所ニ納ムヘシ若シ其期間內ニ保證金ヲ差出サハルトキハ職務ヲ罷免ス

保證金ハ五百圓以下ニ於テ土地ノ情況ニ從ヒ控訴院長之ヲ定ム

保證金ハ相當ノ價格アル公債證書若ハ日本銀行株券ヲ以テ之ニ代ユルコトヲ得

第二十四條 執達吏保證金ヲ納メタルトキハ裁判所ハ官印ヲ交付ス

執達吏ハ官印ノ交付ヲ得タル後ニ非サレハ職務ヲ行フコトヲ得ス

附則

第二十五條 本則實施ノ際ハ職務修習ヲ要セス試験及任補ヲ行フコトヲ得

○執達吏ニ交付ノ鑑札二十三年九月十八日司法省訓令第三號裁判所

執達吏規則第十四條ニ依リ區裁判所ヨリ交付スヘキ鑑札ハ左ノ通り調製スヘシ

「表

「裏

<p>○ 某區裁判所執達吏代理之證</p>	<p>○ 某區裁判所</p>
<p>〔方曲尺一寸〕</p>	<p>〔方曲尺一寸〕</p>
<p>某區裁判所印</p>	<p>某區裁判所印</p>
<p>〔烙印〕</p>	<p>〔烙印〕</p>

(「」內及印章ハ米)

木製ニシテ堅曲尺三寸幅曲尺一寸五分厚サ適宜
每札番號ヲ付シ交付ノ時々番號及年月日氏名ヲ帳簿ニ登錄シ置クヘシ
廳印ハ烙印ニシテ方曲尺一寸タルヘシ

○行政裁判法二十三年六月二十八日法律第四十八號

朕行政裁判法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第四十八號

第一類 第五章 執達吏鑑札 行政裁判法

行政裁判法

第一章 行政裁判所組織

第一條 行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條 行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 長官ハ勅任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス

長官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若クハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ内閣總理大臣ノ上奏ニ依リ任命セラル、モノトス

書記ハ長官之ヲ判任ス

第四條 長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一 公然政事ニ關係スルコト

二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若クハ參事會員タルコト

三 兼官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト

四 商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト

第五條 第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラル、コトナシ

行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官在職中前項ヲ適用ス

懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ内閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得

第七條 長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス

長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其先ナル者之ヲ代理ス

第八條 長官ハ自ら裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得

部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 行政裁判所ノ裁判ハ裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席會議ヲ要ス但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺席ノ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其後ナル者ヲ除ク

議決ハ過半數ニ依ル

第十條 長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加ハルコトヲ得ス

一 裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姉妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ

二 裁判スヘキ事件一私人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又ハ理事者代理者若クハ職務外ノ地位ニ於テ取扱ヒタルモノニ關スルトキ

三 裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ

關スルトキ

第十一條 前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ疏明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十二條 忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付キ長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ長官又ハ評定官カ法律ニ依リ評議及決議ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條 行政裁判所ノ處務規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 行政訴訟ノ辯護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所ノ認許シタル辯護士ニ限ル

第二章 行政裁判所ノ權限

第十五條 行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十六條 行政裁判所ハ損害要償ノ訴訟ヲ受理セス

第十七條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十八條 行政裁判所ノ判決ハ其事件ニ付キ關係ノ行政廳ヲ羈束ス

第十九條 行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十條 行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス

行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第二十一條 行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三章 行政訴訟手續

第二十二條 行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算並ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

第二十三條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止セス但行政廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條 行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ

第一類 第五章 行政裁判法

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一 原告ノ身分、職業、住所、年齢

二 被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告

三 要求ノ事件及其理由

四 立證

五 年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書並ニ證據書類ヲ添フヘシ

第二十六條 訴狀ニハ被告ニ送付スル爲メニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十七條 行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起ス

ヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決

書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

其訴狀ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第二十八條 行政裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告ニ送付シ相當ノ期限

ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

答辯書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十九條 行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告交互ニ辯駁

書及再度ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第三十條 行政裁判所ハ訴狀及答辯書ノ附屬文書ノ副本ヲ原告被告交互ニ送付スル代リ

ニ所内ニ於テ之ヲ閱覽セシムルコトヲ得

第三十一條 行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハラシメ

又ハ第三者ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其効力ヲ有ス

第三十二條 行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ依リ主務大臣ヨリ命シタル委員ヲシテ訴訟代

理ヲ爲サシムルコトヲ得

代理者ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明スヘシ

第三十三條 行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告被告及第三者ヲ召喚シテ審廷ヲ

開キ口頭審問ヲ爲スヘシ

原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル旨ヲ申立タル場合ニ於テハ行政

裁判所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 審廷ニ於テハ原告被告及第三者ノ辯明ヲ聽クヘシ

審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘシ

原告被告及第三者ハ事實上及法律上ノ點ニ就キ文書ニ盡サハル所ヲ補足シ又ハ誤謬ヲ更

正シ若クハ新ニ證據ヲ提出シ及證書ヲ提示スルコトヲ得

第二十五條 主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル爲メ委員ヲ命シ審廷ニ差出スコトヲ得

行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ

第三十六條 行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開ス

安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政廳ノ要求アルトキハ行政裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第三十七條 公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ言渡ス

第三十八條 行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命シ並ニ必要ト認ムル證憑ヲ徵シ證人及鑑定人ヲ召喚シ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス其義務ヲ盡サ、ル場合ニ於テ處分スヘキ科罰ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ舉證ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若クハ通常裁判所又ハ行政廳ニ囑託シテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十九條 行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審判ヲ中止スルコトヲ得

第四十條 審問手續ニ關スル故障ノ申立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

第四十一條 召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ被告若クハ第三者出廷セサルコトアルモ行政裁

判所ハ其審判ヲ中止セス

原告被告及第三者共ニ出廷セサルトキハ行政裁判所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 裁判宣告書ハ理由ヲ付シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ其謄本ニ行政裁判所ノ印章ヲ捺シ之ヲ原告被告及第三者ニ交付スヘシ

行政訴訟ノ文書ニハ訴訟用印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第四十三條 行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ナキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得

第四章 附則

第四十四條 此法律ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第四十五條 第二十條第二項ノ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之ヲ裁定ス

裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條 従前ノ法令ニシテ此法律ト牴觸スルモノハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ルモノハ仍従前ノ成規ニ依リ處分スヘシ

○行政裁判所處務規程 二十三年八月二十九日 勅令第百九十二號

第一類 第五章 行政裁判所

朕行政裁判所處務規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十二號

行政裁判所處務規程

第一條 行政訴訟各事件ノ掛評定官ハ行政裁判所長官ノ指定ニ依ル

第二條 行政裁判法第八條ニ依リ評定官ヲシテ裁判長タラシムルトキハ同法第七條第二

項ノ順序ニ從ヒ之ヲ命スヘキモノトス

第三條 裁判長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲メ掛評定官中ノ一名若ハ二名ニ專理員ヲ指命

スルコトヲ得

第四條 裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ科罰ヲ言渡シタルトキハ書記

ヲシテ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入セシム

第五條 毎年七月十一日ヨリ九月十日マテノ間ハ行政裁判所ニ於テ緊急ノ事項ト認ムル

モノ、外既ニ著手シタル訴訟ヲ中止シ並ニ新ナル訴訟ニ著手セス

第六條 行政裁判所ノ總會議ハ評定官總員三分ノ二以上列席スルニ非サレハ議決ヲ爲ス

コトヲ得ス

第七條 總會議ノ議事ハ長官之ヲ整理ス若シ長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ

者之ヲ代理ス

第八條 行政裁判所ハ訴訟ノ呼出狀及其他ノ書類ヲ使丁若ハ郵便ヲ以テ送達シ又ハ通常

裁判所ニ囑託シテ送達セシムルコトヲ得

第九條 行政裁判所ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ其職權ニ屬スル事件ニ付告示ヲ發スルコトヲ得

第十條 行政裁判所長官ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ事務取扱ノ順序方法ニ關スル規定ヲ

設クルコトヲ得

書記ノ職務ニ關スル規程ハ行政裁判所之ヲ定ム

○行政裁判所評定官ノ員數並書記ノ員數及職務 二十三年六月二十八日 勅令第九十一號

朕行政裁判所評定官ノ員數並書記ノ員數及職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十一號

第一條 行政裁判所評定官ノ定員ハ十一人トス

行政裁判所書記ノ定員ハ十五人トス

第二條 行政裁判所書記ハ行政裁判法其他法律勅令ニ於テ特定シタル事務ヲ取扱フ

第三條 行政裁判所書記ハ往復會計記錄其他庶務ニ從事ス

第四條 行政裁判所書記ハ行政裁判所長官ノ命令ニ從フ

審判ニ關シテハ裁判長ノ命令ニ從フ

○貴族院事務局官制 二十三年七月十日 勅令第九十一號

第一類 第五章 行政裁判所評定官 貴族院事務局

朕貴族院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第百二十一號

貴族院事務局官制

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ(二十四年七月二十四日勅令第九十九號ヲ以テ本條各項ヲ改正ス)

書記官長 一人

書記官 八人

屬 十五人

●參照舊令

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官 十人

試補 二人

屬 二十人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

附 則(二十四年七月二十四日勅令第九十九號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○帝國議會ノ用ニ供スル官有財産ニ關スル行政事務ノ指揮監督四年十月二十三日勅令第十五號

朕帝國議會ノ用ニ供スル官有財産ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十五號

第一條 帝國議會ノ用ニ供スル官有財産ニ關スル行政事務ハ各院書記官長之ヲ掌ル

第二條 前條ノ指揮監督ハ内務大臣之ヲ行フ

●貴族院沿革要領

明治二十二年十月勅令第百十三號ヲ以テ臨時帝國議會事務局ヲ置ク●二十三年七月勅令第百二十一號ヲ以テ貴族院事務局官制ヲ公布ス○同年八月勅令第百八十號ヲ以テ臨時帝國議會事務局ヲ廢ス

○衆議院事務局官制二十三年七月十日勅令第百二十二號

朕衆議院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第一類 第五章 貴族院事務局 衆議院事務局 帝國議會 沿革要領

勅令第二百二十二號

衆議院事務局官制

第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ(二十四年七月二十四日勅令第百號ヲ以テ本條各項ヲ改正ス)

書記官長 一人

書記官 八人

屬 十五人

●參照舊令

第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

試補

屬

十八

二人

二十人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

附 則(二十四年七月二十四日勅令第百號ヲ以テ追加ス)

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○帝國議會ノ用ニ供スル官有財産ニ關スル行政事務ノ指揮監督(貴族院ノ部ニ

掲

●衆議院沿革要領

明治二十二年十月勅令第百十三號ヲ以テ臨時帝國議會事務局ヲ置ク●二十三年七月勅令第百二十二號ヲ以テ衆議院事務局官制ヲ公布ス○同年八月勅令第百八十號ヲ以テ臨時帝國議會事務局ヲ廢ス

第六章 鐵道廳 警視廳 北海道廳 地方官

○鐵道局改稱並管轄換二十三年九月五日勅令第百九十八號

朕鐵道局改稱並管轄ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

勅令第百九十八號

鐵道局ヲ鐵道廳ト改稱シ内務大臣ノ管轄ニ屬セシム

○鐵道廳官制二十三年九月五日勅令第百九十九號

朕鐵道廳官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

第一類 第五章 衆議院事務局 帝國議會 沿革要領

第六章

鐵道廳

鐵道局

鐵道廳

勅令第九十九號

鐵道廳官制

第一條 鐵道廳ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 官設鐵道ノ布設工事並其運輸ニ關スル事項

二 私設鐵道ノ許否並其布設工事運輸及營業ノ監督ニ關スル事項

第二條 鐵道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官 一人

部長 三人

事務官 十人

參事官 一人

技師 三十八人

事務官試補 二人

技師試補 六人

屬 三百人

技手 三百八十人

驛長 百二十人

第三條 鐵道廳ニ長官官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ル

一 各部成案ノ審査公文ノ起草統計報告ノ調整ニ關スル事項

二 私設鐵道ノ許否及監督ニ關スル事項

第四條 鐵道廳ニ三部ヲ置キ其事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一部

一 官設鐵道ノ新設工事及其修理保管並車輛器械ノ製作修理保管ニ關スル事項

第二部

一 官設鐵道ノ乗客荷物運輸ニ關スル事項

第三部

一 官設鐵道ノ歲入歲出豫算決算出納並需用物品購買保管出納ニ關スル事項

第五條 官房及各部中便宜課ヲ分チ各課ニ課長一人ヲ置キ部長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理セ

シム

課長ハ事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 長官ハ勅任トス内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ鐵道廳ニ屬スル一切ノ事務ヲ統理

ス

第七條 長官ハ主管ノ事務ニ付告示ヲ發スルコトヲ得

第八條 長官ハ官設鐵道運輸上乗客荷主ニ對スル規約ヲ設定スルコトヲ得

第九條 長官ハ鐵道線路ノ廢置ニ付意見アルトキハ内務大臣ニ具申スルコトヲ得

第十條 長官ハ廳中及其所轄各部課ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十一條 長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條 長官ハ須要ニ從ヒ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十三條 長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十四條 長官ハ其廳豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十五條 長官ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ須用ノ場所ニ出張所ヲ設ケ事務官又ハ技師ヲ以テ其長トナスコトヲ得

第十六條 部長ハ勅任(二等以下奏任(二等以上)トス長官ノ命ヲ承ケ部中一切ノ事務ヲ掌理ス(二十四年七月二十四日勅令第百九號ヲ以テ括弧ノ内ノ字ヲ削除ス)

第十七條 長官故障アルトキハ席次ニ依リ部長ヲ指定シテ長官ノ事務ヲ代理セシム

第十八條 事務官及技師ハ奏任トス長官ノ命ヲ承ケ又ハ部長ノ指揮ニ從ヒ其主務ヲ掌理ス

第十九條 參事官ハ奏任トス長官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル

第二十條 事務官試補及技師試補ハ長官ノ指命スル所ニ從ヒ職務ヲ練習シ任官ヲ待ツモ

ノトス

第二十一條 屬技手及驛長ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ其主務ニ從事ス

附 則 (二十四年七月二十四日勅令第百九號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○警視廳官制

二十四年四月一日勅令第三十四號

朕警視廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

勅令第三十四號

警視廳官制

第一條 警視廳ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

警視總監

警視

技師

消防司令長

警察醫長

典獄

警部

第一類 第六章 警視廳

警視屬

技手

消防士

警察醫

監獄書記

看守長

消防機關士

第二條 總監ハ一人勅任トス

第三條 警視ハ三十六人奏任トス

第四條 消防司令長ハ一人奏任二等以下トス

第五條 警察醫長ハ一人奏任三等以下トス

第六條 典獄ハ一人奏任四等以下トス

第七條 警部警視屬消防士警察醫監獄書記ハ判任トシ看守長消防機關士ハ判任三等以下トス

警部警視屬消防士警察醫監獄書記看守長消防機關士ノ定員ハ四百十六人トシ其各官ノ定員ハ警視總監内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第八條 技師技手ハ警視廳ノ須要ニ依リ判任官俸給豫算定額内ニ於テ技術官〔官等〕俸給令

ニ依リ之ヲ置クコトヲ得(二十四年七月二十四日勅令第百十號ヲ以テ〔官等〕ノ二字ヲ削除ス)

第九條 警視總監ハ内務大臣ノ指揮監督ニ屬シ東京府下ノ警察消防及監獄ノ事務ヲ總理ス

第十條 警視總監ハ各省ノ主務ニ關スル警察事務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ高等警察事務ニ就テハ内閣總理大臣及内務大臣ノ指揮ヲ承ク

第十一條 警視總監ハ東京府下ノ警察事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ警察令ヲ發スルコトヲ得

警察令ハ特ニ施行ノ日ヲ掲グルモノヲ除クノ外官報ニ依リ部内ニ公布シタル後七日ヲ以テ施行ノ期限トス但伊豆七島ハ其島役場ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス

第十二條 警察令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消又ハ中止セラルハコトアルヘシ

第十三條 警視總監ハ其主務ニ付テハ東京府下ノ郡長及町村長ヲ指揮ス

第十四條 警視總監ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十五條 警視總監ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十六條 警視總監ハ其廳ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十七條 警視總監ハ須要ニ依リ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十八條 警視總監ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ警察署ヲ廢置スルコトヲ得

第十九條 警視總監ハ廳中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第二十條 警視總監事故アルトキハ巡查本部長其職務ヲ代理ス

第二十一條 警視ハ總監ノ命ヲ承ケテ警察ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ統督ス

第二十二條 消防司令長ハ總監ノ命ヲ承ケ水火消防ニ關スル事務ヲ掌理シ消防士以下ヲ統督ス

第二十三條 警察醫長ハ總監ノ命ヲ承ケ警察監獄ニ關スル醫務ヲ掌理シ警察醫及監獄醫ヲ統督ス

統督ス

第二十四條 典獄ハ總監ノ命ヲ承ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シ監獄書記以下ヲ統督ス

第二十五條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察ニ關スル事務ヲ分掌シ巡查ヲ指揮監督ス

第二十六條 警視屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ總監官房及各局ニ分屬シ庶務ニ從事ス

第二十七條 消防士ハ消防司令長ノ命ヲ承ケ消防組ヲ指揮監督ス

第二十八條 警察醫ハ警察醫長ノ命ヲ承ケ警察ニ關スル醫務ヲ掌ル

第二十九條 監獄書記ハ典獄ノ命ヲ承ケ監獄ニ關スル庶務ニ從事ス

典獄事故アルトキハ總監ノ命ヲ承ケ上席書記其職務ヲ代理ス

第三十條 看守長ハ典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第三十一條 消防機關士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ蒸汽唧筒ノ運用ヲ掌ル

第三十二條 巡查及看守ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十三條 警視總監官房ニ左ノ三部(一部)ヲ置ク(二十四年七月二十四日勅令第百十號ヲ以テ二部ヲ三部ニ改ム)

第一部

第二部

第三部

第三十四條 第一部ニ左ノ二課ヲ置ク其分掌左ノ如シ

第一課

一 新聞紙雜誌及政治風俗ニ關スル出版物並政社集會ニ關スル事項

第二課

一 外國人ニ關スル事項

第三十五條 第二部ニ左ノ三課ヲ置ク其分掌左ノ如シ

第一課

一 機密文書並官吏ノ進退賞罰其他身分ニ關スル事項

第二課

一 公文ノ接受發送並官印廳印ノ管守ニ關スル事項

第三課

第一類 第六章 警視廳

一 公文ノ編纂保存統計並書籍ノ管理ニ關スル事項

第三十六條 第三部ニ左ノ三課ヲ置ク其分掌左ノ如シ(二十四年七月二十四日勅令第百十號ヲ以テ本條ヲ追加ス)

第一課

一 經費豫算決算及金錢出納ニ關スル事項

第二課

一 金錢物品出納ノ検査ニ關スル事項

第三課

一 需用物品ノ調度及地所建物ニ關スル事項

一 官沒並保管ノ金錢物品及不用物品ニ關スル事項

第三十七條 警視廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メニ左ノ局部署ヲ置ク(本條ハ元三十六條ノ處同上ヲ以テ三十七條ニ改メ且會計局ノ

三字ヲ
削除ス)

警務局

(會計局)(同上ヲ以テ削除ス)

醫務局

巡查本部

消防署

監獄署

第三十八條 警務局ニ左ノ三課ヲ置ク其分掌左ノ如シ(本條ハ元第三十七條ノ處同上ヲ以テ第三十八條ニ改メ元第三十八條ハ削除ス)

第一課

一 營業及風俗警察並銃砲火藥刀劍等ニ關スル事項

第二課

一 交通警察並田野森林河海堤防取締及水火災遺流失物埋藏物等ニ關スル事項

第三課

一 衛生警察ニ關スル事項

●參照舊令

第三十八條 會計局ニ左ノ三課ヲ置ク其分掌左ノ如シ

第一課

一 經費豫算決算及金錢出納ニ關スル事項

第二課

一 金錢物品出納ノ検査ニ關スル事項

第三課

一 需用物品ノ調度及地所建物ニ關スル事項

一 官沒並保管ノ金錢物品及不用物品ニ關スル事項

第三十九條 醫務局ニ於テハ警察監獄ニ關スル醫務及分析等ニ關スル事務ヲ掌ル

第四十條 巡查本部ニ左ノ三課ヲ置ク其分掌左ノ如シ

第一類 第六章 警視廳

第一課

- 一 警察署警察分署派出所等ノ廢置及警察區畫ニ關スル事項
- 一 警察署以下處務規程及其職員ノ配置並禮式服裝ニ關スル事項
- 一 巡查召募及教習ニ關スル事項

第二課

- 一 刑事警察ニ關スル事項

第三課

- 一 警衛ニ關スル事項

第四十一條 巡查本部ニ部長及副長各一人其他ノ各局部ニ局部長一人各課ニ課長一人課僚若干人ヲ置ク

第四十二條 巡查本部長ハ奏任一等以下其他ノ局部長ハ奏任二等以下ノ警視ヲ以テ之ニ補シ巡查本副部長ハ奏任三等以下ノ警視ヲ以テ之ニ充ツ

課長課僚ハ警部又ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ

醫務局長ハ警察醫長ヲ以テ之ニ補シ警察醫ヲ以テ課僚トス

第四十三條 巡查本部長ハ警察事務ニ就キ警察署長以下ヲ指揮スルコトヲ得

第四十四條 第四十一條ノ外總監官房ニ參事官及巡視官各二人ヲ置ク(二十四年七月二十四日勅令第百十號ヲ以テ)

(參事官及巡視官トアルルヲ參事及巡視ト改ム)

參事官ハ總監ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル(二十四年七月二十四日勅令第百十號ヲ以テ(參事官)ヲ參事ト改ム)

巡視官ハ總監ノ命ヲ承ケ常ニ警察全般ヲ巡視シ其警察署ニ關スル事項ハ巡查本部長ニ報告シ其他ハ總監ニ具狀スヘシ(同上ヲ以テ(巡視官)ヲ巡視ト改ム)

參事ハ總監ノ命ヲ承ケ局部ノ事務ヲ補助スルコトアルヘシ(同上ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第四十五條 參事官巡視官ハ奏任二等以下ノ警視ヲ以テ之ニ補ス(同上ヲ以テ改正ス)

第四十六條 消防署ハ水火消防ニ關スル事務ヲ掌ル

第四十七條 消防署ニ署長一人課僚若干人ヲ置ク

署長ハ消防司令長ヲ以テ之ニ補シ課僚ハ消防士消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ

第四十八條 東京市内ニ消防分署若干ヲ置キ分署長一人課僚若干人ヲ置ク

消防分署長ハ消防士ヲ以テ之ニ補シ課僚ハ消防士消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ

第四十九條 監獄署ニ左ノ二課ヲ置ク其分掌左ノ如シ

第一課

- 一 文書ノ接受發送保存統計ニ關スル事項
- 一 囚人ノ出入名籍願訴特赦假出獄給與品差入品所有貨物ニ關スル事項
- 一 作業工錢器具材料製品ニ關スル事項
- 一 第二課ノ主掌ニ屬セサル事項

第二課

一 四人ノ戒護書信接見ニ關スル事項
一 四人ノ行狀賞罰ニ關スル事項

第五十條 監獄署ニ署長一人各課ニ課長一人課僚若干人ヲ置ク

署長ハ典獄ヲ以テ之ニ補シ第一課長及其課僚ハ監獄書記第二課長及其課僚ハ看守長ヲ以テ之ニ充ツ

第五十一條 東京府下ニ監獄支署若干ヲ置キ支署長一人課僚若干人ヲ置ク

支署長ハ監獄書記ヲ以テ之ニ補シ課僚ハ監獄書記看守長ヲ以テ之ニ充ツ

第五十二條 東京府下ニ警察署若干ヲ置キ其部内ニ便宜分署ヲ置ク

第五十三條 警察署ニ署長一人課僚若干人ヲ置ク

署長ハ奏任三等以下ノ警視ヲ以テ之ニ補シ課僚ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

第五十四條 警察分署ニ分署長一人ヲ置キ警部ヲ以テ之ニ補シ警部若干人ヲ以テ課僚ニ充ルコトヲ得

第五十五條 警視廳職員ノ外監獄醫教誨師ヲ置キ判任ノ待遇トス其定員ハ總監之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受ク可シ

附則 (二十四年七月二十四日勅令第百十號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○巡查看守待遇 (二十四年八月十日勅令第百七十號)

朕巡查看守待遇ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十號

巡查看守ハ判任官ヲ以テ待遇ス

○巡查部長ノ職ヲ置ク (二十三年三月二十八日 内務省訓令第十六號府縣(東京府ヲ除ク))

明治二十一年十月三十一日訓第六四〇號警察官吏配置及勤務概則第六章ニ依リ勤務上ノ監督ヲ補助セシムル爲巡查部長ノ職ヲ置キ月俸十圓以上ノ巡查ヲ以テ之レニ充ツルコト

ヲ得巡查部長ハ巡查ノ上班トシ警部補ニ亞クノ待遇ヲ受クヘキモノトス

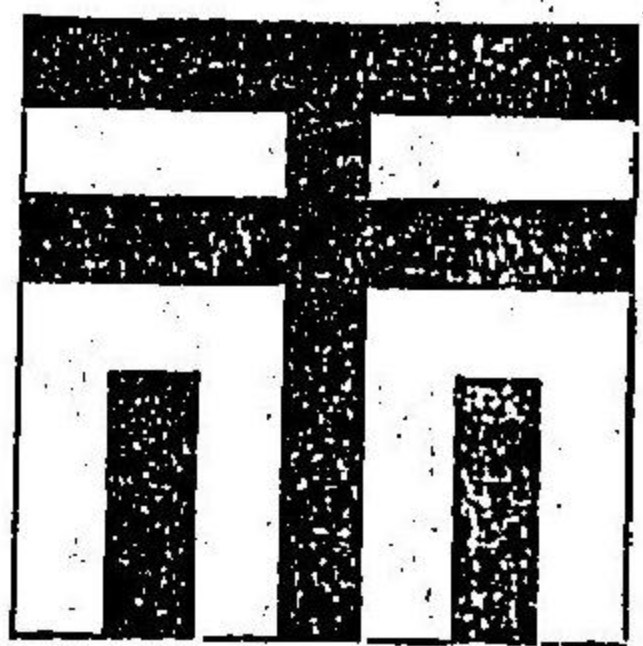
巡查部長ハ上衣並外套ノ左腕ニ左ノ雛形ノ徽章ヲ付スヘシ

(八辨)

製式

方一寸ノ白絨ニ幅一分五厘

ノ緋絨ヲ以テ之レニ縫著ス



●警視廳沿革要領

明治七年一月第六號達ヲ以テ警視廳ヲ置キ警視長正權大少警視正權大中少警部ノ職員ト爲シ官等ヲ定ム○同年同

第一類 第六章 警視廳 巡查看守 巡查部長 沿革要領

月二十七日職制章程並諸規則ヲ定メ省使東京府へ達ス○同年二月第十五號布告ヲ以テ巡查四等ヲ置キ等級ヲ定ム○同年四月八日事務章程第三章中追加ヲ内務省へ達ス○同年十月第三百三十二號達ヲ以テ假ニ司法警察事務ヲ掌ル○同年同月第三百三十六號達ヲ以テ正權大中警視ノ官等ヲ改正ス○同年十二月第六十八號達ヲ以テ警部補ヲ置ク○八年十二月内務省シ第三百六十七號達ヲ以テ東京府所轄ノ囚獄並懲役場ノ事務ヲ管セシム○九年一月第一號布告ヲ以テ東京府内賣淫取締事務ヲ管ス○十年一月第十五號達ヲ以テ警視廳ヲ廢シ更ニ内務省ニ警視官ヲ置キ尋テ警保局ヲ置ク

●十四年一月第一號達ヲ以テ再ヒ警視廳ヲ置キ本廳巡查本部警察署消防本署監獄署ノ衙署ト爲シ本廳ニ正副總監、警視五等巡查本部ニ正副巡查總長方面監督等警察署ニ一、二等警察使等消防本署ニ正副消防司令長等監獄署ニ正副典獄等ヲ置キ官等ヲ定ム○同年同月第三號達ヲ以テ職制並事務章程ヲ定メ内局及書記第一、第二ノ三局並巡查本部警察署消防本署監獄署ヲ幹理ス○十五年六月第三十七號達ヲ以テ職制中ヲ改正シ書記局ヲ廢シ會計局ヲ置ク○十八年七月第三十四號達ヲ以テ警視廳職制並事務章程ヲ改正ス○十九年一月第四號達ヲ以テ官等表へ追加ス○同年二月第九號達ヲ以テ職制中各局ノ課長及警察署長ノ項ヲ改正ス○同年五月勅令第四十二號ヲ以テ官制ヲ定ム○二十年十月勅令第四十九號ヲ以テ官制第四十九條中ヲ刪除ス○二十一年十月勅令第六十九號ヲ以テ官制中第三十一條並二別表ヲ改正ス○二十二年三月勅令第二十四號ヲ以テ官制中ヲ改正シ新ニ消防機關士ノ項ヲ加フ○二十三年四月勅令第七十四號ヲ以テ警部消防司令看守長消防機關士警部消防司令補看守副長官等俸給ヲ改正ス○二十四年四月勅令第三十四號ヲ以テ警視廳官制ヲ改正ス○同年七月勅令第十號ヲ以テ警視廳官制中ヲ改正加除ス

○北海道廳官制 二十四年七月二十四日 勅令第百一十一號

朕北海道廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第百一十一號

北海道廳官制

第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

- 長官
- 書記官
- 警部長
- 財務長
- 參事官
- 技師
- 典獄
- 屬
- 技手
- 警部
- 監獄書記
- 看守長
- 監獄醫

第二條 長官一人勅任トス

第三條 書記官二人警部長一人財務長一人參事官二人典獄一人奏任トス

第一類 第六章 北海道廳

第四條 屬警部監獄書記看守長監獄醫ハ判任トス郡區書記ヲ通シテ四百十五人ヲ以テ定員トス

前項各官ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第五條 技師技手ハ道廳ノ須要ニ依リ判任官豫算定額内ニ於テ本年勅令第八十四號技術官俸給令ニ依リ之ヲ置クコトヲ得

第六條 長官ハ内務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ北海道ノ拓地殖民並部内ノ行政事務ヲ總理ス

第七條 長官ハ屯田兵ノ開墾授産ノ事ヲ監督シ並北海道集治監ヲ管理ス

第八條 長官ハ北海道ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ廳令ヲ發スルコトヲ得

第九條 廳令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止スルコトアルヘシ

第十條 長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師團長旅團長及屯田兵司令官ニ移牒シ出兵ヲ請フコトヲ得

第十一條 長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條 長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條 長官ハ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十四條 長官ハ須要ニ從ヒ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十五條 長官ハ廳中及其所轄官廳ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十六條 北海道廳ニ長官官房ヲ置ク
長官官房ニ書記若干名ヲ置ク屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 長官官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
二 文書ノ往復
三 官印廳印ノ管守

四 記録編輯統計報告ニ關スル事項
五 外國人ニ關スル事項

第十八條 長官事故アルトキハ上席書記官其職務ヲ代理ス
第十九條 道廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メニ左ノ三部一署ヲ置ク

内務部
一 學務衛生社寺ニ關スル事項

- 二 兵事戶籍褒賞賑恤及區町村費ニ關スル事項
- 三 農工商務ニ關スル事項
- 四 地理山林ニ關スル事項
- 五 水陸運輸ニ關スル事項
- 六 漁獵ニ關スル事項
- 七 河港堤防道路鐵道橋梁排水溝渠ニ關スル事項
- 八 官衙ノ建築修繕ニ關スル事項
- 九 他部ノ主掌ニ屬セサル事項

警察部

- 一 高等警察及行政警察ニ關スル事項

財務部

- 一 金錢物品ノ管理出納ニ關スル事項
- 二 豫算決算ニ關スル事項
- 三 租稅ノ賦課徵收ニ關スル事項

監獄署

- 一 道廳監獄ニ關スル事項

第二十條 書記官ハ内務部長、警部長ハ警察部長、財務長ハ財務部長、典獄ハ監獄署長ト爲リ

各長官ノ指揮ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第二十一條 參事官ハ長官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル

參事官ハ長官ノ命ヲ承ケ内務部各課長トナリ又ハ臨時各部課ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ

第二十二條 技師ハ長官又ハ部長ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十三條 各部署中便宜課ヲ設ケ各課ニ課長一人ヲ置キ部署長ノ指揮ヲ承ケ課務ヲ掌理ス

課長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ但技師ヲ以テ之ニ充ツルコトアルヘシ

第二十四條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十六條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ヲ分掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第二十七條 監獄書記ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

典獄事故アルトキハ上席書記長官ノ命ヲ承ケ其職務ヲ代理ス

第二十八條 看守長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第二十九條 監獄醫ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ從事ス

第三十條 道廳職員ノ外敎誨師ヲ置ク判任ノ待遇トス其定員ハ長官之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 巡查及看守ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十二條 每郡若クハ數郡及每區ニ警察署ヲ置キ各警察署ノ部内ニ警察分署ヲ配置ス

警察署長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充テ警察分署長ハ戶長ヲ以テ之ニ充ツ但土地ノ情況ニ依リ

特ニ警察署又ハ分署ヲ設置シ警部ヲ以テ其署長ニ充ツルコトヲ得

第三十三條 監獄支署若干ヲ置キ書記ヲ以テ其長ニ充ツ

第三十四條 各郡區職員ヲ置ク左ノ如シ

郡長

區長

郡書記

區書記

第三十五條 郡長ハ每郡若クハ數郡ニ一人、區長ハ每區ニ一人ヲ置ク但函館區長ハ書記官

ノ内一人之ヲ兼任ス

第三十六條 郡長區長ハ奏任トス長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行

政事務ヲ掌理ス

第三十七條 郡區書記ハ判任トス郡區長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十八條 地方官官制中警察官及郡長郡書記ニ係ル條項ニシテ本令ニ抵觸セサルモノハ

北海道廳警察官及郡區長並郡區書記ニモ之ヲ適用ス

附則

第三十九條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

●參照舊令

○北海道廳官制二十三年七月五日勅令第百十九號

第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官 一人

理事官 三人

參事官 二人

技師 十三人

技師試補 三人

屬 百五十人

技手 八十人

警部警部補 四十二人

第二條 北海道廳ニ左ノ郡區官ヲ置ク

郡長 二十人

區長 二人

郡書記 百三十人

區書記 三十人

第三條 北海道廳ニ左ノ監獄官ヲ置ク

第一類 第六章 北海道廳

- 典獄 六人
- 副典獄 六人
- 書記 六十二人
- 看守長 百五人
- 監獄醫 十五人
- 第四條 長官ハ勅任トス内務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ
北海道ノ拓地殖民並部内ノ行政及警察ニ關スル一切ノ事務ヲ統理ス
- 第五條 長官ハ屯田兵ノ開墾授産ノ事ヲ監督ス
- 第六條 長官ハ北海道ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ廳令ヲ發スルコトヲ得
- 第七條 廳令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止スルコトアルヘシ
- 第八條 長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師團長旅團長及屯田兵司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得
- 第九條 長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス
- 第十條 長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス
- 第十一條 長官ハ須要ニ從ヒ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得
- 第十二條 長官ハ一週年末ニ其廳豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

- 第十三條 長官ハ毎年所轄事業ノ情況及其處務ノ方法並功程ヲ具ヘ内務大臣ニ報告スヘシ
- 第十四條 長官ハ一郡若クハ數郡及毎區ニ警察署ヲ置キ郡區長ヲ以テ署長ニ充テ管内一切ノ警察ヲ掌ラシメ又各警察署ノ部内ニ於テ警察分署ノ配置分合ヲ定ムヘシ
- 第十五條 長官ハ廳中及其所轄官廳ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得
- 第十六條 理事官ハ奏任トス長官ノ命ヲ承ケ各其主務ヲ掌理ス長官事故アルトキハ上席理事官其職務ヲ代理ス
- 第十七條 參事官ハ奏任トス長官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル
參事官ハ臨時命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ
- 第十八條 技師ハ奏任トス長官又ハ部長ノ命ヲ承ケ各其技術ニ從事ス
- 第十九條 技師試補ハ長官ノ任命スル所ニ從ヒ職務ヲ練習シ任官ヲ待ツモノトス
- 第二十條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ各庶務ニ從事ス
- 第二十一條 技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
- 第二十二條 警部ハ判任一等以下五等以上トシ警部補ハ判任六等トス長官又ハ警察署長ノ指揮監督ヲ承ケ各其主任ニ屬スル警察事務ヲ掌リ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス
- 第二十三條 郡長ハ每郡若クハ數郡ニ一人區長ハ每區ニ一人ヲ置キ奏任四等以下トス長官ノ命ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ兼テ郡區警察署長ト爲リ警部警部補ヲ指揮監督ス
- 第二十四條 郡區書記ハ判任三等以下トス郡區長ノ命ヲ承ケ各庶務ニ從事ス
- 第二十五條 典獄ハ奏任三等以下判任二等以上トス長官又ハ部長ノ命ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮監督ス
- 第二十六條 副典獄ハ判任一等以下四等以上トス典獄ノ事務ヲ佐ク典獄事故アルトキハ其職務ヲ代理ス
- 第二十七條 書記ハ判任二等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ各庶務ニ從事ス

第二十八條 看守長ハ判任二等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮ス
 第二十九條 監獄醫ハ判任トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ從事ス
 第三十條 北海道廳ノ事務ヲ分掌スル爲メ左ノ各部ヲ置キ理事官ヲ以テ部長ト爲ス

第一部

- 一 職員ノ進退文書ノ往復ニ關スル事項
- 二 官印廳印ノ管守ニ關スル事項
- 三 記録編輯統計報告ニ關スル事項
- 四 學務衛生社寺ニ關スル事項
- 五 警察監獄ニ關スル事項
- 六 兵事戸籍發賣賸恤及區町村費ニ關スル事項
- 七 外國人ニ關スル事項
- 八 他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第二部

- 一 農工商務ニ關スル事項
- 二 地理山林ニ關スル事項
- 三 水陸運輸ニ關スル事項
- 四 漁獵ニ關スル事項
- 五 河港堤防道路鐵道橋梁排水溝渠ニ關スル事項
- 六 官衙ノ建築修繕ニ關スル事項

第三部

- 一 金錢物品ノ管理出納ニ關スル事項
- 二 豫算決算ニ關スル事項
- 三 國稅地方稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
- 第三十一條 各部中便宜課ヲ設ケ各課ニ課長一人ヲ置キ部長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス
 課長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ但技師ヲ以テ之ニ充ツルコトアルヘシ
- 第三十二條 地方官官制中警察官及郡區官ニ係ル條項本令ニ抵觸セサルモノハ北海道廳警察官及郡區官ニモ之ヲ適用ス

○札幌農學校官制

二十四年七月二十四日 勅令第四百四十二號

朕札幌農學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四百四十二號

札幌農學校官制

第一條 札幌農學校ハ北海道廳長官ノ管理ニ屬シ農業ニ關スル學術技藝ヲ教授スル所トス
 本校ハ當分生徒中ヨリ屯田兵士官出身志願者ヲ選ヒ屯田兵士官ニ要スル軍事上ノ學術
 技藝ヲ教授シ又屯田兵豫備下士ニ屯田兵豫備將校ニ要スル軍事上ノ學術技藝ヲ教授ス
 第二條 札幌農學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

一人

奏任

第一類 第六章 北海道廳 札幌農學校

教授 八人 奏任

助教授 十八人 判任

舍監 專任一人 奏任

書記 六人 判任

技手 六人 判任

第三條 學校長ハ北海道廳長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 教授ハ生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ教授ノ職掌ヲ助ク

第五條 舍監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第六條 書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第七條 技手ハ上官ノ命ヲ承ケ學科ニ關スル技術ニ従事ス又特ニ授業ヲ助ケシムルコトアルヘシ

アルヘシ

第八條 北海道廳長官ハ校務上ノ須要ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得テ教官ノ外外國教師ヲ

雇入ル、コトヲ得又學校長ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ俸給豫算定額内ニ於テ講師ヲ

囑託シ又ハ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第九條 北海道廳長官ハ校務上ノ須要ニ依リ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ

北海道廳長官之ヲ命ス

附則

第十條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○北海道集治監官制 二十四年七月二十四日 勅令第百八號

朕北海道集治監官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第百八號

北海道集治監官制

第一條 北海道集治監ニ左ノ職員ヲ置ク

典獄

分監長

書記

看守長

監獄醫

第二條 典獄一人奏任トス北海道廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第三條 典獄ハ所屬ノ官吏ヲ監督シ判任官以上ノ進退ハ北海道廳長官ニ具狀シ看守以下

ハ之ヲ專行ス

第四條 典獄ハ臨時ノ須要ニ依リ判任官以下俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコト

第一類 第六章 北海道廳 北海道集治監

ヲ得

第五條 典獄ハ北海道集治監豫算定額内ニ於テ判任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スル
コトヲ得其判任官ニ係ルモノハ北海道廳長官ニ具狀シ看守以下ニ係ルモノハ之ヲ專行
ス

第六條 典獄ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所屬官吏ヲ懲戒ス其判任官以上ニ係ルモノハ
北海道廳長官ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第七條 分監長三人奏任トス各分監ノ長トナリ典獄ノ指揮監督ヲ承ケ分監ノ事務ヲ掌理
ス

本監及分監ノ廢設並其位置ハ内務大臣之ヲ定ム

第八條 典獄事故アルトキハ上席分監長北海道廳長官ノ命ヲ承ケ其事務ヲ代理ス

第九條 書記ハ判任トス本監及分監ニ分屬シ典獄又ハ分監長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條 看守長ハ判任トス本監及分監ニ分屬シ典獄又ハ分監長ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ
掌リ看守ヲ指揮監督ス

第十一條 監獄醫ハ判任トス本監及分監ニ分屬シ典獄又ハ分監長ノ命ヲ承ケ監獄ニ係ル
醫務ニ從事ス

第十二條 書記ハ三十一人看守長ハ六十一人監獄醫ハ八人ヲ以テ定員トス

第十三條 看守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十四條 事務ノ分課並處務ノ規程ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第十五條 監獄職員ノ外敎誨師六人以下ヲ置ク判任ノ待遇トス

附則

第十六條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○北海道集治監位置 二十四年七月三十日
内務省告示第三十五號

北海道集治監官制第七條第二項ニ據リ本監ヲ樺戸ニ置キ分監ヲ空知、釧路、網走ニ設置ス

●北海道廳沿革要領

明治元年四月十二日函館裁判所ヲ置キ蝦夷開拓事務ヲ管ス○同年閏四月十二日函館裁判所ヲ改メテ箱館府ト爲ス●
二年七月八日開拓使ヲ置キ職制ヲ定メ職員ヲ長官、次官、正權判官、正權大少主典、史生ト爲ス○同年同月十三日長官ノ
官等ヲ諸省卿同等ト爲ス○同年同月二十日官位相當表ヲ改ム○同年同月二十四日箱館府ヲ廢ス○同年八月十五日蝦
夷地ヲ北海道ト稱シ十一ヶ國八十五郡ヲ置ク○同年同月某日海關ヲ函館、手宮、釧路、幌泉ノ四所ニ置ク●三年二月十
三日樺太ニ開拓使ヲ置ク○同年三月十二日各地方ニ在ル函館產物會所ヲ管ス○同年四月五日正權監事ヲ置ク○同年
七月某日北海道產物取締所ヲ那珂下關撫養新編、石卷等ノ地ニ置ク○同年閏十月九日函館病院ヲ大學東校ニ屬ス○
同年同月十一日東京ニ出張所ヲ置ク○同年同月十七日北海道產物取締所ヲ廢ス●四年七月某日事務權限ヲ定ム○同
年八月七日樺太開拓使ヲ本使ニ併ス同年同月十日官等ヲ改定ス○同年十一月十四日官園ヲ東京ニ設ク●五年正月第
十六號ヲ以テ官等表ヲ改定ス○同年六月第九十號ヲ以テ室蘭厚岸ニ海關ヲ設ケ幌泉海關ヲ廢ス手宮海關ヲ小樽港
ト改稱ス○同年八月第二三十四號ヲ以テ官等表ヲ改メ長官、次官、大中少判官、正權幹事、正權大中少主典ト爲ス○同
年九月十四日函館根室、宗谷、浦河樺太ニ支廳ヲ置ク○同年同月二十日假ニ學校ヲ東京芝山内ニ設ク○同年同月第二
百八十九號ヲ以テ渡島國江差港ニ海關ヲ置ク●六年二月十五日松前ニ出張所ヲ置ク○同年同月二十五日宗谷支廳ヲ
第一類 第六章 北海道廳 北海道集治監 沿革要領 五百四十九

留萌郡ニ移シ留萌支廳ト改稱ス●七年五月十四日浦河支廳ヲ廢ス○同年十月第百三十二號達ヲ以テ假ニ司法警察事務ヲ管ス○同年同月第百三十九號達ヲ以テ邏卒長邏卒檢官五等及邏卒部長ヲ置キ官等ヲ定ム●八年三月第三十七號布告ヲ以テ北海道屯田憲兵ヲ設ケ職員ヲ准陸軍大中少佐大中少尉等ト爲シ官等ヲ定ム○同年同月十三日留萌支廳ヲ廢ス○同年同月十五日開拓使達ヲ以テ屯田事務局ヲ置ク○同年八月七日在東京開拓使學校ヲ札幌ニ移ス○同年同月十五日函館稅關事務ヲ大藏省ニ屬ス○同年十一月第百六十四號布告ヲ以テ樺太島ヲ魯西亞國ニ屬シ「クリル」島ヲ我國ニ屬ス○同年同月第百八十號布告ヲ以テ魯西亞國ト交換ノ「クリル」諸島ヲ管ス○同年十二月第百二十七號達ヲ以テ十一月二十五日職制及事務章程改定ノ旨ヲ示ス●九年二月第十號達ヲ以テ邏卒長以下ノ官名等級ヲ改メ警部六等警部補巡查四ト爲ス●十年一月第四號達ヲ以テ四等官以下等級ヲ改ム○同年同月第二十三號達ヲ以テ正權大中少判官幹事並主典以下ヲ廢シ正權大少書記官屬官及警部十等巡查四等ヲ改メ置ク准陸軍武官故ノ如シ○同年八月第五十六號ヲ以テ准陸軍少尉試補ヲ置キ官等月俸ヲ定ム●十三年十二月第六十號達ヲ以テ職制並事務章程ヲ改定ス●十五年二月第八號布告ヲ以テ開拓使ヲ廢シ函館札幌根室ノ三縣ヲ置ク●十九年一月第一號布告ヲ以テ函館札幌根室三縣並北海道事務管理局ヲ廢シ更ニ北海道廳ヲ札幌ニ支廳ヲ函館根室ニ置ク○同年同月第六號達ヲ以テ北海道廳官制ヲ定メ長官理事官屬ノ職員並警部長警部警部補ノ警察官郡區長郡區書記ノ郡區官正副典獄書記看守長ノ監獄官技師技手ノ技術官及農學校長幹事教授助教ノ學務官ト爲ス○同年十二月閣令第三十七號ヲ以テ函館根室支廳ヲ廢ス○同年同月勅令第八十三號ヲ以テ北海道廳官制ヲ改正ス○同年同月勅令第八十四號ヲ以テ札幌農學校官制ヲ定ム●二十二年一月勅令第四號ヲ以テ札幌農學校官制中改正○同年二月勅令第九號ヲ以テ官制中改正○同年八月勅令第百五號ヲ以テ札幌農學校官制中改正○同年十二月閣令第二十九號ヲ以テ北海道鐵道事務所官制ヲ廢ス●二十三年七月勅令百十九號ヲ以テ北海道廳官制ヲ改正ス●二十四年一月勅令第六號ヲ以テ札幌農學校官制中ヲ改正ス○同年七月勅令第百八號ヲ以テ北海道集治監官制ヲ定ム○同年同月勅令第百一十一號ヲ以テ北海道廳官制中ヲ改正ス○同年同月勅令第百四十二號ヲ以テ札幌農學校官制中ヲ改正ス

○地方官官制

二十三年十月十五日勅令第百二十五號

朕地方官官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第百二十五號

地方官官制

第一條 各府縣ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

知事

書記官

警部長

收稅長

參事官

技師

典獄

屬

技手

警部

收稅屬

第一類 第六章 地方官

監獄書記

看守長

第二條 知事一人勅任トス

第三條 書記官一人奏任トス

第四條 警部長收税長各一人奏任二等以下トス

第五條 參事官二人奏任三等以下トス

第六條 典獄一人奏任四等以下トス

第七條 屬警部收税屬監獄書記ハ判任トシ看守長ハ判任三等以下トス

判任官ハ各府縣ヲ通シテ左ノ人員ヲ以テ定員トス

屬警部監獄書記看守長

五千五百二十五人

〔六千二百九十六人〕ヲ五

千五百二十五人ニ改ム

〔二十四年七月二十四日勅令第百十二號ヲ以テ

〔六千二百九十六人〕ヲ五

千五百二十五人ニ改ム

〔同上ヲ以テ〔五千六百六

收税屬

四千九百二十八人

〔五千六百六人〕

人〕ヲ四千九百三十八人

ニ改ム

屬警部監獄書記看守長ノ每府縣ノ定員ハ内務大臣之ヲ定メ其各官ノ定員ハ府縣知事内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

收税屬ノ每府縣ノ定員ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八條 技師技手ハ府縣ノ須要ニ依リ判任官俸給豫算定額内ニ於テ技術官〔官等〕俸給令ニ依

リ之ヲ置クコトヲ得〔二十四年七月二十四日勅令第百十二號ヲ以テ官等ノ二字ヲ削ル〕

第九條 知事ハ内務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ

法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ總理ス

第十條 知事ハ部内ノ行政事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於

テ管内一般又ハ其一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

府縣令ハ特ニ施行ノ日ヲ掲グルモノヲ除クノ外官報其他特ニ定ムル方法ニ依リ部内ニ公

布シタル後七日ヲ以テ施行ノ期限トス但島地ハ其所轄島廳若クハ郡役所ニ到達シタル翌

日ヨリ起算ス

第十一條 府縣令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯ス

モノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止セラルコトアルヘシ

第十二條 知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師

團長若クハ旅團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第十三條 知事ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣及主務大臣ニ具狀シ判任官

以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第十四條 知事ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之

ヲ内務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十五條 知事ハ其廳ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ

得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十六條 知事ハ須要ニ依リ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十七條 知事ハ廳中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十八條 知事事故アルトキハ書記官其職務ヲ代理ス

第十九條 知事官房ヲ置ク

知事官房ニ書記若干名ヲ置ク屬ヲ以テ之ニ充ツ

第二十條 知事官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 官吏ノ進退身分ニ關スル事務

一 文書ノ受付

一 官印府縣印ノ管守

一 外國人ニ關スル事務

第二十一條 府縣ノ事務ヲ分掌セシムル爲メニ左ノ二部三署ヲ置ク

内務部

警察部

直稅署

間稅署

監獄署

第二十二條 書記官ハ内務部長、警部長ハ警察部長、收稅長ハ直稅署長及間稅署長、典獄ハ監

獄署長トナリ各知事ノ命ヲ承ケテ部下ノ官吏ヲ統督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第二十三條 内務部ニ左ノ四課ヲ置ク其分掌左ノ如シ

第一課

一 議員選舉及府縣會、郡會、市町村會、公共組合會等ノ會議ニ關スル事項

一 府縣稅、備荒儲蓄並郡市町村ノ經濟ニ關スル事項

一 右ノ外他課ノ主管ニ屬セサル事項

第二課

一 農工商務及土木ニ關スル事項

一 官有地及土地收用ニ關スル事項

第三課

一 學務、衛生、兵事、社寺及戶籍ニ關スル事項

第四課

一 府縣費ノ會計ニ關スル事項

一 府縣稅及備荒儲蓄ノ收支出納ニ關スル事項

第二十四條 警察部ハ高等警察及行政警察ノ事務ヲ掌ル

第二十五條 直稅署ハ直稅ノ賦課租稅ノ徵收及徵稅費ニ關スル事務ヲ掌ル

第一類 第六章 地方官

間稅署ハ間稅ノ賦課及間稅犯則者處分ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十六條 監獄署ハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十七條 參事官ハ知事ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル

參事官ハ知事ノ命ヲ承ケテ内務部各課長トナリ又ハ臨時各部課ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ

第二十八條 内務部各課長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ但參事官兼掌スル場合ハ此限ニ在ラス

第二十九條 警察部直稅署間稅署監獄署ノ事務ノ分課ハ知事之ヲ定メ主務大臣ニ報告ス可シ

第三十條 前諸條ニ定ムルノ外臨時ノ事件アルトキハ知事ニ於テ便宜其主掌ノ部課ヲ指定ス可シ

第三十一條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ内務部各課及知事官房ニ分屬シ庶務ニ從事ス

第三十二條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ヲ分掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第三十三條 收稅屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ直稅署間稅署各課ニ分屬シ庶務ニ從事ス

第三十四條 監獄書記ハ典獄ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

典獄事故アルトキハ上席書記知事ノ命ヲ承ケテ其職務ヲ代理ス

第三十五條 看守長ハ典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第三十六條 各郡市ニ警察署ヲ置キ警察署ノ下其部内ニ於テ警察分署ヲ配置ス

京都市大阪市ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ二箇以上ノ警察署ヲ設クルコトヲ得

警察署長及警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

第三十七條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十八條 府縣内須要ノ地ニ直稅分署及間稅分署ヲ配置ス其配置及管轄區域ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條 直稅分署長及間稅分署長ハ收稅屬ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 府縣職員ノ外監獄醫及教誨師ヲ置キ判任ノ待遇トス其定員ハ知事之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第四十一條 東京府ノ警察及監獄ニ關スル事項ハ警視廳官制ニ依ル

第四十二條 各郡職員ヲ置ク左ノ如シ

郡長

第四十三條 郡長一人奏任三等以下トス

第四十四條 郡書記ハ判任トス其定員ハ知事之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第四十五條 郡長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス

第四十六條 郡長ハ法律命令ヲ以テ委任シ及知事ヨリ特ニ分任スル條件ハ便宜施行スルコトヲ得

トヲ得

第四十七條 郡長ハ行政事務ニ就テ其部内町村ノ町村長ヲ指揮シ其公同事務ニ就テハ之ヲ監督ス

第四十八條 郡長ハ郡書記ノ任免ヲ知事ニ具申ス

第四十九條 郡長ハ法律命令若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付警察規則ヲ發スルコトヲ得

但特ニ施行ノ日ヲ掲グルモノヲ除クノ外地方ノ慣行若クハ特ニ定ムル方法ニ依リ部内ニ公布シタル後七日ヲ以テ施行ノ期限トス

第五十條 郡ノ警察規則ハ知事及内務大臣主務大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止セラレ、コトアルヘシ

第五十一條 郡書記ハ郡長ノ命ヲ承ケテ庶務ヲ分掌ス

郡長事故アルトキハ上席郡書記知事ノ命ヲ承ケテ其職務ヲ代理ス

第五十二條 勅令ヲ以テ指定スル所ノ島地ニ特ニ島廳ヲ置ク

第五十三條 島廳職員左ノ如シ

島司

島廳書記

第五十四條 島司一人奏任二等以下トス

第五十五條 島廳書記ハ判任トス其定員ハ其府縣判任官ノ定員内ヲ以テ知事之ヲ定ム

第五十六條 島司ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ部内ノ行政事務ヲ掌理シ知事ヨリ委任スル事項ハ便宜施行スルコトヲ得

第五十七條 島司ハ第四十九條ニ依リ警察規則ヲ發スルコトヲ得

前項ノ警察規則ニ付テハ第五十條ヲ適用ス

第五十八條 島司ハ島廳書記ノ任免ヲ知事ニ具申ス

第五十九條 島司ハ行政事務ニ就テハ其部内町村ノ吏員ヲ指揮監督ス

第六十條 島廳書記ハ島司ノ命ヲ承ケテ庶務ヲ分掌ス

島司事故アルトキハ上席島廳書記知事ノ命ヲ承ケテ其職務ヲ代理ス

附 則 (二十四年七月二十四日勅令第百十二號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○地方官御料地ヲ管理ス 二十三年六月三日勅令第八十八號

朕地方官ヲシテ御料地ヲ管理セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

勅令第八十八號

地方長官ハ宮内大臣ノ委託ニ由リ御料地ヲ管理スヘシ其管理ニ係ル費用ハ皇室ノ支辨トス

○稟請ヲ要セス處分後報告スヘキ條件

十九年三月十二日 內務省令第一號

自今左ニ掲ル條件ハ稟請ヲ要セス處分シテ後報告スヘシ但報告期限ハ別ニ之ヲ定ム(左ニ掲ル項目二十二項ノ處二十四年七月廿四日內務省令第八號ヲ以テ第五項ヨリ第十四項迄并ニ二十項二十一項ヲ創除ス)

- 一 恤救規則心得第八條一家數人救助ノ事
- 一 國縣道道幅取擴ノ事
- 一 社寺由緒アル地所建物處分ノ事
- 一 社寺創立再興等建設延期ノ事
- 一 阿片賣買特許藥舖鑑札下付ノ事
- 一 阿片製造鑑札下付ノ事
- 一 劇藥配伍ノ賣藥許否ノ事
- 一 避病院開設ノ事
- 一 檢疫委員設置ノ事
- 一 府縣官舎ノ內官宅警察署郡區役所等建築ノ事

○官有山林原野稟請ヲ要セス處分後報告スヘキ條件(日本規則全)

●府縣沿革要領

明治元年閏四月二十一日地方ヲ府藩縣ノ三治ニ分チ府縣ニ知府專正權判府專ヲ置キ縣ニ治縣專判縣專ヲ置キ藩ハ始ク舊ニ仍ル○同年十月二十八日藩治職制ヲ定メ執政、參政、公議人及家知事ヲ置ク○同年十二月二十三日縣官ヲ假

定シ權知縣專、權判縣專及調役書記筆生、捕亡ヲ置ク●二年六月十七日藩ニ知藩專ヲ置ク○同年七月八日府藩ニ知專正權大少參事縣ニ知事大少參事ヲ置キ職員令ヲ定ム○同年同月某日府縣奉職規則ヲ定ム○同年八月二十日官位相當ヲ更定シ縣ニ權知事及府縣ニ正權大少屬並史生ヲ置ク○同年十二月八日府ニ正權典事ヲ置ク●三年九月十日藩制ヲ釐革シ分テ大中小ノ三等ト爲シ十五方石以上大藩五方石以上中藩一方石以上小藩知事、正權大正參事、正權大少屬並史生、廳掌使部ヲ置キ職制ヲ定ム○同年九月十三日府縣廳掌ヲ置ク●四年正月二十二日縣ニ權大參事ヲ置ク○同年七月十四日從前ノ藩藩廳ニテ更ニ縣ヲ置ク○同年十一月二日縣知事ヲ縣令ト改稱ス○同年同月二十二日府縣ノ制ヲ改メ三府七十二縣ト爲ス是ニ於テ郡縣ノ制始メテ定マル○同年同月二十七日府縣官官等ヲ更定シ府ニ正權知事、縣ニ正權令及府縣ニ正權參事典事大少屬等ヲ置キ開港場アル縣令ハ勅任トス是日又縣治條例及事務章程ヲ定ム○同年十二月三日開港場アル權知事ヲ勅任トス等級故ノ如シ○同年同月十九日府縣奉職規則ヲ廢ス○同年同月二十三日府縣廳掌ヲ置キ等級ヲ定ム●五年正月第十六號ヲ以テ府縣官官等ヲ改定ス○同年三月大藏省第三十三號ヲ以テ府縣典事或ハ屬員ノ內一人郵便御用掛ヲ兼務セシム○同年四月大藏省第五十一號ヲ以テ府縣郵便御用掛事務心得方ヲ定ム○同年同月第十七號ヲ以テ庄屋名主年寄ノ稱ヲ廢シ更ニ正副戶長ヲ置ク○同年九月第二十九號ヲ以テ七尾縣ヲ廢シ石川新川兩縣ニ分屬ス○同年同月第二十九號ヲ以テ犬上縣ヲ廢シ滋賀縣ニ併ス○同年十一月第三十七號ヲ以テ額田縣ヲ廢シ愛知縣ニ併ス●六年一月第十二號ヲ以テ足羽縣ヲ廢シ敦賀縣ニ併ス○同年同月第十四號ヲ以テ八代縣ヲ廢シ白川縣ニ併ス又第十五號ヲ以テ美々津都城ノ二縣ヲ廢シ宮崎縣ヲ置ク○同年二月第五十九號ヲ以テ香川縣ヲ廢シ名東縣ニ併ス又第六十號ヲ以テ神山石鏡ノ二縣ヲ廢シ更ニ愛媛縣ヲ置ク○同年六月第九十七號ヲ以テ柏崎縣ヲ廢シ新潟縣管理ト爲ス○同年同月第二十四號ヲ以テ宇都宮縣ヲ廢シ栃木縣ニ併セ印旛木更津入間群馬ノ四縣ヲ廢シ更ニ千葉熊谷ノ二縣ヲ置ク○同年同月第二十五號ヲ以テ各地方遷卒又ハ取締組捕亡吏等ノ名稱ヲ以テ其實番人ノ職ヲ奉シ居ル類ハ總テ番人ト改稱ス○同年八月第二十八號ヲ以テ府縣ノ正權典事ヲ廢シ更ニ正權大中屬ヲ置キ官官等ヲ定ム少屬以下ハ舊ニ依ル○同年十月第三十四號ヲ以テ府縣官大屬以下ノ職掌ヲ改定ス○同年十二月第三百九十九